

平成 26 年度

岩手県立博物館

年報



# 平成 26 年度博物館年報



仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設開所式  
平成 26 年 5 月 1 日（木）

目で見る岩手県立博物館この1年



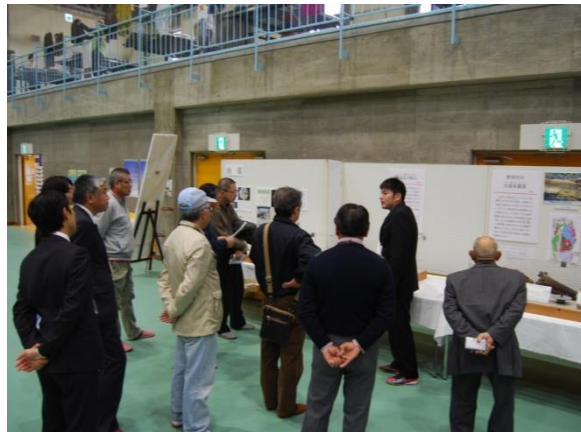
テーマ展「比爪ーもう一つの平泉ー」  
平成26年3月15日(土)～5月11日(日)



第65回企画展 八戸立藩三百五十年記念  
「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子  
～二代藩主南部直政と生母霊松院～」  
平成26年6月28日(土)～8月17日(日)



テーマ展「新指定文化財展 2010-2014」  
平成26年10月4日(土)～11月24日(月)



移動展「文化・芸術が集うとき in 野田村」  
平成26年10月30日(木)～11月2日(日)  
野田村立体育館



テーマ展「漆絵のデザイン  
～浄法寺塗菓子盆の魅力～」  
平成26年12月20日(土)～平成27年2月22日(日)



テーマ展「クマゲラの世界  
～未知なる生態に迫る～」  
平成27年3月14日(土)～5月31日(日)



県博バックヤードツアー  
(国際博物館の日関連事業)  
平成26年5月18日(日)



博物館館園実習  
平成26年8月21日(木)～8月28日(木)



第6回博物館まつり  
平成26年9月23日(火) 秋分の日



冬休みワクワク!ワークショップ  
平成27年1月9日(金)・10日(土)



文化財等取扱講習会  
平成27年2月4日(水)～2月6日(金)



冬期文化講演会「世界遺産の現状と取り組み」  
講師：西和彦氏  
(文化庁世界文化遺産室文化財調査官)  
平成27年2月5日(木)

## 目次

目で見る岩手県立博物館この1年

刊行に当たって	1
1. 沿革	2
2. 施設の概要	3
3. 博物館協議会	5
4. 予算	5
5. 事業の概要	6
(1) 展示活動	6
(2) 教育普及活動	14
(3) 調査研究活動	34
(4) 資料収集保管活動	46
(5) 総務企画調整	54
6. 文化財レスキュー活動	58
7. 岩手県立博物館友の会	62
8. 博物館入館者利用状況	64
9. 組織及び職員構成	66
10. 岩手県立博物館使命書	67
11. 関係条例・規則等	68

## 刊行にあたって

岩手県立博物館は昭和 55 年の開館以来、県民の学術文化の重要な拠点の一つとして皆様から日頃温かい御支援と御協力を賜っておりますことに、深く感謝申し上げます。

東日本大震災津波から 4 年が経過しましたが、当館では昨年 3 月末に完成した仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設を中心に、現在もなお被災文化財等再生作業を続けており、その様子を来館者に御覧頂いております。また、平成 25 年度に江戸東京博物館等で開催した津波と被災文化財等の再生に関する特別展を、当館が中核館となって日本博物館協会や東京国立博物館の御協力の下、文化庁の助成金を得て



宮崎県総合博物館・兵庫県立歴史博物館・東京国立博物館で開催し、文化財修復の困難さ、文化財の重要性を全国に発信しました。

平成 26 年度の活動の中で、展示活動におきましては、八戸立藩 350 年を記念して企画展「ふるさとは岩手～八戸藩の礎なった母と子～」を開催し、二代藩主南部直政と生母霊松院に焦点を合わせた展示を行い、ゆかりのある紫波町、岩手町、岩泉町の方々を中心とする多くの来館者をお迎えしました。テーマ展「新指定文化財展」は、2010 年 4 月から 2014 年 6 月までの約 4 年間の新しい指定文化財を紹介し、岩手の宝である文化財の素晴らしさを再認識する機会となるよう努めました。「漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～」は、ふだん使いの簡素な漆器を中心に展示し、描かれた漆絵の分類・特徴などからその魅力を紹介しました。年度末から開催しております「クマゲラの世界」は、国の天然記念物である日本最大のキツツキ『クマゲラ』の生態と現状を紹介し、生息環境の保護・保全の在り方を考える展示で、子供から大人まで幅広い年代層の方に御覧頂いております。また、懸案でありました常設展示の近現代分野の充実に向け、明治時代から大正時代へ、太平洋戦争、東日本大震災と被災文化財等救援活動の新コーナーを設置しました。

教育普及活動におきましては、日曜講座をはじめとした各種講演会、観察会、現地見学会、チャレンジ!はくぶつかんやたいけん教室等の子ども向け事業も多くの参加者を集め、満足度の高い評価を得ております。学校教育との連携強化は、遠隔地で利用が困難な学校に当館収蔵資料をデジタル化して教材として提供する岩手デジタルミュージアム構築事業の推進に取り組みました。平成 27 年度には、事業が完成しますので御期待下さい。

調査研究活動につきましては、研究テーマの見直しを行いながら成果をあげ、学術研究集会や各種学会誌上等での発表に加え、当館刊行の『研究報告』等で広く公表しました。その成果は、今後の展示や教育普及活動で活用されることとなります。

資料収集保管活動におきましても、多くの方々からの資料の受贈をはじめとする資料の収集整理、これらを適切に保管管理しながらの県内外の博物館等への貸出等を行いました。加えて、資料の生物学的劣化からの防除や科学分析・保存処理も進めております。

今日、博物館を取りまく情勢は厳しく氷河期の時代と言われております。博物館活動を推進する上記 4 つの活動に加え、文化庁等の外部助成金を活用するなど外部連携を進めながら事業を推進しております。平成 27 年度も引き続き県民の皆様方の学術文化活動の支援を図ってまいり所存ですので、今後とも温かい御協力と御指導をお願い申し上げます。

平成 27 年 4 月

岩手県立博物館長 中山 敏

# 1. 沿革

昭和 48 年	4 月	県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係（3 名）を設置
昭和 48 年	5 月	県庁内に、副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置
昭和 48 年	6 月	博物館資料調査委員（委員 22 名）を委嘱
昭和 48 年	7 月	民意集約機構として博物館建設調査協議会（委員 25 名）を設置
昭和 48 年	8 月	展示内容等の専門的指導助言を得るため、博物館専門委員会（委員 20 名）を設置
昭和 49 年	4 月	県教育委員会事務局に博物館開設準備室（庶務係、学芸班 10 名）を設置
昭和 50 年	5 月	博物館建設調査事務終了に伴い、引続き県立博物館建設委員会（委員 6 名）を設置
昭和 51 年	1 月	県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
昭和 51 年	10 月	建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所（東京都）に決定
昭和 52 年	4 月	博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所（総務課、学芸課、工務課、17 名）を設置
昭和 53 年	6 月	起工式
昭和 53 年	10 月	展示工事着手、民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
昭和 54 年	11 月	定礎式
昭和 55 年	7 月	博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館 と決定
昭和 55 年	7 月	コンパニオン（非常勤専門職員 15 名）任用
昭和 55 年	10 月	岩手県立博物館設置
昭和 55 年	10 月	落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式（4 日）
昭和 55 年	10 月	岩手県立博物館開館（5 日）
昭和 55 年	10 月	日本博物館協会、全国科学博物館協議会加盟
昭和 56 年	3 月	第 1 回岩手県立博物館協議会開催
昭和 59 年	10 月	皇太子同妃両殿下ご来館（14 日）
昭和 60 年	4 月	財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
昭和 62 年	5 月	入館者 100 万人を突破（1 日）
平成 元年	3 月	地質総合展示室改修完了
平成 2 年	5 月	岩手県立博物館友の会設立（1 日）
平成 2 年	7 月	歴史古代展示室改修完了
平成 2 年	10 月	開館 10 周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
平成 3 年	2 月	入館者、県民人口を超える（14 日）
平成 3 年	11 月	入館者、150 万人を達成（1 日）
平成 3 年	12 月	歴史中世展示室改修完了
平成 4 年	1 月	コンパニオンの名称「解説員」に
平成 5 年	2 月	秋篠宮同妃両殿下ご来館（5 日）
平成 5 年	3 月	現勢展示室イヌワシの山改修完了
平成 5 年	10 月	国民文化祭いわて'93 記念展「じょうもん発信」開催
平成 5 年	10 月	皇太子殿下ご夫妻ご来館（10 日）
平成 6 年	1 月	「中尊寺黄金秘宝展」開催
平成 6 年	12 月	屋上改修工事完了
平成 9 年	12 月	文化振興事業団 10 周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催
平成 8 年	4 月	重要文化財勸告出品館となる
平成 9 年	2 月	重要文化財公開承認施設となる
平成 9 年	7 月	入館者、200 万人を達成（16 日）
平成 10 年	1 月	ハイビジョン室設置
平成 12 年	3 月	収蔵庫等改修工事完了
平成 12 年	3 月	企画展第 50 回目を迎える（「岩手の経塚」）
平成 12 年	10 月	開館 20 周年記念特別企画展「北の馬文化」開催
平成 13 年	5 月	近代美術展示閉鎖（美術館へ移管）
平成 14 年	3 月	マメンキサウルス（モンリュウ）全身骨格複製標本展示
平成 18 年	4 月	施設等の管理部門に「指定管理者制度」導入。（財）岩手県文化振興事業団が指定管理者となる
平成 21 年	1 月	入館者、250 万人を達成（10 日）
平成 21 年	4 月	（財）岩手県文化振興事業団が 2 期目の指定管理者となる
平成 22 年	1 月	外部階段改修工事完了
平成 22 年	10 月	開館 30 周年記念特別企画展「いわての漆」開催
平成 23 年	3 月	美化事業完了
平成 24 年	4 月	（公財）岩手県文化振興事業団が 3 期目の指定管理者となる
平成 24 年	12 月	秋篠宮同妃両殿下ご来館（20 日）
平成 25 年	1 月	岩手県議会商工文教委員会現地調査（22 日）
平成 26 年	3 月	文部科学大臣から科学研究費補助金規程に規定する研究機関に指定される（20 日）
平成 26 年	3 月	仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設設置（建築面積 115.22 m <sup>2</sup> 、延床面積 230.44 m <sup>2</sup> ）
平成 26 年	5 月	仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設開所（可視化により一般公開）
平成 27 年	1 月	岩手県議会商工文教委員会現地調査（14 日）



## 2. 施設の概要

### (1) 建築の概要

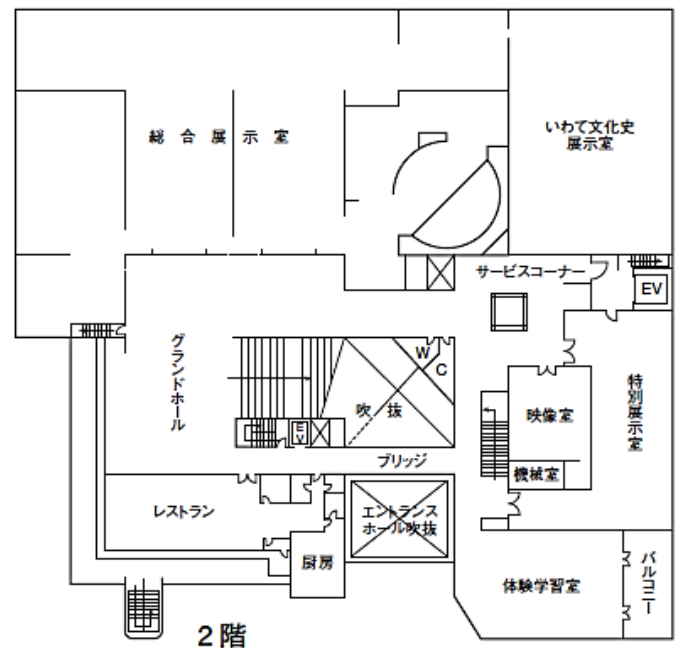
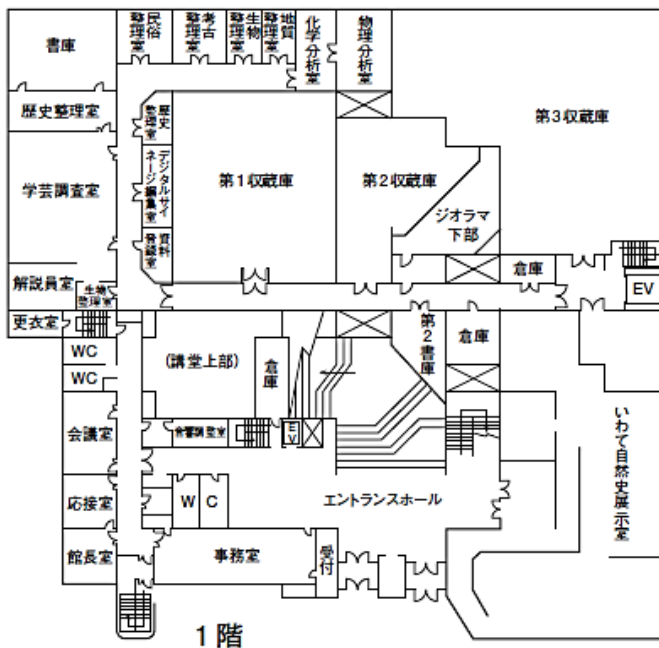
〈総工事費〉 44億3,000万円

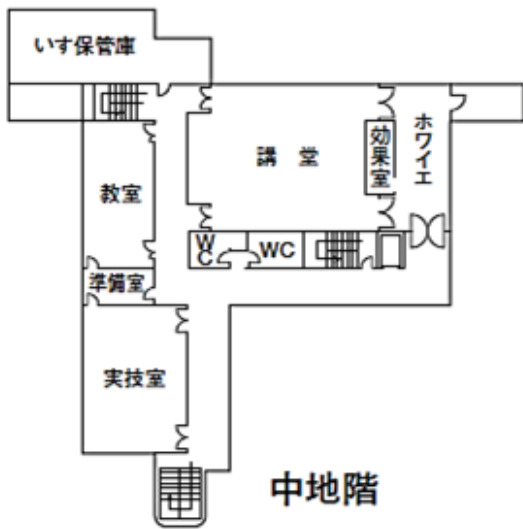
〈工期〉 ●着工 昭和53年3月15日 ●完成 昭和55年9月30日

〈建築概要〉 ●敷地面積 53,112.78㎡ ●建築面積 5,192㎡ ●延床面積 12,051.56㎡

※仮施設の面積等は含んでいない

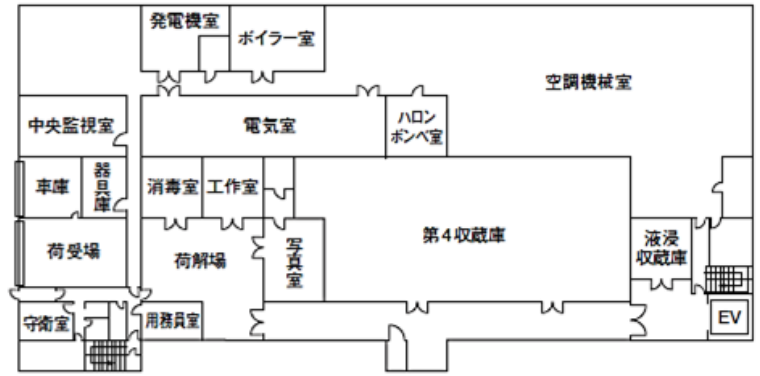
### (2) 配置図・展示室等平面図





中地階

中地階平面図



地階

地階平面図

(3) 各室面積表

部屋名	面積(m <sup>2</sup> )
空調機械室	766.09
発電気室	50.26
蓄電気室	9.71
ボイラー室	64.36
中央監視室	64.67
電話交換機室	8.89
電気室	142.54
ハロンポンベ室	37.86
消火栓ポンプ室	17.14
エレベーター機械室	20.52
第4収蔵庫	464.48
第5収蔵庫(液浸)	39.72
エレベーターシャフト	18.24
車庫	38.33
器具庫	25.24
消毒室	37.86
工作室	35.90
暗室	11.91
作業室	4.06
写真室	52.94
荷受場	79.63
荷解場	113.75
用務員室	26.39
守衛室	18.00
宿直室	21.17
湯沸室	3.81
浴室	5.71
便所	6.75
タラップ室	6.75
フォークリフト置場	12.75
廊下・階段・その他	280.32
小計	2,485.75
いす保管庫	98.61
外部用倉庫	20.38
教室	81.07
準備室	22.83
実技室	115.66
便所	29.02
講堂	164.09
効果室	14.50
ホワイエ	68.29
タラップ室	5.14
廊下・その他	232.78
小計	852.37

部屋名	面積(m <sup>2</sup> )
いわて自然史展示室	729.27
パネル倉庫	35.56
風除室	3.21
受付	18.65
印刷室	8.50
事務室	116.01
館長室	43.33
応接室	41.40
会議室	64.23
倉庫	14.25
身障者便所	6.47
No.3便所	43.85
No.2便所	39.67
音響調整室	20.84
同上前室	10.28
予備室	32.07
ロッカー室	10.45
女子更衣室	20.55
学芸調査室	236.04
歴史整理室	59.21
書庫	113.36
民俗整理室	35.84
考古整理室	35.84
生物整理室	25.10
地質整理室	25.20
歴史整理室	35.43
資料登録室	21.90
化学分析室	41.66
物理分析室	53.94
デジタルサイネージ編集室	20.72
第1収蔵庫	365.15
第2収蔵庫	188.25
第3収蔵庫	608.38
倉庫	9.18
第2書庫	42.69
ジオラマ下部	119.13
グランドホール	133.19
ロビー1	101.79
ロビー2	35.84
階段・廊下・その他	888.10
小計	4,454.53

部屋名	面積(m <sup>2</sup> )
総合展示室	1,553.85
県土の誕生	102.35
いわての夜明け	187.60
いわてのあゆみ	743.20
庶民のくらし	210.00
いわての今	310.70
いわて文化史展示室	489.07
ミニプラザ(1)	210.42
ミニプラザ(2)	129.50
特別展示室	292.20
映像室	124.00
No.4便所	30.11
体験学習室	217.17
厨房	54.93
休憩室	160.08
休憩室便所	10.98
厨房事務室	10.24
厨房便所	4.16
食品庫	6.90
グランドホール	213.66
階段・廊下・その他	618.20
小計	4,125.47
塔屋	133.44
合計	12,051.56

- 展示面積 3,404.31 m<sup>2</sup>
- 収蔵庫面積 1,665.98 m<sup>2</sup>
- 学芸調査室 236.04 m<sup>2</sup>
- 研究室 274.91 m<sup>2</sup>

### 3.博物館協議会

岩手県立博物館協議会は、館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。平成26年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

期日：平成26年11月18日（火）

場所：岩手県立博物館会議室

- 協議事項
- ・平成25年度博物館協議会の意見等への対応状況について
  - ・平成26年度博物館事業実施状況について
  - ・平成27年度博物館事業計画（案）について
  - ・運営全般について

岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 平成27年6月22日まで）

（平成27年3月31日現在）

氏名	職	分野
佐賀 敏子	盛岡市立杜陵小学校長	学校教育 県小学校長会
高橋 清之	盛岡市立巻堀中学校長	学校教育 県中学校長会
工藤 良裕	岩手県立盛岡第四高等学校長	学校教育 県高等学校長協会
佐々木 訓	岩手県青年団体協議会副会長	社会教育
野田 和子	NPO法人岩手県地域婦人団体協議会理事	社会教育
米澤 慎悦	一般社団法人岩手県PTA連合会顧問	社会教育
齋藤 桃子	石神の丘美術館主任学芸員	学識経験者 県博物館等連絡協議会
遠藤 健悦	八幡平市教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
前田 千香子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県博物館友の会
鈴木 多聞	㈱岩手日報社編集局学芸部次長	学識経験者
名越 利幸	岩手大学教授	学識経験者
遠山 稿二郎	元岩手医科大学教授	学識経験者
飯坂 真紀	画家・民俗芸能研究者	学識経験者
齋藤 めぐみ	盛岡ふるさとガイドの会会員	学識経験者

### 4.予算

（単位：千円）

項目	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
管理運営費	178,948	179,862	179,923	177,931	174,216	175,957	170,462	
総務企画調整費							5,243	3,759
展示活動費	20,753	13,763	17,227	16,120	13,372	17,775	11,673	10,074
資料収集保管活動費	43,032	40,755	41,866	43,020	41,262	40,659	40,319	29,894
調査研究活動費	5,069	5,069	4,012	4,012	4,487	4,811	7,273	7,326
教育普及活動費	3,993	4,504	4,504	4,888	5,465	5,450	1,987	1,633
業務管理費								37,699
指定管理者事業費								127,861
計	251,795	243,953	247,532	245,971	238,802	244,652	236,957	218,246

項目	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総務企画調整費	4,172	3,945	3,782	5,317	4,471	3,984	3,807	3,442
展示活動費	7,090	10,826	8,115	3,949	7,443	6,619	6,811	7,589
資料収集保管活動費	27,599	21,846	21,983	22,817	20,911	21,109	21,446	19,911
調査研究活動費	7,585	7,276	7,304	7,556	6,921	6,703	6,611	5,956
教育普及活動費	1,683	1,798	1,558	1,616	1,664	1,770	1,515	1,295
業務管理費	34,282	34,155	33,251	32,439	32,122	32,529	33,880	35,950
指定管理者事業費	130,034	129,269	132,832	131,395	132,600	130,502	130,401	133,050
計	212,445	209,115	208,825	205,089	206,132	203,216	204,471	207,193

※1 職員の人件費を除く

2 予算は、いずれも各年度の当初予算である。

3 総務企画調整は17年度から項目を起こした。

4 18年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした。

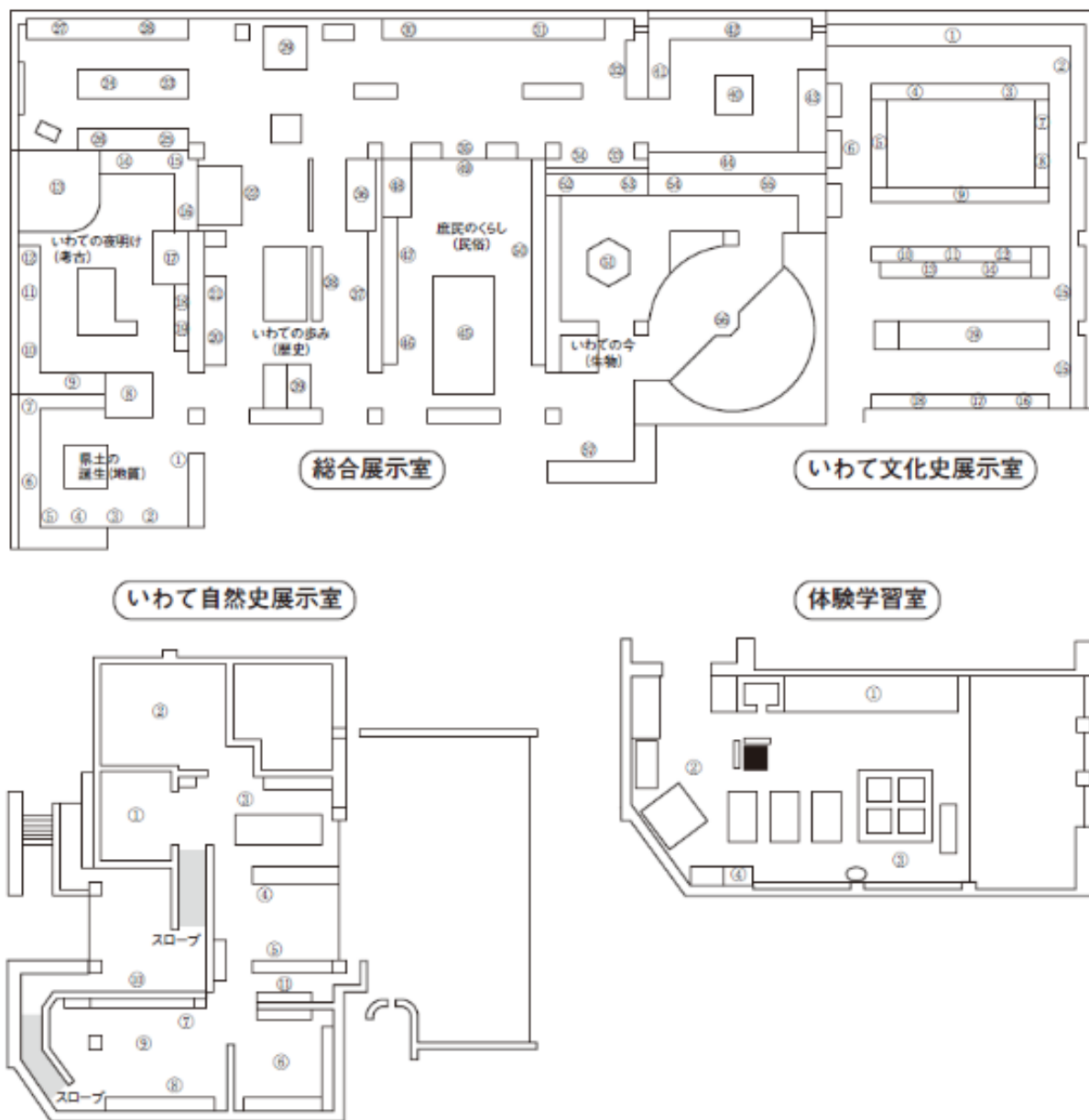
## 5.事業の概要

### (1) 展示活動

開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集してきた資料、及び入手が困難なものについては購入等による資料収集活動を行ってきた。平成26年度（2014年）までに収蔵されている博物館資料の総点数は、22万点以上にのぼる。その中で、常設展示として展示されているものはわずか2,000点程度に過ぎず、残りは収蔵庫に保管されている。収蔵庫保管資料については、季節や年中行事にあわせた展示替えの際に活用されている。

総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門に関連する展示資料が、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古部門に関連する展示資料が、いわて自然史展示室には地質・生物など自然史に関するより専門的な資料が展示され、充実した展示内容となっている。

平成26年度は、企画展「ふるさととは岩手 八戸藩の礎となった母と子～二代藩主南部直政と生母霊松院～」、テーマ展「比爪～もう一つの平泉～」、「新指定文化財展 2010-2014」、「漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～」、「クマガラの世界」を開催した。また、岩手県文化振興事業団による埋蔵文化財センター・県立美術館等との合同移動展を野田村で開催した。



## ア. 展示構成

### エントランスホール

- ・兜跋毘沙門天立像
- ・モシリユウとマメンキサウルス
- ・岩手の眺望

### 総合展示室

- 県土の誕生(地質)
  - 1 県土のおいたち
    - (1) 東北地方の地下断面
    - (2) 気仙隕石
    - (3) 岩手県の地質と岩石
  - 2 いわたの古生物相の変遷
    - (4) 生命史以前
    - (5) 古生代の生きもの
    - (6) 中生代の生きもの
    - (7) 古第三紀～中生代の生きもの
    - (8) 鮮新世～第四紀の生きもの
- いわたの夜明け(考古)
  - 3 旧石器時代
    - (9) 氷河期の人びと
  - 4 土器の時代
    - (10) 岩手の縄文土器
    - (11) 貝塚の形成
    - (12) 埋葬と装飾品
    - (13) 縄文人の暮らし
    - (14) 大洞文化
  - 5 稲作を始めた時代
    - (15) 弥生文化と岩手
  - 6 古墳を築いた時代
    - (16) 拓かれる北上平野
    - (17) 群集墳
    - (18) 集落と住居
    - (19) 生産技術の変革
- いわたの歩み(歴史)
  - 7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)
    - (20) 古代の城柵
    - (21) 安倍氏の台頭
    - (22) 奥州平泉とその文化
  - 8 戦乱の時代とその文化(中世)
    - (23) 文治五年奥州合戦
    - (24) 豪族たちの動きと庶民
    - (25) 新しい仏教文化
    - (26) 九戸政実の乱
  - 9 藩制時代の人々(近世)
    - (27) 藩政の確立
    - (28) 凶作と一揆
    - (29) 盛岡城と町づくり
    - (30) 産金と製鉄

- (31) 南部と馬
  - (32) 街道と舟運
  - (33) 藩学と寺子屋
  - (34) 先駆者たち
  - (35) 維新前夜
- 10 進む近代化(近代)
    - (36) 生活の洋風化
    - (37) 岩手県の誕生
    - (38) 明治時代から大正時代へ
    - (39) 太平洋戦争
  - 11 古美術
    - (40) 鐔
    - (41) 絵画・工芸
    - (42) 刀剣
    - (43) 絵画・工芸
    - (44) 絵画
  - 庶民の暮らし(民俗)
    - 12 家の暮らし
      - (45) いろいろ
      - (46) 正月の行事
      - (47) 庶民の信仰
    - 13 働く人びと
      - (48) 農村の人びと
      - (49) 漁村の人びと
      - (50) 山村の人びと
    - 14 まつりと芸能
    - いわたの今(現勢・生物)
      - 15 わたしたちの郷土いわた
        - (51) 岩手県地形模型
        - (52) 岩手の四季
        - (53) 県の鳥・木・花
      - 16 恵まれた自然
        - (54) 岩手の風土
        - (55) 山や川の生き物
        - (56) イヌワシの山
        - (57) 豊かな海

### いわて自然史展示室

- (1) 大地の中の小さな輝き  
— 鉱物コレクション —
- (2) 地球史の中の岩手の自然
- (3) 海にもどって大進化
- (4) 海の哺乳類
- (5) 空に向かって大進化
- (6) 水辺の生きもの
- (7) 日本のキツツキと希少な鳥獣
- (8) 早池峰山の自然
- (9) 大空の覇者ワシ・タカの世界

- (10) 写真でみる岩手の自然
- (11) 東日本大震災と被災文化財等救援活動

### いわて文化史展示室

#### 考古

- (1) 岩手の土器
- (2) 北上山系の洞穴遺跡
- (3) 岩手の石器と鉄器
- (4) 三陸の貝塚
- (5) 豊岡遺跡
- (6) 柳之御所遺跡

#### 歴史

- (7) 中国古印
  - (8) 信仰
  - (9) 近代
  - (10) 板碑
  - (11) 江戸時代の貨幣
  - (12) 藩政時代の村
- #### 民俗
- (13) 南部小絵馬
  - (14) オシラサマ
  - (15) まいりのほとけ
  - (16) 郷土料理
  - (17) いわたの民芸
  - (18) 南部絵暦
  - (19) むかしの暮らし大図鑑

### 体験学習室

- (1) 身につける  
鎧、夜会服、野良着等
- (2) ためす  
虫の鳴き声ボックス、機織等
- (3) あそぶ  
かるた、板がえし等
- (4) よむ

### 屋外展示

#### 民家

- ・直屋 旧藤野家住宅(重文)  
奥州市江刺区伊手御堂
- ・曲屋 旧佐々木家住宅(重文)  
下閉伊郡岩泉町指畑

#### 散策広場

- ・植物園  
県内の植物等345種
- ・岩石園  
火山岩、変成岩、堆積岩49種

## イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナーの新規開設

常設展示では、長期の展示による資料の劣化防止、季節や年中行事などに合わせた展示のため、展示替えを行っている。総合展示室/いわての歩み(歴史)/10 進む近代化(近代)に、「明治時代から大正時代へ」と「太平洋戦争」の展示コーナーを新規開設した。また、いわて自然史展示室の修復館入口付近に、「東日本大震災と被災文化財等救援活動」の展示コーナーを新規開設した。

### 平成 26 年度の主な展示替え

表(1)-1 平成 26 年度の主な展示替え・トピック展

No.	展示場所		テーマ	展示資料	期日
1	ミニプラザ	トピック展	文化財レスキュー関連展示 「再生へ向かう三陸の文化財」 コーナー	文化財レスキューに関するパネル と鮎鉤など漁撈具 計 4 点	26.4.1 ~ 6.30
2	総合展示室「庶民の 暮らし」(民俗)	トピック展	トピック展「端午の節供～館 蔵人形コレクション～」	武者人形 2 種 4 点、土人形 14 点 計 18 点	26.4.8 ~ 6.2
3	いわて文化史展示室 (民俗)	展示替え	展示替え(むかしの暮らし大図 鑑)	蠅取り器と膳、リボンハイトリ、蠅 帳、蚊遣り豚、かき氷器と食器・ス プーン、扇風機 計 10 点	26.4.8~ 10.16
4	総合展示室「いわて の歩み」(歴史)	展示替え	展示替え(中世コーナー)	和鏡「梅樹双雀鏡」(志和稻荷神社 蔵)など 計 7 点	26.4.24~ 27.3.9
5	いわて自然史展示室	新設	展示替え(東日本大震災と被災 文化財等救援活動)	文化財レスキューに関するパネル	26.5.1~
6	いわて自然史展示室 (生物)	トピック展	トピック展「大津波のあとの植 物」	解説・写真パネル、押し葉標本 計 25 点	26.5.19~ 27.4.19
7	総合展示室「庶民の 暮らし」(民俗)	展示替え	展示替え「野良着」	雫石地域の野良着 ミチカ(県指 定)、玉山地域の野良着 スッパ(県 指定) 計 2 点	26.6.3~ 8.31
8	体験学習室	トピック展	季節展示(参加型)	七夕飾り	26.6.7~ 8.7
9	総合展示室「いわて の歩み」(歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	岩手の古椀 5 点	26.6.6~ 11.30
10	総合展示室「いわて の歩み」(歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	川口月嶺とその一門 6 点	26.6.6~ 10.9
11	総合展示室「県土の 誕生」(地質)	展示替え	展示替え	ステップバイソンの化石頭部標本	26.6.16~ 10.20
12	いわて文化史展示室 (民俗)	展示替え	展示替え(南部絵暦)	盛岡暦版木(県指定)など 計 19 点	26.6.24~
13	いわて文化史展示室 (民俗)	トピック展	トピック展「川漁」	盛岡竿 2 点、さだ網 2 点 計 4 点	26.7.1~ 8.31
14	ミニプラザ	トピック展	文化財レスキュー関連展示 「再生へ向かう三陸の文化財」	青い目の人形 1 点	26.7.1~ 8.31
15	総合展示室「いわて の歩み」(歴史)	展示替え	展示替え	本小札白糸威二枚胴具足 1 点	26.7.23~ 11.16
16	体験学習室	新設	ためすコーナー(新設)	季節の行事スタンプ	26.7.31~
17	総合展示室「いわて の夜明け」(考古)	展示替え	縄文人の装飾	一関市花泉町貝島貝塚出土オオツ タノハ製貝輪(複製)、同出土カエル 形垂飾品(複製)	26.8.1~
18	体験学習室	新設	身につけるコーナー(ハンズオン 資料の新設)	陣笠 1 点	26.8.2~
19	体験学習室	新設	ためすコーナー(ハンズオン資料 の新設)	なきごえボックスとセミ凧 1 点	26.8.8~
20	いわて自然史展示室 (地質)	展示替え	展示替え	ヒラコドン頭骨 1 点	26.8.8~
21	いわて自然史展示室 (地質)	展示替え	展示替え	メソサウルス全身骨格 1 点	26.8.14~
22	総合展示室「いわて の歩み」(歴史)	新設	近現代コーナー(新設)	原敬書簡(大正 20 年)ほか 計 40 点	26.8.20~
23	総合展示室「いわて の夜明け」(考古)	展示替え	展示替え(江釣子古墳群・長沼 古墳)	蕨手刀・直刀・勾玉・切子玉 計 35 点	26.8.23~

No.	展示場所		テーマ	展示資料	期日
24	いわて文化史展示室 (民俗)	展示替え	展示替え(絵馬)	遠野市宮守 鞍迫観音堂奉納絵馬ほか 計9点	26.8.26～
25	いわて文化史展示室 (歴史)	展示替え	展示替え	引き札 計23点	26.8.26～
26	いわて文化史展示室 (民俗)	展示替え	展示替え(むかしのくらし大図鑑)	竹スキー・下駄スケートなど冬の生活道具 計8点	26.9.11～
27	総合展示室「いわての歩み」 (歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	刀 銘「奥州舞草友長」(県指定)、刀 朱銘「宝寿」 2点	26.9.11～ 27.4.19
28	総合展示室「いわての歩み」 (歴史)	展示替え	展示替え	銅造聖観音立像(圓峰山源勝寺蔵) 1点	26.9.19～ 9.28
29	いわて文化史展示室 (歴史)	展示替え	展示替え	不動明王二童子像、棟札、不動縁起(紫波町黄金堂蔵) 3点	26.9.19～ 27.1.6
30	ミニプラザ(歴史)	展示替え	展示替え	家村切手コレクション 近代美術と工芸 計23点	26.10.1～ 了
31	ミニプラザ	トピック展	文化財レスキュー関連展示「再生へ向かう三陸の文化財」	気仙地方の産金関係資料 3点	26.10.8～
32	総合展示室「いわての歩み」 (歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	前九年合戦図屏風、後三年合戦絵巻、錦絵「後三年の役大合戦」、錦絵「奥州後三年大合戦図」4点	26.10.11 ～27.1.18
33	いわて文化史展示室 (民俗)	展示替え	展示替え(むかしのくらし大図鑑)	白金懐炉、懐炉、懐炉灰、湯たんぽ、豆炭行火、行火、電気炬燵 7点	26.10.18 ～
34	総合展示室「県土の誕生」 (地質)	展示替え	展示替え	ハナイズメモリウシ骨格標本1点	26.10.20 ～
35	総合展示室「いわての夜明け」 (考古)	展示替え	展示替え(旧石器時代)	盛岡市玉山区大橋遺跡資料 60点	26.10.30 ～
36	いわて自然史展示室 (地質)	展示替え	展示替え(シルル期以前コーナー)	生痕化石 2点、現生のカニの巣穴化石1点 計3点	26.11.13 ～
37	総合展示室「いわての歩み」 (歴史)	展示替え	展示替え	鉄錆地十二枚張兜鉢 1点	26.12.2～
38	総合展示室「いわての歩み」 (歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	南部鉄器「雲龍図鉄瓶」ほか 5点	26.12.2～ 4.19
39	いわて自然史展示室 (地質)	展示替え	展示替え(シルル期以前コーナー)	頭足類リツイテス、ウミリンゴ 2点	26.12.7～
40	いわて文化史展示室 (歴史)	展示替え	展示替え	錦絵 12点	26.12.9～ 了
41	体験学習室	トピック展	季節展示(参加型)	みずきだんご	27.1.11～ 1.18
42	総合展示室「いわての歩み」 (歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	田鎖鶴立斎「高砂図」ほか 掛軸 7点	27.1.20～ 4.19
43	総合展示室「いわての歩み」 (歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	土人形『めでた尽くし』 10点	27.1.20～ 2.15
44	体験学習室	新設	ためすコーナー(ハンズオン資料の新設)	「はっくつ!ドッキリたいけん」	27.2.10～
45	総合展示室「いわての歩み」 (歴史)	展示替え	展示替え(古美術コーナー)	ひいなを愛でる 内裏雛(享保雛) 1組、五人囃子、内裏雛(天児・這子) 1組 計2件 10点	27.2.17～ 4.5
46	いわて文化史展示室 (歴史)	展示替え	展示替え	錦絵 14点	27.2.24～
47	いわて自然史展示室 (生物)	展示替え	トピック展「話題の動物」	ヒグマ、ハイイロオオカミ、ハクビシン、ニホンリス 4点	27.2.24～ 5.31
48	体験学習室	新設	ためすコーナー(ハンズオン資料の新設)	「かせきのレプリカをつくってみよう」	27.3.1～
49	ミニプラザ(民俗)	トピック展	トピック展「ちょこつと猪口」	猪口 37点	27.3.6～ 5.31
50	総合展示室「いわての歩み」 (歴史)	展示替え	展示替え(中世コーナー)	和鏡の変遷をたどる 新山神社和鏡と志和稻荷神社和鏡を年代順に並び替え、鏡14面と懸け仏1軀展示	27.3.10～
51	いわて文化史展示室 (民俗)	展示替え	展示替え(南部小絵馬)	絵馬 3点	27.3.17～

## ウ. 特別展示の概要

平成 26 年度は以下の企画展・テーマ展等を開催した。合同移動展は公益財団法人岩手県文化振興事業団主催の事業で、当館・美術館・県民会館・埋蔵文化財センターの 4 事業所が共同で野田村を会場として行ったものである。

表(1)ー2 平成 25 年度の企画展・テーマ展・特別展

種 別	名 称	会 期
企 画 展	「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子 ～二代藩主南部直政と生母霊松院～」	平成 26 年 6 月 28 日 (土) ～8 月 17 日 (日)
テーマ展	「比爪ーもう一つの平泉ー」	平成 26 年 3 月 15 日 (土) ～5 月 11 日 (日)
テーマ展	「新指定文化財展 2010-2014」	平成 26 年 10 月 4 日 (土) ～11 月 24 日 (月)
テーマ展	「漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～」	平成 26 年 12 月 20 日 (土) ～平成 27 年 2 月 22 日 (日)
テーマ展	「クマゲラの世界～未知なる生態に迫る～」	平成 27 年 3 月 14 日(土)～5 月 31 日(日)
合同移動展	「文化・芸術が集うとき in 野田村」	平成 26 年 10 月 30 日 (木) ～11 月 2 日 (日)

### (ア) 第 65 回企画展 八戸立藩三百五十年記念「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子 ～二代藩主南部直政と生母霊松院～」

八戸藩主家の起源、夫直房、長男直政、直政の養子通信の三代の藩主を支えた八戸藩成立期の最大の功労者霊松院と将軍側近として活躍した二代藩主直政の事績についてまとめて紹介した。

会期：平成 26 年 6 月 28 日 (土) ～8 月 17 日 (日)

会場：特別展示室

会期中の入館者数：7,265 名

後援：八戸市・盛岡市・花巻市・岩手町・岩泉町・紫波町教育委員会、デーリー・東北新聞社、岩手日報社

#### 〔展示内容〕

- I 直政が活躍した元禄という時代 文楽人形政岡・奥の細道屏風複製など
- II 南部利直と仙寿院 来迎寺地藏菩薩立像・『中里家系』・『中里家記録』など
- III 中里数馬（南部直房）と川口孝（霊松院） 盛岡城下図・夫婦の書簡軸など
- IV 八戸藩の成立 老中宛南部左衛門佐起請文・老中宛南部遠江守起請文など
- V 霊松院の実家川口家の変遷 明圓寺川口正家位牌厨子や霊松院奉納香炉など
- VI 南部直政の生涯 貞享落穂集・福善寺紺紙金泥法華経など
- VII 直房と霊松院の三兄弟妹 福善寺の十一面観音菩薩立像と毘沙門天立像など

#### 〔関連事業〕

- 展示解説会 7月6日(日)・7月19日(土)・8月3日(日) 108名  
展覧会関連講座 16回(関連市町村・檀家会・老人大学など) 481名  
関連出前講座 3回(岩泉町・八戸市博物館など) 139名  
関連講演・講座 4回(兼平・藤田・福留・佐々木) 664名  
関連郷土芸能 7月12日(土) 岩手町川口神楽・きつね踊り保存会 176名  
関連グッズ販売 書籍2 准胝観音饅頭 唐招提寺線香・ストラップなど

#### 〔事業成果物〕

- ポスター B2 4色刷 400枚  
リーフレット A4判 表4色刷・裏1色刷 13,000枚  
図録 A4判 101頁(カラー83・黒18)  
800部(配布・販売各400部)  
デーリー東北新聞社 八戸立藩350年記念記事掲載4回



八戸藩立藩 350 年 第 2 部 藩主の系譜と横顔①②③④

不遇の身から初代藩主（6 月 18 日） 三代の藩主支えた霊松院（6 月 23 日）

藩士は姻戚、人物で採用（6 月 30 日）学識と人脈の二代直政（7 月 14 日）

二代藩主直政と生母霊松院 藩初期の絵図など 240 点（8 月 12 日）

## （イ）テーマ展「新指定文化財展 2010-2014」

文化庁と岩手県教育委員会では、重要な文化財を保存・活用し、国民の文化的向上に資するとともに、わが国文化の進歩に貢献することを目的として、文化財保護法や岩手県文化財保護条例に基づいて文化財の指定等を行っている。この状況を広くご紹介することを目的に、当館では数年に一度「新指定文化財展」を開催してきた。今回は、2010 年 4 月から 2014 年 6 月までの間に指定等を受けた 40 件（国指定等 16 件、県指定 24 件）について、実物、写真、関連資料の展示を行った。

**会期：平成 26 年 10 月 4 日（土）～11 月 24 日（月・振替休日）**

**会場：特別展示室**

**会期中の入館者数：4,447 人**

### 〔展示内容〕

#### 1 自然が育んだ財産

(国)天然記念物「平糠のイヌブナ自然林」、(県)天然記念物(動物)「花巻矢沢地区のゼニタナゴ生息地」、(国)名勝「浄土ヶ浜」

#### 2 地下に眠っていた遺産

(国)重要文化財(美術工芸品・考古資料)「岩手県平泉遺跡群(柳之御所遺跡)出土品」、同「岩手県平泉遺跡群出土品」、(県)有形文化財(考古資料)「徳丹城跡出土品」、(国)史跡「御所野遺跡」(追加指定)、同「胆沢城跡」(追加指定)、同「鳥海柵跡」、(県)史跡「湯舟沢環状列石」

#### 3 歴史文化遺産

(国)重要文化財(建造物・近代住宅)「旧高橋家住宅」、(国)登録有形文化財(建造物・住宅)「旧南部家別邸主屋」、同(建造物・産業一次)「旧釜石鉱山事務所」、(県)有形文化財(彫刻)「木造十一面観音立像 附 胎内仏・木造僧形立像」、同「木造六観音立像」、同「木造青面金剛立像 二童子・三猿・台座共 附寿牌」、同(古文書)「軽呂耕作鈔及び遺言」、同「盛岡藩「雑書」寛文六年」、同(工芸品)「長胴太鼓」、同「南部家伝来提帯」、同「南部家伝来具足下着」、同(歴史資料)「豊吉之墓」、同「大槻家旧蔵板木」、(国)名勝「おくのほそ道の風景地 金鶏山・高館」、(国)登録記念物(名勝地関係)「旧南部氏別邸庭園」、同「盛合氏庭園」

#### 4 民衆が生んだ財産

(国)重要文化財(建造物・近世以前 民家)「旧朴館家住宅」、(県)有形民俗文化財「姉体庚申塔（寛永十二年銘）」、(国)重要文化的景観「遠野 荒川高原牧場 土淵山口集落」(追加指定・名称変更)、(国)記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財(民俗芸能)「石鳩岡神楽・土沢神楽」、(県)無形民俗文化財(民俗芸能)「鶴鳥神楽」、同「篠木神楽」、同「一戸の山伏神楽」、同「布佐神楽」、同「南部藩壽松院年行司支配太神楽」、同「門中組虎舞」、同「さんさ踊り」、同「駒木鹿子踊り」、同「長野獅子踊り」、同「板澤しし踊り」

### 〔関連事業〕

#### 1 展示解説会

10 月 5 日（日）14:30～15:30 参加者 14 名

11 月 16 日（日）14:30～15:30 参加者 24 名

## 2 県博日曜講座

11月23日(日) 13:30~15:00

「近代以降の釜石鉱山」 笠原雅史(当館専門学芸調査員) 参加者 35人

### (ウ) 合同移動展 岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化・芸術が集うとき in 野田村」

これまでに岩手県立博物館では、博物館から遠隔地に当たり来館機会に恵まれない地域を対象として、「岩手県立博物館移動展」を開催してきた。平成20年度からは、岩手県立埋蔵文化財センターとの合同展(岩手県立博物館移動展・埋蔵文化財展)という形態で実施さらに平成24年度からは(公財)岩手県文化振興事業団の4事業所(埋蔵文化財センター・岩手県立美術館・岩手県民会館・当館)が一堂に会し行う事業「岩手県文化振興事業団プレゼンツ」の一環として行われている。

今年度の移動展は合同展であることを強く意識し、埋蔵文化財センター・美術館・当館の3事業所におけるそれぞれの展示資料を初めて一つの会場スペースで展示した。これにより、各事業所がどのような資料を対象として扱い、研究・公開を行っているのかといったことから、一般向けにどのような教育普及事業を行っているのかといったことまでを伝えることができた。それと同時に、来場者の方々に「文化振興事業団プレゼンツ」として開催する意義を明確に伝えることもできたと考える。また、野田村立体育館という広い展示スペースで開催したことで導線を広く確保することができ、展示解説会の実施時にも混雑することなく多くの方々を会場内に案内することができた。

また、今年度は野田村主催のイベント「野田村総合文化祭」と日程・会場を同じくして行う、まさに「合同展」となった。野田村職員の手厚い御協力のおかげで準備・開催をスムーズに行うことができ、さらに例年以上に多くの来場者の方々に足を運んでいただいた。

**会期：平成26年10月30日(木)~11月2日(日) 4日間**

**会場：野田村立体育館**

**タイトル：『合同展~平成26年度岩手県立博物館移動展・第35回埋蔵文化財展』**

**来場者数：1,757人(野田村総合文化祭入場者を含む)**

**〔展示内容〕** 展示総数 188点

- 1 考古 野田玉川出土縄文時代後期の土器・土偶・骨具など、蕨手刀(平清水Ⅲ遺跡出土(野田村教育委員会蔵)・上新山遺跡出土)、蕨手刀復元模型、発掘調査状況写真パネル 計21点
- 2 歴史 錦絵(3代歌川豊国画 陸奥国野田玉川・第三回内国勸業博覧会之図など)、盛岡藩領内図、三閉伊日記、鐔・拵、旧蹟遺聞 計7点
- 3 民俗 昭和の風景写真パネル(野田村の曲がり家・久喜浜の風景・海岸の船小屋など)、正月の餅料理(複製)、昔の寝具 舟形枕など 計44点
- 4 生物 動物剥製標本(アルビノのツキノワグマ親子など)、昆虫標本(チョウセンアカシジミ・ウチスズメなど)、植物写真パネルなど 計91点
- 5 地質 野田玉川鉱山産のマンガン鉱物(バラ輝石など)、野田村各所の砂、米田海岸産白亜系化石(サメの歯・アンモナイト(複製)・琥珀など)など 計25点

**〔関連事業〕**

- 1 展示解説会 11月2日(日) 12:30~13:30/14:00~15:00 参加者 60人

### (エ) テーマ展「漆絵のデザイン~浄法寺塗菓子盆の魅力~」

浄法寺塗には箔椀と呼ばれる四ッ椀やひあげなど機能と美しさを兼ねた名品がある。また一方で、菓子盆にみられるように、普段使いの簡素な漆器もあり、それぞれちがった趣がある。本展はおもに菓子盆に見られる漆絵を中心に

展示し、漆絵の分類・特徴などからその魅力を紹介した。

**会期：平成 26 年 12 月 20 日（土）～平成 27 年 2 月 22 日（日）**

**会場：特別展示室**

**入館者数：4,093 人**

#### 【展示資料及び内容】

漆絵菓子盆（泉山コレクションほか）190 点、

『真絵雛形』、『雛形』、塗師鑑札（以上 3 点、八幡平市博物館蔵）

『蒔絵手本』（二戸市浄法寺歴史民俗資料館蔵）

漆絵菓子盆を絵の分類にしたがって展示した。展示の都合上、分類は次のようにした。桃・菊・銀杏・紅葉・三保富士・松竹梅・草花・動物・その他（熨斗、記銘、無文）。

また、現代の浄法寺塗の紹介として、椀・皿・菓子盆などを展示した。漆の紹介として、アバギ、漆の実、和蠟燭（キノミロウソク）、会津の絵蠟燭を展示した。

#### 【関連事業】

##### 1 展示解説会

平成 27 年 1 月 11 日（日）11:00～12:00

2 月 4 日（土）14:30～15:30

##### 2 民俗講座（日曜講座を兼ねる）

平成 17 年 1 月 11 日（日）13:30～15:00

「木皿について」講師：新海洗氏（東京学芸大学名誉教授） 聴講者 54 名

#### 【印刷物】

1 リーフレット A4 判表カラー、裏モノクロ印刷 2,000 枚

2 展示解説書 A4 判、モノクロ印刷、32 ページ、600 部、70 部（販売用）

\*展示解説書は 1 部 618 円で販売した。（在庫なし）

### （オ）テーマ展「クマガラの世界～未知なる生態に迫る～」

高度経済成長期、林野行政における拡大造林・独立採算制度の名のもと、全国規模で行われた国有林（落葉広葉樹林帯）伐採のために減少の一途をたつた国の天然記念物クマガラ *Dryocopus martius* は、1970 年代、ブナ林保護の象徴的存在としてクローズアップされると同時に、日本初の世界自然遺産登録地・白神山地をはじめとするブナ林のキーストーン種としても脚光を浴びるようになった。その間、北東北三県における目撃情報、撮影記録や江戸時代の古記録および近年の調査研究から、過去・現在の分布状況が判明し、徐々にその生態が明らかになりつつある。

本テーマ展は、長年クマガラの生態研究に携わった生物部門学芸員による研究成果の公表であり、クマガラとはどのような鳥なのか？クマガラを保護することはどのようなことなのか？クマガラ研究に関与した研究者たちの足跡など、クマガラという 1 個の鳥に焦点をあて、クマガラに関連する資料を一堂に会した日本初のオリジナル的展覧会である。

展示資料は 120 点、展示写真 A1 サイズ等 100 点、解説パネル B2 サイズ等 65 枚の総計 285 点であり、そのうち借用資料は 5 点にすぎない。担当学芸員が着任以来、16 年間年次計画的に購入・委託制作した剥製標本やカービング資料及び調査研究に際しての生態写真データを活用した。なお、この展覧会のために要した準備期間は、約 2 年間であった。

設営については、デザイナー・制作者の 2 名を 3 ヶ月間、時間雇用し、本展覧会のコンセプトを周知後、会場のデコレーション並びに営巣木のレプリカ制作を行った。

本展覧会は、公益財団法人岩手県文化振興事業団 30 周年記念事業として、一般財団法人 全国科学博物館振興財団活動助成（平成 26 年度）から助成いただいた事業である。

**会期：平成 27 年 3 月 14 日（土）～5 月 31 日（日）**

**会場：特別展示室**

**会期中の入館者数：7,891 人**

#### 【展示内容】

- 1 シンボル展示
- 2 概説
- 3 日本のキツツキ
- 4 クマゲラの巣穴を利用する鳥獣
- 5 クマゲラ研究小史
- 6 クマゲラの森の動物たち
- 7 クマゲラ保護のために
- 8 クマゲラ観察用具
- 9 クマゲラの生態写真
- 10 クマゲラの営巣木レプリカ
- 11 ハンズオンコーナー
- 12 クマゲラ生態写真アルバム

#### 【関連事業】

- 1 第 1 回展示解説会 3 月 15 日（日）14:00～15:00 55 名  
アマチュア最高峰カメラマンの井上大介氏を迎えて  
講師：井上大介氏、藤井忠志
- 2 第 1 回セミナー兼日曜講座 3 月 22 日（日）13:30～15:00 88 名  
対談講演会「日本産クマゲラの生態とその保護」  
講師：有澤浩氏 元東京大学農学部附属北海道演習林助手  
船木信一氏 秋田県立博物館主任学芸主事  
藤井忠志 岩手県立博物館学芸部長兼首席専門学芸員
- 3 第 2 回セミナー兼日曜講座 4 月 26 日（日）13:30～15:00 85 名  
「クマゲラ研究小史」  
講師：藤井忠志 岩手県立博物館学芸部長兼首席専門学芸員
- 4 第 2 回展示解説会 5 月 3 日（日）14:00～15:00 38 名  
デザイナー高橋良徳氏を迎えて  
講師：高橋良徳氏、藤井忠志
- 5 第 3 回セミナー兼日曜講座 5 月 24 日（日）13:30～15:00 37 名  
「ミトコンドリア DNA を指標としたクマゲラの遺伝的多様性の解析」  
講師：黒尾正樹氏 弘前大学大学院農学生命科学研究科教授

## (2)教育普及活動

平成 26 年度の教育普及事業として 22 事業を開催した。講演会・講座としては、県博日曜講座、自然観察会、地質観察会、考古学セミナー、古文書入門講座を開催した。土曜・休日の子供向け事業では、6 回目を迎えた「博物館まつ

り」を始めとして、毎週日曜日開催の「たいけん教室～みんなでためそう～」、第2・第3土曜・日曜日開催の「チャレンジ!はくぶつかん」等の土曜・休日の子供向け事業や、毎月第1土曜日開催の「ミュージアムシアター」を実施した。また、冬休みのイベントとして、「冬休みワクワク!ワークショップ」を2日間開催した。学習支援や社会教育事業の一環として、小中学校・県立学校・大学・幼稚園・各種団体等からの団体利用についても積極的に対応した。毎年、国際博物館の日の関連イベントとして「県博バックヤードツアー」を開催しているが、今年度は自然史系と文化史系のコースを設け好評を博した。

## ア. 開催事業

### I 展示付帯事業

総数 5,107 名

#### ■学芸員による展示解説会（展覧会／定時）

延べ 352 名

	期日	曜日	講師	テーマ	参加者数
1	5月10日	土	羽柴直人	テーマ展「比爪—もう一つの平泉—」	33
2	7月6日	日	佐々木勝宏	企画展「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子～二代藩主南部直政と生母霊松院」	34
3	7月19日	土	佐々木勝宏	企画展「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子～二代藩主南部直政と生母霊松院」	46
4	8月3日	日	佐々木勝宏	企画展「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子～二代藩主南部直政と生母霊松院」	28
5	10月5日	日	丸山浩治、鈴木まほろ、渡辺修二、吉田充、佐々木勝宏、笠原雅史、鎌田勉、齋藤里香、山屋賢一	テーマ展「新指定文化財展」	14
6	11月2日	日	望月貴史、鈴木まほろ、渡辺修二、吉田充、羽柴直人、笠原雅史、川向富貴子	移動展「平成26年度岩手県文化振興事業団プレゼンツ『文化・芸術が集うとき in 野田村』」於、野田村 午前、午後2回実施	60
7	11月16日	日	丸山浩治、鈴木まほろ、渡辺修二、吉田充、佐々木勝宏、笠原雅史、鎌田勉、齋藤里香、山屋賢一	テーマ展「新指定文化財展」	24
8	1月11日	日	瀬川修	テーマ展「漆絵のデザイン」	40
9	2月14日	土	瀬川修	テーマ展「漆絵のデザイン」	18
10	3月15日	日	井上大介氏（カメラマン）、藤井忠志	テーマ展「クマゲラの世界」	55

#### ■学芸員による展示解説会（展覧会／随時）

延べ 634 名

	期日	曜日	講師	テーマ	参加者数	依頼者
1	4月13日	日	羽柴直人	テーマ展「比爪—もう一つの平泉—」	21	紫波町・赤石ひづめ館懇話会
2	4月16日	水	羽柴直人	テーマ展「比爪—もう一つの平泉—」	43	岩手県文化財愛護協会
3	4月23日	水	羽柴直人	テーマ展「比爪—もう一つの平泉—」	26	紫波町教育委員会事務局
3	4月30日	水	羽柴直人	テーマ展「比爪—もう一つの平泉—」	11	紫波町図書館
4	5月1日	木	羽柴直人	テーマ展「比爪—もう一つの平泉—」	20	紫波町議会政務調査会例会
5	7月8日	火	佐々木勝宏	盛岡藩と八戸藩	54	もりおか老人大学松園分校
6	7月8日	火	佐々木勝宏	八戸藩主家の人々	48	紫波町教育委員会
7	7月12日	土	佐々木勝宏	八戸藩入門	35	盛岡市西部公民館
8	7月13日	日	佐々木勝宏	大高檀紙や藩主肖像を軸に	68	来館者
9	7月16日	水	佐々木勝宏	なぜ八戸藩展を開催?	32	岩手県文化財愛護協会
10	7月18日	金	佐々木勝宏	視察への展示解説	3	二戸市教育委員会
11	7月18日	金	佐々木勝宏	視察への展示解説	9	八幡平市教育委員会
12	7月21日	月	佐々木勝宏	光勝寺の仏像について	23	花巻市石鳥谷町 光勝寺
13	7月27日	日	佐々木勝宏	岩手町の文化財	46	岩手町中央公民館
14	7月27日	日	佐々木勝宏	八戸南部家資料を中心に	54	来館者
15	8月2日	土	佐々木勝宏	附録伝記と二代集について	31	来館者
16	8月8日	金	佐々木勝宏	八戸藩展見学	4	陸前高田市教育委員会
17	8月9日	土	佐々木勝宏	八戸藩と岩泉町	18	岩泉町教育委員会
18	8月10日	日	佐々木勝宏	八戸藩と岩手町	46	岩手町中央公民館
19	8月10日	日	佐々木勝宏	八戸藩主家のふるさと	4	岩手県教育委員会

	期日		講師	テーマ	参加者数	依頼者
20	8月11日	月	佐々木勝宏	文化財指定について	8	岩手町教育委員会
21	11月5日	水	丸山浩治	新指定文化財展	30	紫波町赤沢公民館

※展覧会会期中、来館者の希望により担当学芸員が随時展示解説または講演を行った。

■解説員による定時解説

延べ186名

月	成立回数	参加者数	対応時間	講師
4月	14	25	1,250	解説員
5月	10	30	865	
6月	1	1	20	
7月	8	15	515	
8月	15	34	1,095	
9月	2	2	140	
10月	4	14	330	
11月	7	20	535	
12月	3	6	190	
1月	7	16	485	
2月	4	7	300	
3月	7	16	620	
合計	82回	186名	6,345時間	

※平成25年度7月より、原則として毎日実施している。

■解説員による依頼解説（随時／常設）

延べ2,704名

実施日		実施場所										講師	参加者数
		総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室			
		地質	考古	歴史	民俗	現勢・生物	考古	歴史	民俗	地質	生物		
4月	学校等	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	解説員	76
	一般	4	4	2	2	1	1	1	2	3	3		49
5月	学校等	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1		51
	一般	3	3	3	2	3	0	0	0	1	1		66
6月	学校等	4	4	3	2	2	1	1	1	1	2		209
	一般	4	4	4	2	3	0	0	1	0	0		107
7月	学校等	1	1	3	2	1	0	0	1	0	0		231
	一般	9	10	9	8	6	1	1	2	1	1		69
8月	学校等	2	3	4	2	2	0	0	0	0	0		165
	一般	5	6	6	6	5	1	1	3	2	2		15
9月	学校等	1	1	1	5	2	0	0	4	0	0		391
	一般	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0		40
10月	学校等	1	1	2	2	1	0	0	3	0	0		206
	一般	4	4	3	3	3	1	0	0	1	1	38	
11月	学校等	3	5	4	6	2	0	0	3	1	0	492	
	一般	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	40	
12月	学校等	1	1	2	1	0	0	0	1	0	0	158	
	一般	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	21	
1月	学校等	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	42	
	一般	1	1	2	1	2	0	0	0	0	0	4	
2月	学校等	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	211	
	一般	2	2	2	2	2	1	1	1	2	2	6	
3月	学校等	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	13	
	一般	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	4	
	計	54	59	59	60	44	7	6	27	14	14		2,704

■ガマ細工の実演 ※民俗部門 [瀬川]

	期日		講師	※民家活用の一環として旧佐々木家住宅で実施。
1	6月8日	日	阿部茂巳氏（ボランティア）	
2	7月13日	日	阿部茂巳氏（ボランティア）	

	期日		講師
3	9月14日	日	阿部茂巳氏 (ボランティア)
4	10月12日	日	阿部茂巳氏 (ボランティア)

■チャレンジ!はくぶつかん (全53回) ※学芸第三課 [望月] 延べ1,231名

	期日		シート作成	テーマ	参加者数	備考
1	4月12日	土	丸山浩治	馬 ※85名	21	
2	4月13日	日			24	
3	4月19日	土			18	
4	4月20日	日			22	
5	5月10日	土	川向富貴子	つなぐ ※52名	17	
6	5月11日	日			15	
7	5月17日	土			8	
8	5月18日	日			12	
9	6月14日	土	望月貴史	足 ※91名	23	
10	6月15日	日			23	
11	6月21日	土			8	
12	6月22日	日			37	
13	7月12日	土	八木勝枝	土 ※146名	18	子ども13、大人3
14	7月13日	日			46	子ども30、大人16
15	7月19日	土			14	
16	7月20日	日			41	
17	7月21日	月		27		
18	8月9日	土	望月貴史	八・八・はち ※202名	17	
19	8月10日	日			79	
20	8月11日	月			29	
21	8月16日	土			29	子ども28、大人1
22	8月17日	日		48		
23	9月13日	土	望月貴史	空 ※76名	11	
24	9月14日	日			11	
25	9月15日	月・祝			21	
26	9月20日	土			17	
27	9月21日	日			16	
28	10月11日	土	鎌田勉	石 ※71名	6	
29	10月12日	日			19	
30	10月13日	月・祝			19	
31	10月18日	土			12	
32	10月19日	日			15	
33	11月8日	土	佐々木勝宏	指 ※104名	20	
34	11月9日	日			22	
35	11月15日	土			29	
36	11月16日	日			33	
37	12月13日	土	笠原雅史	走る ※77名	23	
38	12月14日	日			25	
39	12月20日	土			5	
40	12月21日	日			24	
41	1月10日	土	八木勝枝	デザイン ※123名	29	子ども28、大人1
42	1月11日	日			29	
43	1月12日	月			20	
44	1月17日	土			8	
45	1月18日	日			37	子ども21、大人16
46	2月14日	土	丸山浩治	木 ※75名	11	
47	2月15日	日			37	
48	2月21日	土			11	
49	2月22日	日			16	
50	3月14日	土	川向富貴子	鳥 ※129名	18	
51	3月15日	日			34	
52	3月21日	土			31	子ども30、大人1
53	3月22日	日			46	子ども42、大人4

※当館学芸員が毎月作成するワークシートの配布 (4月・7月・8月は「かんたんコース」と2種作成)。今年度は13名の最優

秀チャレンジャー（全12回のテーマに参加した皆勤賞、4回目3名、3回目4名、2回目1名、1回目5名）が誕生した。

■気軽にチャレンジ!はくぶつかん「クロスワードパズル」 ※学芸第三課 [笠原]

※当館学芸員作成のクロスワードパズルの配布

■展示資料解説「けんぱくものしりシート」 ※学芸第三課 [丸山・解説員]

	発行日		シート作成者 (解説員)	テーマ
1	4月5日	土	齋藤菜穂美	いじこ (民俗資料)
2	5月3日	土	佐藤優子	アオゲラ (現勢・生物資料)
3	6月7日	土	畠香奈子	仕事着 (体験学習室資料)
4	7月5日	土	藤嶋マミ	タカハシホタテ (地質資料)
5	8月2日	土	三河綾乃	貝輪 (考古資料)
6	9月13日	土	武田とも子	龍頭 (歴史資料)
7	10月4日	土	石川依子	カラハシ (民俗資料)
8	11月1日	土	伊藤敦子	ミズナラ (現勢・生物資料)
9	12月6日	土	草島千香子	縄文人の衣服 (体験学習室資料)
10	1月10日	土	川崎智子	骨質歯鳥類の上腕骨 (地質資料)
11	2月7日	土	齋藤菜穂美	旧石器時代の石器 (考古資料)
12	3月7日	土	那須優香子	刀剣 (歴史資料)

※当館解説員が毎月作成する展示資料解説カードの配布

## II 教育普及事業

総数 6,902 名

■文化講演会 [1回] ※民俗部門 [瀬川] 担当

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
11月3日	月・祝	岩崎均史氏 (練馬区立石神井公園ふるさと文化館館長)	大小の摺物 月の大小と暦	43	※文化の日記念事業

■冬期文化講演会 [1回] ※考古部門担当

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
2月5日	木	西和彦氏 (文化庁文化財部記念物課)	世界遺産の現状と取り組み	90	※文化財等取扱講習会受講者を含む

■企画展特別講演会 [1回] ※歴史部門 [佐々木] 担当

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
8月2日	土	福留真紀氏 (長崎大学准教授)	柳沢吉保と南部直政	174	※企画展関連事業

■考古学セミナー [2回] ※考古部門担当

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
4月27日	日	藤沼邦彦氏 (元弘前大学教授)	講演会「北の経塚」	(80)	※県博日曜講座を兼ねる
4月29日	火・祝	羽柴直人ほか	現地見学会「比爪館を歩く」	29	於、紫波町

■民俗講座 [1回] ※民俗部門 [瀬川] 担当

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
1月11日	日	新海洸氏 (東京学芸大学名誉教授)	木皿について	(54)	※県博日曜講座を兼ねる

■四十四田ダム水源地域セミナー [1回] ※北上川ダム統合管理事務所共催/学芸第三課 [鎌田] 担当

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
1月27日	火	山屋賢一	沼宮内山車百年・盛岡山車三百年	33	

■シダ植物初心者向け講習会 [1回] ※岩手県植物誌調査会共催/生物部門 [鈴木] 担当

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
3月14日	土	海老原淳氏 (国立科学博物館)	シダ植物入門講座	22	



■県博日曜講座 [全 24 回] ※学芸第三課 [八木] 担当

延べ 1,439 名

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
1	4月13日 日	羽柴直人	比爪もう一つの平泉	169	※テーマ展開連
2	4月27日 日	藤沼邦彦氏 (元弘前大学教授)	北の経塚	80	※考古学セミナーを兼ねる ※テーマ展開連
3	5月11日 日	山内貴義氏 (岩手県環境保健研究センター)	いわてのシカを知る～その生態と生息状況について～	31	
4	5月25日 日	赤沼英男	奥州藤原氏の時代における金工と漆工技術	25	
5	6月8日 日	丸山浩治	遺跡の土を洗ってみると・・・ －微細遺物から考える古代－	23	
6	6月22日 日	川向富貴子	カッパのはなし	26	
7	7月13日 日	兼平賢治氏 (東北大学大学院文学研究科助教)	二人の藩主・南部重信と南部直政	141	※企画展開連
8	7月27日 日	藤田俊雄氏 (八戸市史編さん室室長)	八戸城下の形成	122	※企画展開連
9	8月10日 日	佐々木勝宏	霊松院 (川口孝) と南部直政	215	※企画展開連
10	8月24日 日	中山敏 館長	エクスカッション「奥州」～ 3コースで「奥州」を探る～	38	※岩手県立博物館友の会共催
11	9月14日 日	齋藤里香	絵図にみる岩手山	27	
12	9月28日 日	鈴木まほろ	増えるニホンジカの脅威	37	
13	10月12日 日	鎌田勉	12世紀平泉の庭園遺構	25	
14	10月26日 日	蟹澤聰史氏 (東北大学名誉教授)	芭蕉がみた平泉と北上山地	51	
15	11月9日 日	山屋賢一	山車についての日曜講座	51	
16	11月23日 日	笠原雅史	近代以降の釜石鉱山	35	※テーマ展開連
17	12月14日 日	吉田充	砂鉄の中の鉱物	28	
18	12月28日 日	八木勝枝	三陸の貝塚	28	
19	1月11日 日	新海洸氏 (東京学芸大学名誉教授)	木皿について	54	※民俗講座を兼ねる ※テーマ展開連
20	1月25日 日	瀬川修	読み比べ田山暦・盛岡暦～南部絵暦入門～	38	
21	2月8日 日	目時和哉氏 (盛岡第一高等学校教諭)	太平洋からみた古代・中世の陸奥国の歴史	66	※岩手県立博物館友の会共催
22	2月22日 日	川又晋	被災紙製資料の安定化処理と保管について	14	
23	3月8日 日	望月貴史	動物の「行動の化石」	27	
24	3月22日 日	有澤浩氏 (元東京大学農学部附属北海道演習林助手)・船木信一氏 (秋田県立博物館主任学芸主事 (兼) 展示・資料班長)・藤井忠志	対談講演会「日本産クマゲラの生態とその保護」	88	※テーマ展開連

■国際博物館の日記念事業 県博バックヤードツアー [1回] ※学芸第三課 [八木] 担当

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
5月18日	日	学芸職員ほか (総括：八木・鎌田・望月、施設案内：齋藤・瀬川・丸山・鈴木・渡辺・吉田・赤沼・共栄 テックス、引率：笠原・川向)	館内バックヤード見学 (収蔵庫ほか)	40	※各回 10名×4の定員制 中学生以下 10、高校生以上 30

※当館職員ほかによるバックヤードのリレー解説。今年度から歴史コースと自然コースに分けて実施した。

■古文書入門講座 [全 8 回] ※歴史部門 [笠原] 担当

延べ 70 名

期日		講師	演題	参加者数	備考
1	5月10日 土	笠原雅史	子ども早学問	11	申込者数 12
2	5月11日 日		子ども早学問	10	
3	5月17日 土		書館定	8	
4	5月18日 日		書館定	10	
5	5月24日 土		平泉往来	9	

	期日		講師	演題	参加者数	備考
6	5月25日	日		平泉往来	10	申込者数 12
7	5月31日	土		平泉往来	6	
8	6月1日	日		平泉往来	6	

■伝統芸能鑑賞会

期日		講師	テーマ	参加者数	備考
7月12日	土	岩手町 川口神楽・きつね踊り保存会	川口神楽・川口きつね踊り	176	午前 94、午後 82

※企画展「ふるさととは岩手 八戸藩の礎となった母と子～二代藩主南部直政と生母霊松院～」関連事業。今年度は演舞のほか、来場者参加のワークショップを同時開催した。※岩手県文化振興事業団自主事業

■自然観察会 [全2回] ※生物部門 [渡辺・鈴木] 担当 延べ 36名

期日		講師	演題	参加者数	備考
6月29日	日	千葉武勝氏 (元岩手県農業試験場職員)	第67回自然観察会「昆虫観察会」	13	於、網張温泉 ※定員制
9月27日	土	鈴木まほろ	第68回自然観察会「シカに食べられる森」	23	於、住田町 ※定員制

■地質観察会 [全2回] ※地質部門 [吉田・望月] 担当 延べ 49名

期日		講師	演題	参加者数	備考
7月6日	日	杉山了三氏 (岩手県立盛岡第三高等学校)	第67回地質観察会「一戸町の根反川沿いの珪化木地帯を歩く」	22	於、一戸町 ※定員制
10月5日	日	永広昌之氏 (東北大学名誉教授)	第68回地質観察会「ペルム紀の陸前高田市の海の生物を観る」	27	於、陸前高田市 ※定員制

■博物館館務実習 [全7日] ※学芸第三課 [八木] 担当 延べ 35名

期日		講師	演題	参加者数	備考
8月21日	木	中山敏館長	実習にあたって	5	申込者数 5
		八木 (学芸第三課)	岩手県立博物館概要説明		
		石川・齋藤解説員	展示解説の実務		
		八木 (学芸第三課)	施設見学		
8月22日	金	生物部門	展示・資料整理の実務	5	
8月23日	土	羽柴 (学芸第一課)	博物館事業広報の実務	5	
		考古部門	展示・資料整理の実務		
8月24日	日	文化財科学部門	環境保全・資料保存の実務	5	
		中山敏館長・八木	教育普及の実務		
		関 (総務課)	博物館管理業務の実務		
8月26日	火	鈴木 (学芸第二課)	博物館資料管理の実務	5	
		民俗部門	展示・資料整理の実務		
8月27日	水	地質部門	展示・資料整理の実務	5	
8月28日	木	歴史部門	展示・資料整理の実務	5	
		藤井学芸部長	講義「地方博物館の使命と役割」		

■文化財等取扱講習会 [全3日] ※岩手県博物館等連絡協議会共催/学芸第二課 [吉田] ほか担当 延べ 91名

期日		講師	演題	参加者数	備考
2月4日	水	鎌田	共通：文化財資料取扱概論	30	申込者数 31 (22 機関) ※初級コース 18、実践コース 13
		赤沼	共通：文化財資料管理～保存環境		
		鈴木	共通：文化財資料管理～資料登録とその他の手続き		
		吉田・鈴木	共通：文化財資料取扱① 自然～地質分野・生物分野		
2月5日	木	笠原・川向・丸山	初級：文化財資料取扱② 人文～歴史分野・民俗分野・考古分野	31	
		川又	実践：災害と文化財～修復施設見学		
		鈴木	実践：災害と文化財～被災資料の修復 (生物) ワークショップ		
		西和彦氏 (文化庁文化財部記念物課)	共通：特別講演会 (冬期文化講演会) 「世界遺産の現状と取り組み」		

期日	講師	演題	参加者数	備考
2月5日	鈴木・吉田・川又・瀬川	実践：事例検討会	31	申込者数 31 (22 機関) ※初級コース 18、実践コース 13
	齋藤・鎌田・笠原・川向	共通：文化財資料取扱② 人文～古美術分野・資料梱包		
2月6日	いわねスタジオ (カメラマン 岩根悠樹氏・岩根大輔氏)・羽柴・川向・齋藤	共通：文化財取扱実技～写真撮影法の基礎	30	
	赤沼ほか	共通：意見交換会		

※県内市町村教育委員会文化財担当者及び岩手県博物館等連絡協議会加盟館園担当職員を対象とする講習会。今年度から文化財科学部門と学芸第二課員が中心となり企画運営した。また、今年度からコース選択を初級と実践の二択とした。【参加機関 (順不同)】盛岡市教育委員会、盛岡市遺跡の学び館、盛岡市中央公民館、原敬記念館、もりおか歴史文化館、石川啄木記念館、盛岡市都南歴史民俗資料館、紫波町教育委員会、一関市教育委員会、石と賢治のミュージアム、雫石町教育委員会、雫石町歴史民俗資料館、久慈市教育委員会、久慈琥珀博物館、釜石市教育委員会、釜石市郷土資料館、住田町教育委員会、北上市立博物館、軽米町教育委員会、鯨と海の科学館、二戸歴史民俗資料館、岩手県立水産科学館

■第6回岩手県立博物館まつり

期日	テーマ	参加者数	備考
9月23日	火・祝 各種ワークショップほか	1,390	総合受付数 (子ども 674、保護者 716)

※当館及び事業団職員、友の会会員、ボランティア 29名 (教員研修 17名、学生 7名・一般 6名) により屋内外で下記のプログラムを実施した。【屋内】化石のレプリカづくり [教室]、土版づくり [実技室]、まが玉ネックレスづくり [喫茶ひだまり]、へんしんしよう [体験学習室]、アニメシアター [講堂]、チャレンジ! はくぶつかん [展示室内]、缶バッジづくり [グラウンドホール]、【屋外】たんけん! 植物園・岩石園 [植物園・岩石園]、白澤みさきコンサート [芝生広場]、むかしあそび [曲がり屋]、石うすひき [直屋] ※岩手県文化振興事業団自主事業。

■たいけん教室～みんなのためそう～ [全 51 回] ※学芸第三課 [解説員] 担当 延べ 1,906 名 (うち子ども 1,093 名)

	期日	講師	テーマ	参加者数	備考
1	4月6日	日	解説員	スライムであそぼう	44 子ども 25、保護者 19
2	4月13日	日	解説員	砂絵	36 子ども 21、保護者 15
3	4月20日	日	解説員	こいのぼりリース	35 子ども 18、保護者 17
4	4月27日	日	解説員	まが玉アクセサリー	30 子ども 19、保護者 11
5	5月4日	日	解説員	土器づくり	48 子ども 24、保護者 24
6	5月11日	日	解説員	石のオリジナルはんこ	20 子ども 13、保護者 7
7	5月18日	日	解説員	ふしぎなビー玉おもちゃ	25 子ども 15、保護者 10
8	5月25日	日	解説員	石から絵の具をつくろう	19 子ども 11、保護者 8
9	6月1日	日	解説員	チャグチャグ馬コづくり	35 子ども 19、保護者 16
10	6月8日	日	解説員	でんでんだいこ	26 子ども 15、保護者 11
11	6月15日	日	解説員	草花のそめもの	39 子ども 24、保護者 15
12	6月22日	日	解説員	化石のレプリカづくり	45 子ども 26、保護者 19
13	6月29日	日	解説員	まが玉アクセサリー	42 子ども 28、保護者 14
14	7月6日	日	木藤古徳一郎氏・解説員	木の工作教室	34 子ども 20、保護者 14
15	7月13日	日	解説員	のびちぢみしゃくとり虫	37 子ども 20、保護者 17
16	7月20日	日	解説員	ちぎり絵のうちわ	45 子ども 25、保護者 20
17	7月27日	日	解説員	ガラスの万華鏡	48 子ども 27、保護者 21
18	8月3日	日	解説員	かけじくをつくろう	38 子ども 21、保護者 17
19	8月10日	日	解説員	ちぎり絵のうちわ	40 子ども 25、保護者 15
20	8月17日	日	解説員	土版づくり	42 子ども 24、保護者 18
21	8月24日	日	解説員	こはくの玉づくり	39 子ども 24、保護者 15
22	8月31日	日	解説員	恐竜ぬりえカード	19 子ども 10、保護者 9
23	9月14日	日	佐藤克英氏・解説員	竹トンボ	31 子ども 17、保護者 14
24	9月21日	日	解説員	偏光フィルターの万華鏡	37 子ども 23、保護者 14
25	9月28日	日	解説員	スライムであそぼう	38 子ども 23、保護者 15
26	10月5日	日	解説員	こはくの玉づくり	38 子ども 21、保護者 17
27	10月12日	日	解説員	からくり刀おもちゃ	33 子ども 20、保護者 13
28	10月19日	日	解説員	石から絵の具をつくろう	23 子ども 12、保護者 11
29	10月26日	日	解説員	葉っぱのカラフルカード	32 子ども 20、保護者 12
30	11月2日	日	解説員	土偶づくり	50 子ども 27、保護者 23

	期日		講師	テーマ	参加者数	備考
31	11月9日	日	解説員	光るバッジづくり	37	子ども23、保護者14
32	11月16日	日	解説員	化石のレプリカづくり	42	子ども24、保護者18
33	11月23日	日	解説員	ほのぼののあかり	29	子ども17、保護者12
34	11月30日	日	解説員	松ぼっくりのXmas ツリー	45	子ども24、保護者19
35	12月7日	日	解説員	松ぼっくりのXmas ツリー	39	子ども22、保護者17
36	12月14日	日	飯坂真紀氏・解説員	ごんげんさまのカスタネット	34	子ども18、保護者16
37	12月21日	日	解説員	かんたん門松づくり	36	子ども25、保護者11
38	12月28日	日	解説員	まゆで干支(未)づくり	48	子ども25、保護者23
39	1月4日	日	解説員	まゆで干支(未)づくり	48	子ども26、保護者22
40	1月11日	日	解説員	みずきだんご	33	子ども18、保護者15
41	1月18日	日	解説員	たこづくり	45	子ども26、保護者19
42	1月25日	日	解説員	ほかほかカイロづくり	38	子ども22、保護者16
43	2月1日	日	解説員	化石のレプリカづくり	42	子ども23、保護者19
44	2月8日	日	解説員	ガラスの万華鏡	39	子ども21、保護者18
45	2月15日	日	解説員	こはくの玉づくり	49	子ども26、保護者23
46	2月22日	日	解説員	はまぐりのおひなさま	44	子ども24、保護者20
47	3月1日	日	解説員	まが玉アクセサリー	38	子ども22、保護者16
48	3月8日	日	解説員	スライムであそぼう	54	子ども30、保護者24
49	3月15日	日	解説員	ばねのキツツキおもちゃ	35	子ども20、保護者15
50	3月22日	日	解説員	石のオリジナルはんこ	30	子ども19、保護者11
51	3月29日	日	解説員	板がえし	33	子ども21、保護者12

※当館解説員と3名の外部講師による幼児～小学生対象のワークショップ。定員はプログラムごとに20～30名の範囲内で設定した。

■冬休みワクワク！ワークショップ ※学芸第三課 [解説員] 担当 延べ229名(うち子ども130名)

期日	講師	テーマ	参加者数	備考
1月9日 金	解説員・望月 [解説]	化石のレプリカ、恐竜ぬりえカレンダー	84	子ども50、保護者34
1月10日 土	解説員・望月 [解説]		145	子ども80、保護者65

※当館解説員による小学生対象ワークショップ。過去2回は「冬休みたいけん教室」として実施したが、今年度よりイベント名を変更した。

■冬の写生会 ※総務課 [関] 担当 延べ56名

	期日	テーマ	参加者数	備考
1	12月13日～1月12日	写生会	47	作品応募32名
2	1月24日～2月15日	展示会	9	

※岩手県文化振興事業団自主事業

■ミュージアムシアター [全10回] ※岩手県中央地域視聴覚ライブラリー共催/学芸第三課担当 延べ431名(うち子ども193名)

	期日	運営	テーマ	参加者数	備考
1	4月5日 土	八木・望月	■忍たま乱太郎シリーズ「ただのドケチじゃないの段」「学園長のワラ人形の段」「がんばるしかないさ～あたたかい心でしんせつにする」「よいと思うことをおこなう」「きまるを守って協力しあう」■恐竜作品「恐竜くんのリサイクル」「LostAnimals よみがえる絶滅動物たち」	103	子ども63、大人40 ※小学生向け(16mmフィルム)
2	5月3日 土	丸山	■だるまちゃんシリーズ「だるまちゃんとかみなりちゃん」「だるまちゃんとかみなりちゃん」■ムーミンシリーズ「ぼくは王様だ」「落ちてきた星の子」	43	子ども22、大人21 ※幼児～小学生向け(16mmフィルム)

期日		運営	テーマ	参加者数	備考
3	6月7日	土 協力：県南第一地域視 聴覚ライブラリー水 沢本館 川向	■たまごにいちゃんシリーズ「たま ごにいちゃん」「こんにちほたまご にいちゃん」「がんばる！たまごに いちゃん」■ねごごかなシリーズ「ね ごごかな」「おどるねごごかな」「そ らとぶねごごかな」「ねむるねごご かな」	38	子ども 22、大人 16 ※幼児～小学生向け (DVD)
4	7月5日	土 鎌田・丸山	■くずの葉ぎつね■あんじゅとずし おう■七夕ものがたり	26	子ども 12、大人 14 ※小学生～一般向け (16mm フィルム)
5	8月2日	土 協力：県南第一地域視 聴覚ライブラリー水 沢本館・千厩分館 川向・丸山	■じごくのそうべえ■さよならカバ くん■オバケちゃん■幽霊屋敷	74	子ども 42、大人 32 ※幼児～小学生向け (16mm フィルム)
6	10月4日	土 協力：県南第一地域視 聴覚ライブラリー江 刺分館・千厩分館 八木・望月	■よみがえる100年前の世界～カー ンが見たニッポン■ヒロシマの記憶 幻の原爆フィルムで歩く広島	19	大人 19 ※一般向け(DVD)
7	11月1日	土 協力：県南第一地域視 聴覚ライブラリー江 刺分館、桜映画社・川 本プロダクション 川向	■ひさかたの天二上■死者の書	25	大人 25 ※一般向け(DVD)
8	12月6日	土 佐々木・川向	■ボウさんの雪だるま■ミッキーマ ウスの楽しい冬■ミッキーマウスと ゆかいな仲間たち■森のトントたち クリスマス・クリスマス ■十二支の はじまり■年神様とお正月	57	子ども 31、大人 26 ※幼児～小学生向け (16mm フィルム)
9	2月7日	土 望月・笠原	■むかしの暮らし■県政映画	20	大人 20 ※一般向け(16mm フィ ルム)
10	3月7日	土 協力：県沿岸第一地域 視聴覚ライブラリー 八木	■自分たちで生命を守った村■県政 映画	26	子ども 1、大人 25 ※一般向け(16mm フィ ルム)

※映写は16ミリ映写機操作技術講習会修了証を有するライブラリー映写ボランティアが担当した。

■岩手県植物誌調査会 [全16回] 生物部門 [鈴木] 担当

延べ190名

期日		担当	テーマ	参加者数	備考
1	4月12日	鈴木まほろ	標本同定会	16	※岩手県立博物館内で 開催
2	4月19日		標本同定会	24	
3	5月6日		押し葉作り講習会	16	
4	6月7日		標本同定会	12	
5	6月28日		標本同定会	6	
6	8月9日		標本同定会	10	
7	9月13日		標本同定会	11	
8	9月20日		標本同定会	10	
9	10月11日		標本同定会	12	
10	11月15日		標本同定会	13	
11	11月29日		標本同定会	10	
12	12月6日		標本同定会	9	
13	1月17日		標本同定会	11	
14	2月7日		標本同定会	11	
15	2月21日		標本同定会	9	
16	3月21日		標本同定会	10	

※当館が運営に協力したもの。

■県博出前講座

	期日		派遣職員	テーマ	参加者数	依頼者
1	9月9日	火	渡辺修二	「水生生物調査」	12	盛岡市立太田小学校
2	9月28日	日	山屋賢一	文化祭での郷土芸能解説・講評「江刺家手の山伏神楽」	150	岩手県立伊保内高等学校郷土芸能委員会
3	9月30日	火	望月貴史	6年生理科授業「化石のレプリカづくり」	103	北上市立黒沢尻東小学校
4	10月1日	木	鈴木まほろ	「標本同定」	12	岩手県立大船渡高等学校自然科学部
6	11月27日	木	赤沼秀男	1年生キャリア教育「文化財レスキューについて」	40	岩手県立杜陵高等学校（定時制）
7	12月5日	金	佐々木勝宏	1年生キャリア教育「博物館の仕事」	40	岩手県立杜陵高等学校（定時制）
8	2月3日	火	山屋賢一	3年生授業「さぐってみよう昔の暮らし」	16	盛岡白百合学園小学校

※当館が講師派遣に係る旅費を支出したのもの。

III 講演会・講座に係る職員派遣

期日		依頼者 [主催者]	派遣職員	テーマ	対象	参加者数	備考
6月15日	日	住田町教育委員会	鈴木まほろ	森林学習講座「目指せ森の達人講座」 講演講座「初夏の花と花に来る虫」	一般	40	於、遊林ランド種山
7月3日	木	岩泉町民会館	佐々木勝宏	特別展開連事業 講演講座「岩泉町中里と八戸藩」	一般（岩泉町民）	36	於、岩泉町民会館
7月13日	日	自然観察指導員ネットワーク岩手	鈴木まほろ	自然観察指導員研修会 講演講座「海岸の絶滅危惧植物」	自然観察指導員ほか	10	於、宮古市津軽石・山田町船越
7月20日	日	青森県／八戸市博物館	佐々木勝宏	特別展開連事業 講演講座「八戸藩名家のルーツ」	一般	64	於、青森県／八戸市博物館
7月21日	月	岩手県環境生活部自然保護課 [早池峰グリーンボランティア]	鈴木まほろ	ボランティアスキルアップ研修会 講演講座「早池峰山の高山植物とシカの食痕」	早池峰グリーンボランティア	14	於、早池峰山小田越
8月1日	金	大津波被災文化財修復技術連携プロジェクト実行委員会	赤沼英男 鈴木まほろ	被災資料の安定化処理講演会・ワークショップ 講演講座「被災自然史標本の安定化処理」	一般	40	於、仮設陸前高田市立博物館
9月4日	木	岩手県高等学校教育研究会理科部会二戸支部	鈴木まほろ	二戸地区理科教員対象研修会 講演講座「岩手の帰化植物」	教員	6	於、岩手県立福岡工業高校
9月5日	金	気仙伝統文化活性化委員会事務局 [住田町教育委員会・気仙伝統文化活性化委員会一般社団法人ケセンきらめき大学]	川向富貴子	ヘリテージマネージャー養成講座「気仙の信仰習俗再発見による地域伝統文化活性化事業」 講演講座「全国のなかの岩手 岩手の中の気仙」	一般	30	於、大船渡市シーパル大船渡
9月6日	土	生物多様性 JAPAN [IUBS (国際生物学連合) ほか]	鈴木まほろ	国際シンポジウム "Disaster and Biodiversity" 講演講座 "Salvage and restoration of natural history collections damaged by tsunami in Japan 2011" (「2011年の津波で被災した自然史標本の救出と修復」)	一般	50	於、宮城県／東北大学片平キャンパス
9月21日	日	金ケ崎町	鈴木まほろ	生物多様性戦略策定に係る自然観察会 講演講座「駒ヶ岳の自然観察」	児童・保護者	20	於、金ケ崎駒ヶ岳

期日		依頼者 [主催者]	派遣 職員	テーマ	対象	参加 者数	備考
9月27日	土	盛岡市西部公民館	八木勝枝	縄文講座 講演講座「亀ヶ岡文化の広がり」	一般	55	於、盛岡市西部公民館
10月10日	金	岩泉町教育委員会 [岩泉町小本地区高齢者学級]	佐々木勝宏	八戸市の岩泉町ゆかりの地を訪ねる現地見学会 講演講座「岩泉と八戸のかかわりを知る」	一般（岩泉町小本地区高齢者）	39	於、岩泉町小本地区高齢者学級
10月15日	水	一関市市民環境部生活環境課 [ふれあいエコ・ゼミナール実行委員会事務局]	八木勝枝	第22回ふれあいエコ・ゼミナール 講演講座「環境に適応する縄文人」	一般	150	於、一関文化センター中ホール
10月18日	土	金ヶ崎町	鈴木まほろ	生物多様性戦略策定に係る自然観察会(第二回) 講演講座「駒ヶ岳の自然観察」	一般	20	於、金ヶ崎駒ヶ岳
11月4日	火	盛岡少年院 教養講話	藤井忠志	白神山地とクマガラ	少年・教師	43	於、盛岡市月が丘 盛岡少年院
11月21日	金	大津波被災文化財修復技術連携プロジェクト実行委員会	赤沼英男 鈴木まほろ	被災資料の安定化処理講演会・ワークショップ 講演講座「被災資料の安定化処理」	一般	40	於、三重県立美術館
11月29日	土	釜石市鶴住居川原町町内会 [川原町町内会・氏子会]	佐々木勝宏	鶴住神社と鶴住居観音の変遷について知る 講演講座「信仰と地域の繋がりと行事の在り方」	町内会役員と氏子総代・信者総代	21	於、釜石市/鶴住神社神輿庫集会所
11月30日	日	NPO 法人きたかみツーリズムプロモーション	羽柴直人	第2回きたかみストーリーナビゲーター 講演講座「安倍氏の柵とは何か」	一般	21	於、北上市・金ヶ崎町・盛岡市
12月9日	火	岩手県森林組合連合会	鈴木まほろ	平成26年度森林・林業人材育成加速化事業に係る研修講演講座「森林植生とニホンジカ問題」	研修生	13	於、岩手県森林組合会館
12月14日	日	岩手町立石神の丘美術館	山屋賢一	「沼宮内山車百年祭写真展」関連講座 講演講座「沼宮内山車歴代演題から見えてくること」	一般	40	於、岩手町立石神の丘美術館
12月23日	火	北上市鬼の館	山屋賢一	鬼学講座 講演講座「鬼の山車」	一般	20	於、北上市鬼の館
12月24日	水	岩手日報社広報事業部	佐々木勝宏	現地指導「鶴住居身代わり観音立像・仏具の梱包・運搬」	岩手日報社員	6	於、釜石市/鶴住居観音堂
1月7日	水	岩手日報社広報事業部	佐々木勝宏	現地指導「鶴住居身代わり観音立像・仏具の運搬・開梱・展示」	岩手日報社員・川徳宝飾部	12	於、盛岡市/パルクアベニューカワトク
1月10日	土	北上市立埋蔵文化財センター	羽柴直人	北上市平成26年度埋蔵文化財講演会 講演講座「考古学で探る安倍・清原・奥州藤原氏時代の北上」	一般	約80	於、北上市/日本現代詩歌文学館
1月14日	水	岩手日報社広報事業部	佐々木勝宏	現地指導「鶴住居身代わり観音立像・仏具の梱包・運搬」	岩手日報社員・川徳宝飾部	12	於、盛岡市/パルクアベニューカワトク
1月16日	金	岩手日報社広報事業部	佐々木勝宏	現地指導「鶴住居身代わり観音立像・仏具の運搬・開梱・展示」	岩手日報社員	3	於、釜石市/鶴住居観音堂
1月16日	金	大津波被災文化財修復技術連携プロジェクト実行委員会	赤沼英男	被災資料の安定化処理講演会・ワークショップ「被災文化財等の安定化処理」	一般	60	於、兵庫県立歴史博物館
1月19日	月	岩手県公立高等学校事務職員協会花巻支部	赤沼英男	岩手県公立高等学校事務職員協会花巻支部研修会 講演講座「平成の大津波で被災した文化財の再生」	事務職員	約10	於、岩手県立花巻北高等学校

期日	依頼者 [主催者]	派遣 職員	テーマ	対象	参加 者数	備考
1月22日	木 「みんなでまもるミュージアム」事業	鈴木まほろ	「みんなでまもるミュージアム」全体会議 講演講座「陸前高田市立博物館所蔵自然史標本のレスキューのためのネットワーク」	一般（事業構成員）	65	於、九州国立博物館
1月23日	金 大津波被災文化財修復技術連携プロジェクト実行委員会	赤沼英男 鈴木まほろ	被災資料の安定化処理講演会・ワークショップ 講演講座「被災自然史標本の安定化処理」	一般	20	於、宮崎県総合博物館
2月7日	土 北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す道民会議 [縄文世界遺産推進室]	八木勝枝	北の縄文セミナー 講演講座「ところかわれば土偶もかわる～遮光器土偶、北海道への旅～」	一般	170	於、北海道庁赤れんが庁舎
2月26日	木 県南広域振興局保健福祉環境部一関保健福祉環境センター環境衛生課	渡辺修二	いわい地域の流域連携交流会 講演講座「岩手の生物多様性を守るには」	一般	30	於、一関地区合同庁舎
2月28日	土 岩手県立大学総合政策学部・たきざわ環境パートナー会議いきもの探偵隊・滝沢市	鈴木まほろ	外来植物対策講演会 講演講座「岩手県内の外来植物」	一般	62	於、滝沢市公民館ホール
3月7日	土 岩手県立図書館	笠原雅史	企画展関連講演会 講演講座「釜石鉱山と大島高任」	一般	61	於、岩手県立図書館
3月11日	水 釜石市／鶴住居観音堂 [観音堂奉讃会]	佐々木勝宏	お堂の変遷の観音信仰 講演講座「ご本尊様と身代わり様」	信者	38	於、釜石市／鶴住神社籠場
3月11日	水 大津波被災文化財修復技術連携プロジェクト実行委員会	赤沼英男	「文化財を守る絆」パネルディスカッション	一般	80	於、東京国立博物館
半期	金 岩手大学	赤沼英男	博物館資料保存論（全15回）	岩手大学大学生	-	於、岩手大学
半期	水 岩手大学	齋藤里香	博物館展示論（全15回）	岩手大学大学生	-	於、岩手大学

## イ. 学校教育との連携

### (ア) 博物館展示活動を活用した学習利用の受け入れ

今年度の教育機関の来館状況は、下記のとおりである。合計で130校（昨年128校）、5,446人（昨年4,176人）が来館し、増加傾向にある。東日本大震災後増加していた宮城県など他県の小学校利用が減少に転じる一方で、県内の中学校、高等学校、大学等の利用が増加している。

	期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計	
小学校	1	4月30日	岩手県	小	八幡平市立大更小学校	研修	4	72	76
	2	5月2日	岩手県	小	盛岡市立東松園小学校	社会・道徳授業	2	43	45
	3	5月9日	岩手県	小	盛岡市立杜陵小学校	総合的な学習	1	15	16
	4	5月29日	宮城県	小	名取市那智が丘小学校	修学旅行	5	59	64
	5	6月11日	岩手県	小	岩泉町立小本小学校	修学旅行	4	15	19
	6	6月12日	宮城県	小	大和町立鶴巣小学校	修学旅行	5	19	24
	7	6月12日	岩手県	小	一関市立湧津小学校	遠足・修学旅行	6	23	29
	8	6月12日	宮城県	小	仙台市立虹の丘小学校	修学旅行	5	44	49



		期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
小学校	9	6月13日	宮城県	小	気仙沼市立九条小学校	修学旅行	6	57	63
	10	6月18日	秋田県	小	鹿角市立花輪北小学校	自由見学	2	19	21
	11	6月26日	岩手県	小	盛岡市立洪民小学校	体験教室	1	10	11
	12	6月26日	宮城県	小	仙台市立台原小学校	修学旅行	6	103	109
	13	7月10日	岩手県	小	岩手大学教育学部附属小学校	社会科授業	4	96	100
	14	8月22日	岩手県	小	岩手町立沼宮内小学校	総合的な学習 ／社会科見学	4	46	50
	15	9月11日	岩手県	小	久慈市立久喜小学校	修学旅行	3	12	15
	16	9月11日	宮城県	小	大崎市立敷玉小学校	修学旅行	3	20	23
	17	9月11日	宮城県	小	気仙沼市立階上小学校	見学	3	37	40
	18	9月12日	岩手県	小	山田町立大沢小学校	見学	2	9	11
	19	9月12日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	生活科授業	2	40	42
	20	9月12日	岩手県	小	盛岡市立中野小学校	見学	5	110	115
	21	9月18日	宮城県	小	加賀美町立旭小学校	見学	3	3	6
	22	9月18日	岩手県	小	盛岡市立緑が丘小学校	遠足	9	132	141
	23	9月19日	岩手県	小	奥州市立南都田小学校	遠足	3	43	46
	24	9月19日	宮城県	小	南三陸町立志津川小学校	修学旅行	6	47	53
	25	9月26日	岩手県	小	岩手町立浮島小学校	見学	2	4	6
	26	9月26日	岩手県	小	盛岡市立山王小学校	社会科見学	2	17	19
	27	9月26日	秋田県	小	鹿角市立十和田小学校	校外学習（社会科）	4	52	56
	28	9月26日	岩手県	小	滝沢市立鶴飼小学校	社会の授業	7	154	161
	29	9月30日	岩手県	小	八幡平市立平館小学校	生活科見学	3	22	25
	30	9月30日	岩手県	小	盛岡市立津志田小学校	社会科見学	11	115	126
	31	10月2日	岩手県	小	盛岡市立巻堀小学校	生活科授業	2	5	7
	32	10月3日	岩手県	小	奥州市立若柳小学校	見学	2	25	27
	33	10月17日	岩手県	小	盛岡市立太田東小学校	社会科授業	2	48	50
	34	10月24日	岩手県	小	滝沢市立一本木小学校	文化財レスキュー	2	26	28
	35	10月28日	岩手県	小	二戸市立中央小学校	社会科見学	2	40	42
	36	10月28日	岩手県	小	盛岡市立山岸小学校	見学	3	66	69
	37	10月30日	宮城県	小	美里町立南郷小学校	修学旅行	7	39	46
	38	11月5日	岩手県	小	滝沢市立滝沢第二小学校	社会（昔の道具や生活）	5	80	85
	39	11月6日	岩手県	小	盛岡市立洪民小学校	授業（社会科見学）	3	40	43
	40	11月11日	岩手県	小	盛岡市立城内小学校	社会科見学	2	6	8
	41	11月19日	岩手県	小	盛岡市立松園小学校	総合学習	3	59	62
	42	11月26日	岩手県	小	滝沢市立篠木小学校	総合学習	2	70	72
	43	11月27日	岩手県	小	滝沢市立鶴飼小学校	社会科見学	9	154	163

		期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
小学校	44	12月5日	岩手県	小	盛岡市立松園小学校	総合学習	3	59	62
	45	12月3日	岩手県	小	八幡平市立寺田小学校	社会科見学	3	19	22
	46	12月5日	岩手県	小	盛岡市立松園小学校	総合学習	3	59	62
	47	12月16日	岩手県	小	岩手大学教育学部附属小学校	校外学習	4	100	104
	48	1月23日	岩手県	小	盛岡市立北厨川小学校	社会科学習	3	39	42
	49	2月10日	岩手県	小	盛岡市立厨川小学校	社会科学習	3	55	58
	50	2月18日	岩手県	小	盛岡市立青山小学校	社会科学習	4	95	99
	51	2月20日	岩手県	小	滝沢市立滝沢東小学校	社会科学習	2	52	54
合計							192	2,574	2,766

		期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
中学校	1	4月17日	北海道	中	乙部町立乙部中学校	遠足・修学旅行	5	35	40
	2	4月25日	岩手県	中	久慈市立長内中学校	自習研修	0	11	11
	3	5月9日	岩手県	中	盛岡市立米内中学校	遠足・修学旅行	2	27	29
	4	5月14日	秋田県	中	横手市立平鹿中学校	教育課程に基づく教育活動	10	112	122
	5	5月16日	青森県	中	八戸市立江陽中学校	遠足・修学旅行	2	40	42
	6	5月28日	岩手県	中	二戸市立金田一中学校	自習研修	0	6	6
	7	5月29日	青森県	中	弘前市立第二中学校	盛岡市内自習見学	0	6	6
	8	5月30日	岩手県	中	滝沢市立滝沢中学校(特別支援学級)	自習研修	0	4	4
	9	5月30日	秋田県	中	鹿角市立花輪第一中学校	自習研修	0	5	5
	10	5月30日	秋田県	中	鹿角市立花輪第一中学校	自習研修	0	6	6
	11	7月4日	岩手県	中	花巻市立東和中中学校	遠足・修学旅行	5	79	84
	12	7月8日	岩手県	中	久慈市立侍浜中学校	自習研修	0	4	4
	13	7月15日	岩手県	中	八幡平市立安代中学校	職場体験	1	1	2
	14	7月16日	岩手県	中	八幡平市立安代中学校	職場体験	1	1	2
	15	7月24日	岩手県	中	岩手町立川口中学校	古文事前学習	1	26	27
	16	8月8日	岩手県	中	奥州市立前沢中学校学芸部	部活動	2	21	23
	17	8月22日	岩手県	中	盛岡市立黒石野中学校	職場体験	1	3	4
	18	8月27日	岩手県	中	盛岡市立上田中学校	職場体験	1	5	6
	19	9月25日	岩手県	中	二戸市立福岡中学校	宿泊研修	10	169	179
	20	10月7日	岩手県	中	岩手大学教育学部附属中学校	職場訪問(総合学習)	0	2	2
	21	10月16日	東京都	中	私立桐朋中学校	修学旅行	4	59	63
	22	10月28日	岩手県	中	一関付属中学校	自習研修	0	6	6
	23	10月28日	岩手県	中	一関付属中学校	自習研修	0	7	7
	24	10月29日	岩手県	中	滝沢市立滝沢南中学校	職場体験	0	4	4
	25	10月30日	岩手県	中	滝沢市立滝沢南中学校	職場体験	0	4	4
合計							45	643	688

		期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
高等学校	1	8月1日	岩手県	高	岩手県立宮古高等学校	授業	2	38	40
	2	8月19日	岩手県	高	岩手県立岩泉高等学校	授業	2	60	62
	3	9月23日	岩手県	高	岩手県立久慈高等学校	授業	1	20	21
	4	9月23日	岩手県	高	岩手県立久慈東高等学校	授業	1	12	13
	5	10月9日	岩手県	高	岩手県立水沢工業高等学校	授業	7	73	80
	6	10月13日	岩手県	高	岩手県立久慈東高等学校	職場訪問	0	1	1
	7	11月7日	岩手県	高	岩手県立大槌高等学校	授業	2	85	87
	8	11月12日	東京都	高	東京都立拝島高等学校	修学旅行	3	55	58
	9	12月24日	岩手県	高	岩手県立高田高等学校	授業	2	30	32
合計							20	374	394

		期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
大学・専門学校	1	4月12日	岩手県	大	盛岡大学文学部英語文化学科	新入生オリエンテーション	14	76	90
	2	4月12日	岩手県	大	岩手大学人文社会学部環境科学課程	新入生オリエンテーション	4	38	42
	3	5月9日	青森県	大	八戸工業大学バイオ環境工学科	見学	6	53	59
	4	6月7日	岩手県	大	いわて学講座	講演	4	61	65
	5	9月19日	岩手県	大	盛岡大学	インターンシップ	0	1	1
	6	9月19日	岩手県	大	岩手大学	インターンシップ	0	1	1
	7	9月23日	岩手県	大	盛岡大学	博物館まつりボランティア	0	2	2
	8	9月23日	岩手県	大	岩手大学	博物館まつりボランティア	0	3	3
	9	10月29日	岩手県	大	岩手大学	見学	0	32	32
	10	11月15日	宮城県	大	東北福祉大学	博物館実習	2	19	21
合計							30	286	316

		期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
特別支援学校	1	4月18日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校 小学部	校外学習	1	3	4
	2	5月2日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校 小学部	校外学習	1	3	4
	3	6月13日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校 小学部	校外学習	3	4	7
	4	7月1日	岩手県	特	岩手県立盛岡聴覚支援学校小学部	授業(昔の暮らし)	2	2	4
	5	7月4日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校中学部	職場体験	0	3	3
	6	7月4日	岩手県	特	紫波郡特別支援教育研究会	校外学習	18	21	39
	7	7月4日	岩手県	特	矢巾町立矢巾中学校(特別支援学級)他	校外学習	7	15	22

		期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
特別支援学校	8	7月9日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校 小学部	校外学習	6	8	14
	9	10月1日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校 中学部	職場体験	1	1	2
	10	10月2日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校 中学部	職場体験	1	1	2
	11	10月10日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校 中学部	職場体験	1	1	2
	12	10月17日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校 (訪問教育部)	校外学習	6	13	19
	13	11月7日	岩手県	特	岩手県立盛岡政商支援学校 小学部	理科・社会 学習	4	9	13
	14	11月21日	岩手県	特	岩手県立盛岡みたけ支援学校	校外学習	5	5	10
	15	2月5日	岩手県	特	岩手県立盛岡視覚支援学校	校外学習	3	3	6
	16	3月17日	岩手県	特	岩手県立盛岡峰南高等支援学校	校外学習	10	3	13
合計							69	95	164

		期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
保育園	1	6月13日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	見学	2	26	28
	2	6月27日	岩手県	保	こずかた保育園	親子遠足	47	41	88
	3	7月18日	岩手県	保	あゆみ保育所	年長児遠足	3	17	20
	4	7月18日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	見学	2	25	27
	5	7月23日	岩手県	保	わかば保育園	見学	4	21	25
	6	7月25日	岩手県	保	わかば保育園	お泊まり会	4	21	25
	7	8月29日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	見学	4	37	41
	8	10月9日	岩手県	保	津志田つばさ園	親子遠足	105	80	185
	9	10月24日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	遠足	9	2	11
	10	1月30日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	3	24	27
合計							183	294	477

		期日	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
幼稚園	1	5月8日	岩手県	幼	盛岡市立太田幼稚園	遠足	9	106	115
	2	5月25日	岩手県	幼	盛岡大学附属幼稚園	見学	6	48	54
	3	7月17日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	自由見学	10	37	47
	4	10月3日	岩手県	幼	月が丘幼稚園	遠足	20	163	183
	5	10月8日	岩手県	幼	つつみ幼稚園	園外保育	9	76	85
	6	10月31日	岩手県	幼	みどりが丘幼稚園	見学	4	7	11
	7	1月22日	岩手県	幼	盛岡白百合学園幼稚園	学習	2	24	26
	8	2月8日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	見学	8	4	12
	9	3月6日	岩手県	幼	青葉幼稚園	卒業遠足	105	3	108
合計							173	468	641

	平成 26 年度		※下見を含まない			合計
	県内	秋田	宮城	青森	他	
特	16					16
小	39	2	10			51
中	19	2		2	2	25
高	8				1	9
大	8		1	1		10
幼	9					9
保	10					10
合計	109	4	10	3	3	130 校

述べ 5,446 名

### (イ) 教材貸出

今年度は 5 件 27 点の貸出を行った。内訳は下のとおりである。申込が 9 件あり、88 点貸し出した昨年より減少している。例年は考古資料や小学校「社会科」の「昔の暮らし」で活用が可能な炭火アイロンや電話機、洗濯板など民俗資料の他、平安時代の衣装（水干、小桂、白拍子装束）、模造刀などが人気である。

表(2)-3 平成 26 年度の教材貸出一覧

貸出日	貸出先	点数	資料
7/2	岩手大学教育学部附属小学校	2	洗濯板 炭火アイロン
7/11	盛岡白百合学園高等学校	4	狩衣・小桂・水干
1/30	盛岡白百合学園小学校	5	炭火アイロン ランプ 電話機 うちわ そろばん
2/5	滝沢市立滝沢第二小学校	12	こねばち 石臼 アイロン 洗濯板
2/6	盛岡市立見前南中学校	4	蝶の標本 ランプ、 標本作成キットなど

### (ウ) 職場体験・インターンシップ

24 年度から中学校の職場体験への申し込みが増加し、今年度は 9 件 19 名の申込があった。（25 年度は 6 件 26 名）また、今年度は岩手県立大学、岩手大学、盛岡大学の三大学連携インターンシップの一環で岩手県立大学から 1 名、岩手大学から 1 名の学生が 5 日間のインターンシップに参加した。

表(2)-4 平成 26 年度実施職場体験参加校一覧

実施日時	所属校	人数	体験内容
7/4	岩手県立盛岡青松支援学校	2	パネル作成
7/15 ~16	八幡平市立安代中学校	1	資料整理
8/27	盛岡市立上田中学校	5	土器洗い、資料整理
8/22	盛岡市立黒石野中学校	3	資料整理、パネル作成
9/19~9/23	岩手県立大学	1	資料整理、展示作業、博物館まつり対応
9/19~9/23	岩手大学	1	資料整理、展示作業、博物館まつり対応
10/1~2	盛岡青松支援学校	1	資料整理、展示準備
10/10	盛岡青松支援学校	1	資料整理
10/29~30	滝沢市立滝沢南中学校	4	資料の整理

表(2)-5 平成 26 年度実施教職 10 年研修ボランティア受け入れ先一覧

実施日時	所属校	人数	研修内容
9/23	盛岡市立都南東小学校	1	博物館まつりボランティア
9/23	盛岡市立土淵中学校	1	博物館まつりボランティア
9/23	盛岡市立北松園中学校	1	博物館まつりボランティア
9/23	盛岡市立都南東小学校	1	博物館まつりボランティア
9/23	盛岡市立下橋中学校	1	博物館まつりボランティア
9/23	盛岡市立河南中学校	1	博物館まつりボランティア
9/23	雫石町立雫石中学校	1	博物館まつりボランティア
9/23	矢巾町立矢巾北中学校	1	博物館まつりボランティア
9/23	岩手県立盛岡第一高等学校	2	博物館まつりボランティア
9/23	岩手県立盛岡第三高等学校	1	博物館まつりボランティア
9/23	盛岡市立高等学校	6	博物館まつりボランティア
1/10	岩手県立紫波総合高等学校	1	資料整理
2/8	岩手県立盛岡第一高等学校	1	資料整理、たいけん教室、日曜講座対応
2/10	岩手県立杜陵高等学校	1	資料整理
合 計		20	

(エ) 教育機関向け出前講座

日時	依頼者	演題・テーマ・依頼内容	人数	実施者
9/9	盛岡市立太田小学校	水生生物調査	12	渡辺修二・藤井千春（前学芸員）
9/28	岩手県立伊保内高等学校	郷土芸能に係る出前講座	150	山屋賢一
9/30	北上市立黒沢尻東小学校	化石のレプリカづくり	106	望月貴史
11/7	岩手県立杜陵高等学校	文化財レスキューの意義	44	赤沼英男
12/5	岩手県立杜陵高等学校	博物館の仕事	44	佐々木勝宏
2/3	盛岡白百合学校小学校	昔の道具とくらし 地域に伝わる行事	17	山屋賢一

## ウ. 博物館館園実習

学芸員資格取得に係る館務実習について、当館の実習生受入方針に基づいて実施した。当館における実習は、主に県内大学に在学する者、また県出身者を対象としている。地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学に係る博物館資料の整理や展示作業、教育普及事業の実務などの実習、及び社会教育機関としての博物館の役割について講義等を行っている。実習期間と受け入れ人数等は次のとおり。

平成 26 年 8 月 21 日（木）～8 月 28 日（木）（25 日（月）休館日除く 7 日間）

盛岡大学 2 名、新潟大学 1 名、東北芸術工科大学 1 名、昭和女子大学 1 名 計 5 名

## エ. 問合せ受付

日常的に学芸員が対応する問合せについて、集計を行っている。計画されている事業にかかわるものや外部研究者等との日常的な連絡以外、対応したすべての事項となっている。質問等は多岐にわたっており、即答で済む場合や回答に相当期間を要する場合など内容によってさまざまである。調査研究に係わるものも含まれている。

表(2)－6 平成 26 年度問合せ受付状況

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
地質	47	来館	24	拾った石（化石・岩石） 盛岡市周辺の地質 「手掛の松」の岩石の種類と並んで見える理由 ジオパーク 恐竜の寿命や絶滅の理由
		電話	18	施設建設に伴う地質調査のためのボーリングコアなどの柱状図 博物館の見学 モシリユウ 恐竜の画像借用 二戸市・折爪岳周辺の石灰岩分布 地質観察会
		FAX、メール、手紙、その他	5	貸出標本（ハナイズミモリウシ）の仕様や評価額 岩手県博のチラシ希望 奥州市分布の枕状溶岩
生物	138	来館	14	鳥の名 県民会館中庭のツゲに寄生する害虫とその予防農薬 キリギリス・ヤブキリ標本調査 カワシンジュガイの生息域調査 全長 30 cm のトンボが存在するか 外山森林公園で捕まえたクモ 標本閲覧 キノコの同定依頼 環境影響評価に関するヒアリング
		電話	29	イヌワシ以外の大型のワシタカ 陸生貝類 モリアオガエルについて講演できる人の紹介依頼 カワシンジュガイの生態が分かる論文 アゲハチョウの食草 北上川の環境の変化 八幡平市県民の森付近でのウスバシロチョウの生息可能性 オオムラサキの標本化 サクラソウの生育環境 写真掲載依頼
		FAX、メール、手紙、その他	95	北上川沿いの鳥のつく地名 植物写真同定依頼 論文査読依頼
考古	19	来館	11	盛岡市みただけで採集した石の鑑定 角塚古墳の場所 展示している軽米町分の資料リスト 「野牛とその時代」展示資料及び花泉遺跡のオーロックス 竪穴住居の構造 貝殻文土器 縄文土器 遺跡分布 岩手の土偶
		電話	6	岩手県内の黒曜石の産地 祖母が寄贈した縄文土器 八戸藩の代官所跡 森の越遺跡出土琥珀玉 縄文時代の石器 青森県十和田市所在の南朝板碑
		FAX、メール、手紙、その他	2	葦内遺跡出土大型土偶頭部 葦内遺跡 経塚類似遺構

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
歴史	173	来館	49	古文書の内容 仏像の見方 八戸藩関連の質問 前九年合戦の厨川柵 前九年の役 葛西氏家臣の三田氏 金色堂脇の石碑 盛岡城跡の近代における公園利用 南部家伝来工芸品の龍と鬼灯 巻物内容
		電話	80	街道や駅 鶴住居観音 葛巻六観音 八戸藩士 知行地と俸禄 南部領と伊達領の境界 後三年合戦絵巻 江戸時代の道中記の重要性 門松 和紙 葛西氏 文化財の管理方法 南部鉄瓶 刀剣
		FAX、メール、手紙、その他	44	白山信仰 安東氏の家臣団 中級武士の婚姻 八戸領志和 鎮守府の牒 野田代官所文書 川村寿庵 絵画の作者
民俗	108	来館	30	明治天皇巡幸 盛岡八景 岩手県内のえんぶり 湯釜 桜山神社の大岩 スネカと類似する来訪神習俗の分布 綿花の栽培 曲がり屋 武者絵と岩手県内の凧の所在 カナガミ 下駄スケートの歴史 高灯籠 果報団子
		電話	46	集団就職 鹿妻穴堰の歴史 江戸～戦前の南部馬 富岡製糸場の女工 戦争体験の語り 玉蜀黍栽培 柿の木の利用 沖縄方言 陸中八十八所 墓石銘の相談 こなさせ道具 郷土料理 檀山節考 ホームスパン
		FAX、メール、手紙、その他	32	蓑虫山人 四季農耕図 田植え踊り 古伊万里 軒花の分布 念仏供養塔 早池峰神楽 馬の郷土玩具 イタコ 火にまつわる習俗 南部絵暦 藍染め 村田民芸 防雪民具 オフクデン
文化財科学	88	来館	6	文化財の科学分析
		電話	48	腐った柱の補修 古文書の補修 燻蒸業者について 材質の異なる資料を同一ケースで展示する場合の留意点 鉄製品の保存処理について カビの生えた資料のクリーニング方法 文化財の科学分析
		FAX、メール、手紙、その他	34	被災書籍類の再生 文献照会 文化財の保存処理法 被災写真の保存
合計	573			

### (3)調査研究活動

調査研究活動は、博物館の展示活動、教育普及活動等を展開するうえでの基幹活動に位置づけられる。学芸員が取り組む研究テーマは、小テーマ、小テーマを包括する大テーマに区分され、それぞれのテーマに従い研究が行われた。一部の研究テーマについては研究協力員、他機関に所属する研究者と共同で進められた。年度末には「館内調査研究報告会」が実施され、全学芸員から平成26年度の研究進捗状況、研究成果が報告された。また、一定の成果が得られた研究については『岩手県立博物館研究報告』第32号、『岩手県立博物館調査研究報告書』第31冊のほか、学会、学術雑誌、各種報告書等で公表された。上記研究テーマの中には、外部機関の助成金を受け進められたものもあった。考古学部門では岩手県教育委員会からの委託による前平泉文化の研究を、文化財科学部門では外部機関から申請された研究受託を実施した。



## ア. 調査研究活動の概要

地質部門 3 テーマ、生物部門 6 テーマ、考古部門 3 テーマ、歴史部門 5 テーマ、民俗部門 4 テーマ、文化財科学部門 3 テーマで調査研究活動が推進された。

表(3)-1 平成 26 年度 調査研究テーマとその実施状況

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
地質	地域地質に関する研究 A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	望月貴史 吉田充	北上山地内河川堆積物の調査をとおして、金属資源の基礎的研究を行った。特に、奥州市と一関市に跨る大鉢森山周辺の母体変成岩類に由来する礫・砂鉄と、遠野市と住田町境の荷沢峠付近の蛭子館鉾山付近に源をもつ辰砂沢の調査を行った。陸前高田市矢作町飯森でペルム紀の化石採集を行った。
	地域地質に関する研究 B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	吉田充 望月貴史	一戸町根反地区に分布する新第三系四役層の珪化木の分布調査を行った。奥州市～金ヶ崎町に分布する永栄火山灰と前沢火山灰層の鍵火山灰層 (O1P と Hn1P) を採集し、鉍物組成を調べた。
	古生物学的研究	古生代および中生代に関する古生物学的研究	望月貴史	一関市藤沢町大籠地域におけるペルム系大籠層と三畳系平磯層と思われる露頭の調査を行った。その結果、1950 年代に報告があったが正確な場所が不明となっていた、ペルム/三畳系境界層と見られる基底礫岩露頭の再確認をした。またペルム系大籠層上部から、これまでに産出報告がないと思われる化石を発見した。今後は、露頭が本当にペルム/三畳系境界を示しているかどうかを調べるため、化石記録の調査や年代測定などを行う。
生物	地域生態系の研究	北東北三県のブナ林を中心とした森林生態系の生物相に関する研究	藤井忠志 鈴木まほろ 渡辺修二	北東北三県内のブナ林に生息する鳥獣調査を継続実施した(藤井)。北上市・西和賀町の牛形山と駒ヶ岳において植物相の調査を実施し、標本を採集してフロラリストを作成した(鈴木)。宮古市兜明神岳、盛岡市姫神山、八幡平市安比高原において昆虫類、クモ類を調査し、標本を採集した(渡辺)。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
生物	日本産鳥類の生態学的研究	北東北三県における本州産クマゲラ個体群の生息状況およびその生態に関する研究	藤井忠志	県立博物館個別研究費のほか、イオン環境財団からの助成の下、白神山地青森県側・秋田県森吉山・岩手県安比高原等の北東北三県における本州産クマゲラ <i>Dryocopus martius</i> 個体群の生息・生態調査を実施した。その結果、森吉山で1つがいの繁殖・2羽の巣立ち雛を、白神山地世界自然遺産地・櫛石山で雄1個体を確認した。あわせて、樹洞内撮影及び秋期ねぐら木調査も本州産クマゲラ研究会の補助を得て、実施した。
	国内および県内における鳥類分布に関する研究	岩手県産の鳥相に関する研究	藤井忠志	岩手県産鳥類目録の追加・更新作業を継続実施した。特に、雫石町内で繁殖活動を行っているカムムリカイツブリ <i>Podiceps cristatus</i> の県内定着確認調査とサンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i> の繁殖生態調査は3年目を迎えており、成果報告をとりまとめているところである。
	地域の生物分布と生態に関する研究	岩手県内における生物分布と生態に関する研究	渡辺修二	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カワシンジュガイの生息調査を行い、複数の河川で、ここ数年の間に、再生産が行われていることを確認した。</li> <li>・龍泉洞における藻類の発生状況を継続して調査したほか、コウモリ支洞、五郎兵衛穴の生物調査を行った。</li> <li>・岩手大学寒冷バイオフィロンティア研究センターと合同で、リンドウの地域集団の変異調査を行った。結果は10月の東北育種研究集会、3月の日本育種学会で発表した。</li> <li>・県内の節足動物の分布調査を行い、岩手県未記録の昆虫3種、クモ2種を標本として採集した。</li> </ul>
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする生態系の研究	鈴木まほろ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県植物誌調査会と合同で、北上市・西和賀町の牛形山と駒ヶ岳において絶滅危惧植物の分布調査を実施し、リストを整理した。結果は県の希少野生動植物保護検討委員会において報告した（3月）。</li> <li>・大船渡市五葉山において、特定希少種であるゴヨウザンヨウラクの分布調査を実施した。</li> <li>・早池峰山麓において、早池峰グリーンボランティアと合同で、絶滅危惧植物を含む林床植物のニホンジカによる摂食状況を調査した。また、遠野市・住田町内の森林において、ニホンジカの摂食による植生への影響を調査し、日曜講座等で発表した。</li> </ul>

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
		県内の植物相の研究	鈴木まほろ	<ul style="list-style-type: none"> <li>『岩手県植物誌』の改訂に備え、岩手県植物誌調査会と合同で県内各地の植物相調査を行い、標本を収集しリストを整理した。また、沿岸部の津波被災地における植物相モニタリングを継続実施した。</li> <li>津波被災地の植物相調査で発見したアブラナ科ヤマガラシ属不明種を同定するため、当館・東京大学・国立科学博物館・大阪市立自然史博物館・岩手大学の各標本庫において標本調査を行った。結果を日本植物分類学会大会においてポスター発表した（3月、於福島市）。</li> </ul>
考古	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護、研究のあゆみ	羽柴直人 八木勝枝 丸山浩治	<ul style="list-style-type: none"> <li>当県小田島禄郎と関わりのある東京大学総合研究博物館所蔵小金井良精資料を調査し、小田島コレクション書簡と小金井コレクション考古資料との照合を行った。</li> <li>小田島禄郎コレクション2次受け入れ資料を調査、整理し、「収蔵目録 考古X 小田島コレクション2次 その2」を刊行した。</li> </ul>
	先史時代の考古学的研究	縄文時代集落の研究	八木勝枝	本県域の縄文時代遺跡を対象に時期・遺構の種類及び数量・遺物の種類及び数量について悉皆調査を行い、基礎データを作成した。また、外部助成金を得て、県外に所在する岩手県内縄文遺跡出土資料の調査を行い、これらを含めて県内縄文遺跡の基礎データを構築した。
	歴史時代の考古学的研究	古代集落の研究	丸山浩治	本県域で発掘調査された古代の堅穴建物を対象に、To-a もしくは B-Tm テフラの堆積有無と様相について悉皆調査を行い、テフラ降下前後の集落継続性と土師器の形態変化を検討した。
		平泉文化についての研究	羽柴直人 八木勝枝 丸山浩治	<ul style="list-style-type: none"> <li>紫波町比爪館跡の微細地形測量をおこない、比爪館の構造の一端を明らかにした。成果は岩手県教育委員会生涯学習文化課に報告した。</li> <li>豊田城跡出土のせん仏と西播磨のせん仏を比較し、同範であることを明らかにした。成果は岩手県教育委員会生涯学習文化課に報告した。</li> </ul>
		中・近世の考古学的研究	羽柴直人	岩手県沿岸部、和賀郡以北の板碑を調査、記録、集成をおこなった。成果は岩手県立博物館調査研究報告書第31冊で報告した。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
歴史	古代～中世史の研究	陸奥国北部の瓦についての研究	鎌田勉	平泉町花立Ⅱ遺跡出土の瓦について、平安京及び周辺部の出土瓦との比較しながら、年代・系譜等の検討を行い、調査研究報告で公表した。
		岩手県内の経塚についての研究	鎌田勉	岩手県内出土の経塚資料に係る文献的調査を行った。
		岩手県内出土の陶磁器についての研究	笠原雅史	・釜石鉾山高炉に使用されたの耐火煉瓦の陶土に関する調査に関連して花巻の台地区について簡易調査を行い、大島高任関連の内容に合わせて館内研究発表会および岩手県立図書館における講演で公表した。
歴史	近世史の研究	八戸藩成立期の研究	佐々木勝宏	・新設藩の藩士採用の実態を、参考諸家系図、系譜書上、勤功帳から探ってみて研究報告第32号にまとめて報告した。
	前近代における美術工芸の研究(古美術)	藩政期の美術工芸の研究	齋藤里香	・岩手山に関する絵画資料等のデータ収集を継続して行い、成果を県博日曜講座で公表した。 ・享保期に盛岡藩領内で行われた高山調査及び産物調査に関する記録類を調査し、成果の一部を県博日曜講座で公表した。
	近代・現代史の研究	明治・大正期の岩手県についての研究	笠原雅史	・大正期から太平洋戦争期までの資料を整理し、近現代の新展示で成果を活用した。 ・27年度末からのテーマ展に向け、大島高任や釜石鉾山に関する文献調査、実地調査をすすめ、近代以降の成果を日曜講座で、幕末期から明治時代初期の内容について岩手県立図書館における講演で公表した。
民俗	有形民俗資料に関する研究	漆に関連する生業及び用具に関する研究	瀬川修	菓子盆について、その産地を特定するために、特に会津産・川連産の菓子盆の特徴について調査し、その一部についてはテーマ展「漆絵のデザイン」で公表した。
		岩手の民具一般に関する基礎研究	瀬川修 川向富貴子 山屋賢一	・糧切りの流通を明らかにするため、館蔵資料のほか岩手県立農業科学博物館と一関市博物館が所蔵する資料の製造元と形態を調査した(川向)。 ・寄贈された古銭類56種731点の年代別分類を行い、学校貸出用教材として準備した(川向)。 ・寄贈された伝統こけし398点の産地と作者を調べ、その系統分類を行った(前年度継続・川向)。 ・花巻・佐藤家の生活関連資料について、資料を分類整理し、個々の資料の使用歴などをまとめた(瀬川)。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
民俗	無形民俗資料に関する研究	岩手の無形民俗一般に関する基礎研究	瀬川修 川向富貴子 山屋賢一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄贈された藁馬の追跡調査として、遠野市小友町(6/14)と花巻市大迫町(6/15)の馬っこつなぎ習俗の現地調査を行った(川向)。</li> <li>・ 倉沢人形歌舞伎について、歴史と現在の活動状況などの現地調査を行った(瀬川)。</li> </ul>
		画像資料の保存活用に関する研究	川向富貴子	・ 岩手デジタルミュージアム構築事業の一環として、館蔵森口多里コレクション画像のデジタル化に伴う被写体の確認調査を行った(前年度継続)。高等学校日本史教科における資料画像公開活用のあり方を検討し、教材シートを作成した。
	無形民俗資料に関する研究	画像資料の保存活用に関する研究	画像資料の保存活用に関する研究	・ 折口博士記念古代研究所所蔵の折口信夫関連資料のうち、岩手県に関連する画像の被写体について比定作業を行い、折口の岩手県における足跡を整理した。
		岩手県および近隣の郷土芸能・祭礼についての現状記録活動及び基礎的研究	山屋賢一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 祭事や催しにおける郷土芸能披露状況の記録(写真・映像)、館蔵品(書籍、ビデオ等)の整理分析、一部は文書化した。</li> <li>・ 南部流風流山車行事の歴代演題年譜(盛岡八幡宮、一戸八坂神社、沼宮内稲荷神社、川口豊城稲荷神社、紫波志賀理和気神社、紫波志和八幡宮、石鳥谷熊野神社)、実施状況記録(県内全事例)、演題・音頭歌詞・写真・絵紙の収集整理をした。</li> </ul>
民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	瀬川修	民家の活用事例として、伝統的建造物群保存地区に選定された秋田県横手市増田町の民家公開を見学し、公開のあり方を検討した。	
文化財科学	文化財の保存環境に関する研究	省エネを意識した文化財の湿度環境保全方法の開発	赤沼英男 川又晋	館内設置データロガーのデータ収集と整理により、施設内温湿度変動に関する調査を行った。
		岩手県立博物館における博物館資料生物学的劣化防除システム構築に関する研究	川又晋 赤沼英男	専門企業による捕獲調査および職員から提供された情報等を整理し、館内害虫菌生息動向の把握に努めた。塵埃等の除去および侵入経路遮断といった生物学的劣化防除対策を実施し、資料保管状況を確認した。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
文化財科学	文化財の製作技法に関する研究	前近代の鉄製文化財の製作技法に関する研究	赤沼英男	北海道・東北地方の遺跡から出土した鉄器の金属考古学的調査を行い、地金の製造法と組成に基づく分類結果をまとめ、専門雑誌(考古学ジャーナル 662号)、発掘調査報告書等で報告した(『朝日遺跡』他3編)。トルコ共和国カマン・カレホユック遺跡前・中期青銅器時代出土資料の金属考古学的調査を実施し、その成果を第25回およびトルコ調査研究会(東京都三鷹市、2015.2.11)で発表した。
		前近代の非鉄金属文化財の製作技法に関する研究	赤沼英男	列島内の中世城館跡から出土した中国銭貨、寛永通宝、ベトナム出土中国銭貨の金属学的調査を実施し、中国銭貨の組成に基づく分類方法について検討した。併せて、近世に発行された寛永通宝との比較・検討を行った。
		前近代における彩色・塗膜技法に関する研究	赤沼英男	中世に大陸から伝来した漆工芸品である堆朱食籠の下地調整技法を調査し、その特徴をまとめ、2014 IIC Congress, September, 2014, Hong Kong で報告した。ほぼ同時代に比定される列島内出土漆器の調査結果と比較し、大陸から舶載された漆器と列島内で製作された漆器の識別方法について検討した。
	文化財の保存修復に関する研究	有機物を素材とする資料の保存処理方法の研究	川又晋 赤沼英男	金属を素材とする文化財に含有される錆誘因化学物質成因解明のための調査方法に関する技術検討を行った。
		海水損資料の安定化処理法および抜本修復法に関する研究	赤沼英男 川又晋	海水損した紙を素材とする資料、木製民俗資料の安定化処理方法を定式化し、被災資料の処理を実施した。岩手県立博物館で実施している被災文化財の安定化処理に対する考え方と処理の具体的方法を、東京国立博物館等と連携し出版したガイドブック『安定化処理』、東京芸術大学、兵庫県立歴史博物館、宮崎県総合博物館で開催したワークショップ等で公表した。また、日本文化財科学会第31回大会(奈良教育大学、2014年7月)、文化財保存修復学会第36回大会(明治大学、2014年6月)で公表した。

表(3)ー2 調査研究活動に関わる製作・同定・借り上げ

部門	事業名	内容
地質	岩石鉱物薄片製作	一関市東山町夏山付近を流れる夏山川支流の岩倉沢で採集した礫資料について、偏光顕微鏡観察用薄片 11 枚を製作した。
生物	植物等標本同定	ハバチ類標本 125 点を吉田浩史氏に、蘚苔類標本 20 点を関太郎氏(広島大学名誉教授)に、変形菌標本 50 点を玉山光典氏(当館研究協力員)に同定していただいた。
文化財科学	石質系文化財等構成鉱物の同定法およびデータ解析法に係る指導・助言	金属生産関連炉跡から出土した土製資料の構成鉱物同定を、岩手大学教育学部教授土谷信高氏に依頼した。
	銅生産過程での金属鉄生成条件に関する指導・助言	銅生産過程での金属鉄生成条件に関する指導・助言を、早稲田大学理工学部教授伊藤公久氏に依頼した。
	X線構造解析	遺跡出土鉄器の錆層中に存在するセメントタイトの同定を委託した。
	マイクロスコープ借り上げ	文化財表面観察用デジタルマイクロスコープをリースし、文化財の表面観察およびデジタル画像撮影を行った。

## イ. 館内調査研究報告会

日時：平成 27 年 3 月 2 日（月）9：30～16：00

会場：講堂

### I 個別調査研究

- ①岩手県立博物館における温湿度管理の現状 川又 晋
- ②大陸から伝来した中世漆器の内部構造と下地調整技法 赤沼 英男
- ③一関市藤沢町大籠地域のペルムー三畳系境界の再発見とその意義 望月 貴史
- ④大鉢森山周辺産砂金の母岩について 吉田 充
- ⑤岩手県内におけるカワシンジュガイの生息状況について 渡辺 修二
- ⑥海岸で見つかったアブラナ科ヤマガラシ属の不明種について 鈴木まほろ
- ⑦本州産クマゲラの営巢木とねぐら木との距離 藤井 忠志
- ⑧南部山車「中国大返し」を創る 山屋 賢一
- ⑨第 66 回企画展「商家の暮らし～花巻・佐藤家の衣食住～」の概要について 瀬川 修
- ⑩岩手県における折口信夫（釈迦空）の足跡 川向富貴子
- ⑪大島高任と耐火煉瓦について 笠原 雅史
- ⑫岩手山の絵画化についての一考察 齋藤 里香
- ⑬八戸藩の藩士召し抱えの実態 佐々木勝宏
- ⑭平泉町花立Ⅱ遺跡出土瓦について 鎌田 勉
- ⑮テフラを指標とした 9 世紀後半から 10 世紀前半の土器編年 丸山 浩治
- ⑯東京大学総合研究博物館及び関西大学博物館所蔵の岩手県内遺跡出土縄文資料について 八木 勝枝
- ⑰「せん仏」について 羽柴 直人

## ウ. 調査研究成果の公表

### (ア) 『岩手県立博物館研究報告』第 32 号

(A4 判・89 頁・600 部・平成 27 年 3 月 25 日発行)

目時和哉・熊谷賢・小野哲也・赤沼英男「三陸地方沿岸部における鋼鉄製アワビカギの製作技法とその伝播について」1～14 ページ

小野哲也・赤沼英男・近藤宏樹・中村俊夫・目時和哉「前近代の北方社会における鉄器流通実態の解明(1)」15～29 ページ

山屋賢一「南部流風流山車の研究 I」 31～46 ページ

鎌田勉「平泉町花立Ⅱ遺跡出土の瓦について (その 2)」47～61 ページ

佐々木勝宏「八戸藩成立期の家臣の採用についての考察」63～78 ページ

### (イ) 「岩手県立博物館調査研究報告書」第 31 冊「岩手県の板碑—沿岸部・和賀郡以北編—」

(A4 判・288 頁・500 部 平成 27 年 3 月 20 日発行)

板碑は仏教信仰に基づいて造立された中世の石製供養塔である。本書は岩手県内に所在する板碑のうち、沿岸部（気仙郡、上閉伊郡、下閉伊郡）と和賀郡以北（和賀郡、稗貫郡、紫波郡、岩手郡、二戸郡）の板碑を悉皆的に調査した内容を収めた報告書である。この他に、青森県十和田市の板碑 1 基についても収録している。青森県東部は板碑の寡少な地域で、十和田市の 1 基を示したことによって、青森県東部全体を網羅したことになる。

掲載した板碑は合計 168 碑に及ぶ。それぞれの板碑は、拓本、計測図、写真を示し、客観的な資料になるように努めた。

これまで、当該地域の板碑について悉皆的にまとめた報告書は皆無であり、今後の板碑研究のみならず、地域の中世考古学研究、歴史研究の基本資料となる報告書と考える。

### (ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作

#### a. 口頭発表等

- ・高橋 由衣・日影 孝志・渡辺 修二\*・斎藤 靖史・堤 賢一: 野生リンドウ 3 分類種の地域変異の比較. 第 9 回東北育種研究会, 2014 年 11 月, 盛岡市.
- ・高橋 由衣・日影 孝志・渡辺 修二\*・斎藤 靖史・堤 賢一: リンドウ (*Gentiana scabra*) およびフデリンドウ (*G. zollingeri*) 地域集団の W14/15 遺伝子型変異. 日本育種学会第 127 回講演会, 2015 年 3 月, 町田市.
- ・M. Suzuki\* and M. Manabe: Salvage and Restoration of Natural History Collections Damaged by Tsunami in Japan 2011. Disaster and Biodiversity International Symposium, Tohoku University, September, 2014, Sendai.
- ・鈴木まほろ: 岩手県におけるシバタカエダ (クロビイタヤの無毛果品種) の発見について・海岸に生えるヤマガラシ? について. 東北植物研究会研究発表会, 2014 年 12 月, 仙台市.
- ・鈴木まほろ: ヤマガラシ属の不明帰化種について. 日本植物分類学会第 14 回大会, 2015 年 3 月, 福島市.
- ・八木勝枝: 遺構出土の土偶—岩手県—. 第 12 回土偶研究会: 43-56, 2015 年 3 月, 札幌市.
- ・八木勝枝: 岩手県 2013 年度土偶報告. 第 12 回土偶研究会: 87-96, 2015 年 3 月, 札幌市.



- ・ Tatsuo Oji, Stephen Q. Dornbos, Hitoshi Hasegawa, Gonchigdorj Sersmaa, Takafumi Mochizuki: THE PENETRATIVE TRACE FOSSIL ARENICOLITES FROM THE LATE EDICARAN OF WESTERN MONGOLIA. 4<sup>th</sup> International Palaeontological Congress, September, 2014, Mendoza, Argentina.
- ・ 大路樹生・ Stephen Q. Dornbos・ 矢田圭吾・ 長谷川精・ Sersmaa・ Gonchigdorj・ 望月貴史・ 高柳栄子・ 井龍康文: 「カンブリア期の農耕革命」はエディアカラ紀に始まっていた。日本古生物学会第 164 回例会, 2015 年 2 月, 豊橋市。
- ・ 赤沼英男: カマン・カレホユック前期青銅期時代出土資料の組成からみた鉄・鉄器生産活動。第 25 回トルコ調査研究会, 2015 年 2 月, 三鷹市。
- ・ Takeda A, Akanuma H\* & Tsuchiya N: Technique for making the ground coating used in the production of tsuishu jikiro lacquerware. 2014 IIC Congress, September, 2014, Hong Kong.
- ・ 目時和哉・ 武田昭子・ 小野詩織・ 白石采加・ 赤沼英男\*・ 熊谷賢: 陸前高田市被災民俗資料の安定化処理と抜本修復—生業用具および民俗芸能用装身具を対象にして—。日本文化財科学会第 31 回大会, 2014 年 7 月, 奈良市。
- ・ 神庭信幸・ 和田 浩・ 土屋裕子・ 荒木臣紀・ 鈴木晴彦・ 米倉乙世・ 平河智恵・ 本多文人・ 熊谷 賢・ 目時和哉・ 赤沼英男\*: 津波被災資料の安定化処理—陸前高田市立博物館の取り組み—。文化財保存修復学会第 36 回大会, 2014 年 6 月, 東京都。
- ・ 武田昭子・ 松澤 栞・ 豊田育菜・ 渡辺瑞希・ 熊谷 賢・ 赤沼英男\*・ 目時和哉: 陸前高田市被災民俗資料の安定化処理と修復—高田人形—の—陣笠について—。文化財保存修復学会第 36 回大会, 2014 年 6 月, 東京都。
- ・ 岡田宣世・ 大崎綾子・ 阿部みよ子・ 深津裕子・ 神庭信幸・ 熊谷 賢・ 赤沼英男\*・ 目時和哉: 陸前高田市立博物館染織資料修理経過報告。文化財保存修復学会第 36 回大会, 2014 年 6 月, 東京都。

## b. 論文・報文

- ・ 赤沼英男(2014)「被災蔵手刀からみえてきた鉄の物質文化交流」考古学ジャーナル 662 号、pp.20-23

## c. 新聞その他の著作

- ・ 藤井忠志 (2014) 単行本「日本のクマゲラ」出版。北海道大学出版会。178pp.札幌。
- ・ 藤井忠志 (2014) 「白神山地のクマゲラ 安住できる環境整備を」東奥日報 2014 年 6 月 30 日付
- ・ 津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会・赤沼英男・鈴木まほろ(編) (2014) 『安定化処理～大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト～』256pp. 盛岡。

## エ. 研究受託実施状況

文化財を自然科学的方法で調査することにより、文化財の内部構造、素材、製作技法、劣化状況等に関する客観的情報を得ることができる。得られた情報を整理し、後世に長く伝えるための保存処理方法の構築が行われ、同時に過去の物質文化交流を解明するための研究が進められる。文化財を自然科学的方法で調査した後保存処理を施し、歴史の解明に有益な学術情報を提供している機関は全国的にみてもきわめて少ない。

このような状況をふまえ岩手県立博物館では調査研究成果の還元と学術情報の一層の収集を目的として、

平成 2 年度から文化財の自然科学的調査・保存処理に関する研究受託を実施している。平成 26 年度の研究受託実施実績は表(3)-3 に示すとおりである。一連の研究を通して得られた学術情報に、人文社会科学の研究成果を重ね合わせ、文化財の保存に取り組むとともに、失われた過去を解明するうえでの基礎資料となる学術情報の発信に努めている。

**表(3)-3 平成 26 年度研究受託実地実績**

受託内容	件数	委託機関
金属製資料の保存処理	21	教育委員会、埋蔵文化財センター
金属製資料の科学分析	6	教育委員会、埋蔵文化財センター
耐火煉瓦の科学分析	1	教育委員会
木製資料の保存処理	1	埋蔵文化財センター
琥珀製資料の保存処理	1	教育委員会
資料の生物学的劣化防除（くん蒸）	8	教育委員会、資料館等
被災紙製資料の修復及び長期保管	1	教育委員会
被災民俗資料抜本修復保管管理	1	教育委員会
被災考古資料抜本修復保管管理	1	教育委員会
被災自然史標本修復及びデータベース化（押し葉標本）	1	教育委員会
被災自然史標本修復及びデータベース化（昆虫標本）	1	教育委員会

## オ. 前平泉文化研究受託事業（前平泉文化の研究）

当館考古部門では、岩手県教育委員会の委託により平成 12 年度から奥州藤原氏関連に関連した遺跡の考古学調査を実施してきた。平成 24 年度からは、調査地域を平泉と密接な関連のある紫波町域を対象としている。平成 26 年度は、平成 25 年度に引き続き紫波町南日詰字箱清水所在の比爪館跡の微細地形測量調査をおこなった。測量範囲は、昨年度未了の比爪館跡の北東部分を対象とし、標高 10 cm 毎の等高線の地形図を作図した。屋外での測量作業は平成 26 年の 11 月 17 日から 11 月 22 日までおこなった。

測量のデータは縮尺 1 : 300 に調整し、岩手県教育委員会への成果報告を行っている。発掘調査があまり進展していない地点の微細測量図であり、今後の比爪館研究の基本資料になるものである。

## カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物標本資料 7,000 件について、データ整理・整形を行い、提供した。

## キ. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成 11 年度から実施している。研究協力員としての活動期間は 3 年間で、申請・審査を経て更新することができる。

平成 26 年度は新規 3 名および 5 名の更新が承認された。平成 27 年 3 月末現在で 20 名（下記一覧、順不同）となっている。

### ○研究協力員（新規）

- 1 大石雅之（元当館学芸部長）：岩手県産脊椎動物化石を中心とする古生物学的研究〔地質部門〕
- 2 目時和哉（元当館学芸調査員・岩手県立盛岡第一高等学校教諭）：前近代の東日本太平洋沿岸部における他地域との物質文化交流に関する学際的研究〔文化財科学部門〕
- 3 藤井千春（元当館主任専門学芸員・岩手県盛岡市立高等学校）：北日本における発光生物の生態学的研

究[生物部門]

○研究協力員（更新）

- 4 工藤紘一（元当館学芸第二課長）：岩手の年中行事をはじめとする民俗事象の研究〔民俗部門〕
- 5 玉山光典（岩手高校教諭）：日本（特に岩手県）の変形菌相〔生物部門〕
- 6 中田功一（北上市立博物館研究員・元当館主任専門学芸員）：通過儀礼・信仰・年中行事・まつりを中心とする無形伝承記録資料の調査と整理〔民俗部門〕
- 7 後藤友明（岩手県水産技術センター漁業資源部）：魚類分類学〔生物部門〕
- 8 大友令史（岩手県病害虫防除所）：病害虫の生態的研究〔生物部門〕

\*中田功一氏は平成26年9月死去された。

○研究協力員（継続）

- 9 吉田裕生（元当館学芸第二課長）：東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究、とくにマンガン硼酸塩・硫酸塩鉱物の研究〔地質部門〕
- 10 沼宮内明（元当館学芸調査員）：岩手県の植物相〔生物部門〕
- 11 千葉武勝（元岩手県農業試験場研究員）：岩手県の昆虫相の解明〔生物部門〕
- 12 佐竹邦彦（元県立学校校長）：昆虫標本の整理、とくに双翅目昆虫の同定、標本作製、調査の研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 13 竹内 基（県立福岡高等学校教諭）：淡水魚類に関する調査、研究の助言・同定等、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 14 鈴木幸彦（元当館主任専門学芸調査員）：藩政期の基礎的研究、蘭学・洋学の地方への浸透・発展、和算浸透・発展の歴史的基礎研究〔歴史部門〕
- 15 沼宮内信之（日本森林技術協会）：岩手県の植物相〔生物部門〕
- 16 飯坂 真紀（県立博物館協議会委員）：民俗慣行と当館所蔵資料の有効活用法の研究〔民俗部門〕
- 17 岡田 現三（団体職員）：北東北の民俗芸能〔民俗部門〕
- 18 沼宮内耕作（元友の会長、元当館学芸部長）：蘚類標本の整理、リスト作成、同定、スケッチ作成〔生物部門〕
- 19 関 博允（いわて三陸ジオパーク推進協議会）：鉄製文化財の金属考古学的方法による研究〔文化財科学部門〕
- 20 土谷 信高（岩手大学教育学部教授）：岩石・鉱物を素材とする文化財の製作技法および劣化状態に関する研究〔文化財科学部門〕
- 21 女鹿 潤哉（元岩手県立博物館主任専門学芸員・県立杜陵高等学校副校長）：文献史学からみた古代北方社会における物質文化交流の変遷〔文化財科学部門〕

## ク. 外部助成

○研究助成 平成26年度は、研究助成として3件の採択があった。

	氏名	部門	研究テーマ名	助成の名称	申請先
1	望月 貴史	地質	生痕化石の多様性から探るカンブリア爆発の古生態学的解明	藤原ナチュラルストーリー振興財団 平成25年度 学術研究助成	藤原ナチュラルストーリー振興財団
2	鈴木まほろ	生物	市民調査の成果を生かした岩手県の植物相の研究	藤原ナチュラルストーリー振興財団 平成25年度 学術研究助成	藤原ナチュラルストーリー振興財団

	氏名	部門	研究テーマ名	助成の名称	申請先
3	八木 勝枝	考古	北上川中流域における縄文時代後晩期の地域社会～後晩期停滞論の再検討～	明治大学大久保忠和考古学振興基金 奨励研究	大久保忠和考古学振興基金運営委員会

## (4)資料収集保管活動

### ア. 資料の収集整理

平成26年度3月末現在の登録資料数は13,907点で、開館以降の累計は268,995点にのぼる(表(4)-1)。県内外の方々のご厚意によって今年度当館が受贈した資料は29件、6,376点である(表(4)-2)。

表(4)-1. 平成26年度資料登録状況

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採集	25年度末累計	2,807	18,883	769	3	57	22,519
	26年度計	27	2,020	0	0	2	2,049g
	累計	2,834	20,903	769	3	59	24,569
発掘	25年度末累計	209	-	3,439	-	-	3,648
	26年度計	0	-	0	-	-	0
	累計	209	-	3,439	-	-	3,648
寄贈	25年度末累計	4,372	99,654	53,292	29,637	16,004	202,959
	26年度計	0	8,932	114	2,663	140	11,849
	累計	4,372	108,586	53,406	32,300	16,144	214,808
購入	25年度末累計	1,391	12,166	267	6,971	2,515	23,310
	26年度計	0	0	0	1	0	1
	累計	1,391	12,166	267	6,972	2,515	23,311
製作	25年度末累計	115	503	94	108	365	1,185
	26年度計	0	0	0	4	3	7
	累計	115	503	94	112	368	1,192
所管換	25年度末累計	1	84	0	1,104	278	1,467
	26年度計	0	0	0	0	0	0
	累計	1	84	0	1,104	278	1,467
合計	25年度末累計	8,895	131,290	57,861	37,823	19,219	255,088
	26年度計	27	10,952	114	2668	145	13,907
	累計	8,922	142,242	57,975	40,491	19,364	268,994

表(4)-2 主な受贈資料

部門	寄贈者(敬称略)	居住・所在地	資料名	数量
地質	鈴木照行	盛岡市	琥珀	1
	吉田紀子	東京都	片麻岩等(南極産)	3
生物	田鎖 巖	宮古市	故山本弘氏の野帳・論文草稿用ノートなど	1,808

部門	寄贈者(敬称略)	居住・所在地	資 料 名	数量
生物	町屋健一	盛岡市	昆虫標本・書籍	1,025
	五味靖嘉	秋田県	縄文柴犬頭蓋	68
	兼平兼治	盛岡市	蝶の標本	87箱
	鈴木雅大	千葉県	岩手県山田町産海藻標本	101
	五十嵐安子	宮城県	押し葉標本	30
	武田眞一	盛岡市	スマレ科押し葉標本	550
歴史	家村秀子	盛岡市	第二次家村切手コレクション	26
	佐瀬 壽朗	盛岡市	川口月嶺筆「山水図」紙本淡彩ほか	3
	杉村恵美子	盛岡市	杉村松之助コレクション	681
	松村脩	盛岡市	映写機	1
	正一 恂	遠野市	蓑虫山人画「仙家天餐」	1
	杉村恵美子	盛岡市	第二次杉村コレクション	293
-	-	歴史関連書籍	670	
民俗	工藤 紘一	盛岡市	和ダンス、茶ダンス、行李3	5
	瀬川正人	盛岡市	天児、伝マリア像、這子	3
	伊藤博	花巻市	藁馬	1組
	佐々木キヨ	滝沢市	鋳師小山和吉による金銀細工指輪	5
	上野清	雫石町	糧切り、千歯抜き	2
	浅沼晟吾	滝沢市	切り溜め、桶製造用具一式	29
	齋藤征子	盛岡市	齋藤家資料	76
	-	-	古銭類、火のし、こて、巾着	735
	泉山恵一	盛岡市	菓子盆	3
	上村美賀子	盛岡市	下駄	2
	竹高 昭	盛岡市	母子手帳	1
	菅野敏子	盛岡市	「暮らしの手帖」創刊号～4号・8号	5
塚澤 靖	花巻市	足踏脱穀機	1	
共通	佐々木芳雄	盛岡市	竹とんぼ、ケース	108
	佐藤洋服店	盛岡市	フロックコート	1

-は、寄贈者の希望により掲載しない。

登録資料点数は生物部門が最も多い。植物標本を主体に 10,952 点で全体の約 79%を占める。地質部門ではアメリカ合衆国ワイオミング州や中華人民共和国で採集した *Planolites isp.*などの生痕化石など 28 点を、生物部門では寄贈されたコケ類の岩渕コレクション、アナダルスなどの山田町産海藻標本、ツリガネニンジンなどの小守コレクション、ユメカサゴなどの県水産技術センターコレクションなど 10,952 点を、歴史部門では寄贈された近世から近代の書籍、書画などからなる杉村コレクション、家村切手コレクションなど 2,668 点を、民俗部門では寄贈された櫛などの齋藤家資料、菓子盆などの泉山コレクション、桶製造工具、雛人形、製作による天明七年田山暦(表(4)-3) など 145 点を、考古部門では寄贈された大橋遺跡(盛

岡市玉山区) の旧石器時代の細石刃などの石器類 114 点を登録した。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、平成 23 年度の試行結果を踏まえ、当館では資料登録を平成 24 年 4 月から早稲田システム開発㈱が提供する I.B.Museum SaaS により行うこととした。本システムは文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインターネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハードの更新が不要であることなどの利点がある。また、東日本大震災でクローズアップされたクラウド型システムの利点として、登録情報が遠隔地で保管されるため、災害等によるデータ喪失の危険性が大幅に軽減されている。平成 25 年 4 月からこのシステムを使用し、岩手県立博物館が所蔵する資料の一部について情報公開を行っている。

**表(4)-3 資料の製作**

部 門	名 称	内 容 の 概 略
民俗	田山曆複製製作	「天明 3 年田山曆」、「天明 7 年田山曆」2 点の複製を製作した。

**表(4)-4 資料の補修、用品類の購入**

部 門	事 業 名	内 容
地 質	岩石収納用木箱の購入	岩石・鉱物・化石標本の収蔵点数の増加により、これらを収納する収蔵庫専用の標本木箱 22 個を購入した。
歴 史	古美術資料表装・修復	刀剣 1 点の研磨及び白鞘修復、2 点の棟サビ修復を行った。
考古歴史 民俗共通	中性紙保存箱等の購入	文書・写真資料の恒久保存のため、これらを収納し保管する中性紙使用保存箱等を購入した。

**表(4)-5 機器類の保守点検と修繕**

項 目	部 門	機 器 名 また は 内 容
保守点検	歴 史	マイクロリーダープリンター
	文化財科学	文化財科学実験システム（文化財科学室・器具庫・X 線分析室空気清浄化システム）、表面分析装置（蛍光 X 線分析装置・走査型電子顕微鏡）、微量化学分析装置（ICP 発光分光分析装置・ガスクロマトグラフ質量分析装置）、汎用科学分析装置（赤外分光光度計・微小表面拡大装置・示差熱重量同時分析装置）、保存処理機器（大型真空凍結乾燥機・小型真空凍結乾燥機・真空樹脂含浸装置）、博物館資料滅菌システム（文化財滅菌装置・ガス漏れ検知器）
修 繕	文化財科学	グラインダー、器具庫ドラフトチャンバー、大型真空凍結乾燥機、ICP 発光分光分析装置、分析天秤校正、エアブレイシブ装置
その他	文化財科学	全館くん蒸消毒、文化財科学作業環境測定、使用済薬品等廃棄処分

## イ. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第 1 ～ 5 収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開される

ほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等をとおり、他機関における活用にも積極的に協力している。

### (ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出しの要請があり、実物資料については19件・140点、画像(写真)資料については、合計69機関に対して貸出しを行った。博物館関係機関はもとより、教科書および学術書への掲載を目的とする借用が多くを占めた。今年度は全国的に注目を集めている、被災文化財等レスキューに関する借用が多数あった。

表(4)-6 実物資料の貸出

担当部門	貸出先(所在地)	資 料 名	点数
地 質	奥州市牛の博物館	アケボノゾウ生体復元1/7縮小、クサビ石-含チタン灰鉄石榴石-磁硫鉄鉱-灰礬石榴石スカルン、ゲーレン石スカルン、含備中医師バスブ石スカルン、バスブ石-フォシャグ石スカルン、針鉄鉱	6
	久慈琥珀博物館	モシリユウの上腕骨	1
	国立科学博物館	ハナイズモリウシ	1
考 古	奥州市牛の博物館、奥州市埋蔵文化財調査センター、えさし郷土文化館	靱跡土器、墓域から出土した土器13、玉類(ガラス玉・石製白玉・琥珀玉)18	32
	北上市立博物館	北上市和賀町愛宕遺跡出土接合資料(3063,2172,2432)、同石刃状剥片(384)、同基部整形石器(661) 同石刃状剥片(681)	6
	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す道民会議	葦内遺跡出土大形土偶頭部(複製)、手代森遺跡出土遮光器土偶(複製)	2
	盛岡市遺跡の学び館	日戸遺跡出土深鉢形土器2、同台付鉢形土器2、同鐸形土製品5、小山遺跡出土深鉢形土器、川目遺跡出土壺(ミニチュア)、柿ノ木平遺跡出土深鉢形土器、大館遺跡出土深鉢形土器、川目遺跡出土石鍬、同台付鉢形土器、同注口付土器、大豆門遺跡出土石棒、里東願寺土凹石、上米内遺跡出土土偶、小鳥沢遺跡出土土偶、関東系土師器	22
民 俗	岩手県立図書館	けいらん(複製)、じゃじゃ麺(複製)、原敬家大晦日祝膳(複製)、原敬家正月祝膳(複製)	4
	郡山市立美術館	観音めくら和讃、般若心経、吉祥陀羅尼、法華経、随求陀羅尼、天明三年田山歴、大小暦八人芸、平成二十五年盛岡暦、天保十三年盛岡暦	9
	花巻市博物館	立ち雛2、土つき臼、土つき杵、土つき台、カスリ、土通し、ろくろ、すりばち(本焼)4	12
	宮古市北上山地民俗資料館	ブドウ蔓皮、たいまつ、とうか、やすり入れ筒、煙草入れ、縄こだし	6

担当部門	貸出先（所在地）	資 料 名	点数
民 俗	もりおか歴史文化館	弘化三年盛岡暦、嘉永六年盛岡暦、嘉永七年盛岡暦（複製）、安政四年盛岡暦、安政五年盛岡暦、万延二年盛岡暦、文久三年盛岡暦、元治二年盛岡暦、慶応四年盛岡暦、慶応五年盛岡暦、明治二十五年盛岡暦、明治二十六年盛岡暦、明治二十五・二十六年盛岡暦版本	13
歴 史	一関市博物館	刀 新藤義国、刀 宮川秀一、剣 宮川守一、短刀 斎藤正中	4
	岩手県立図書館	龍図鏢、橋野高炉絵巻（模写）2、寛永通宝 栗林広穿銭、寛永通宝背 盛鉄四文銭2、寛永通宝 仰宝母銭、寛永通宝 仰宝鉄銭、釜石鉱山僚之図（複製）、釜石官営製鉄所部分図（複製）	10
歴 史	美術館連絡協議会	朝鮮金剛山写生帳（川口月泉作）、朝鮮開城附近写生帳（同）	2
	弘前市立博物館	桜に山鳥蒔絵冠台、吉野山蒔絵文台、吉野山蒔絵硯箱	3
	盛岡市先人記念館	砲弾形花活「百発百中」（大）、砲弾形花活「百発百中」（小）、発泡スチロール原型燭台（大）	3
合計			136

表(4)-7 画像資料の貸出

部門名	貸出先（所在地）	資料名	点数
地質	NHK 札幌放送局	モシリユウの上腕骨	1
	朝日学生新聞社	モシリユウの上腕骨	1
	朝日新聞秋田総局	モシリユウの復元想像図	1
	一関花泉公民館	ハナイズミモリウシ全身骨格、けんぱくものしりシート地質 No.1 ハナイズミモリウシ資料	2
	奥州市牛の博物館	バスブ石 赤金鉱山産出、マエサワクジラ産状図、マエサワクジラ発掘風景、岩手県全域の地質図（2009年）	4
	（株）新日本出版社	マメンキサウルス全身骨格	1
	株式会社 ザ・スピン グラス	モシリユウの上腕骨、モシリユウの復元想像図	2
	川嶋印刷株式会社	ヒパカンソプリテス	1
	国立科学博物館	岩手県立博物館の外観、ハナイズミモリウシ	2
	築地書館株式会社	<i>Hypacanthoplites</i>	1
	山口北州印刷(株)	花崗閃緑岩、粘板岩、琥珀、三葉虫	4
有限会社 ハマユ	モシリユウの復元想像図	1	
生物	高知県立牧野博物館	大槌町吉里吉里 弁天島、陸前高田市広田町大陽漁港、陸前高田市気仙町気仙川河口、陸前高田市広田町大野海岸、宮古市津軽石川河口	5
	もりおか歴史文化館	アヤメ、カキツバタ、オミナエシ、イヌダテ、ウメ 3、エゾアジサイ 2、カキツバタ、キキョウ、アズマギク、ミヤコフスレ、キリ 2、早池峰タカナデシコ、ハマギク、ボタン、ラン（エビネ）、ラン（アオチドリ）、ラン（コケイラン）2、ミヤギノハギ 2、キジ（雄）、ガン、イワツバメ、オシドリ、シジュウカラ、ツバメ	30



部門名	貸出先 (所在地)	資料名	点数
考古	岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター	葦内遺跡出土大型土偶、手代森遺跡遮光器土偶	2
	(株) 岩手日報社	馬立Ⅱ遺跡狩猟文土器、(同) 展開図、豊岡遺跡出土注口土器、葦内遺跡出土大型土偶頭部、手代森遺跡出土遮光器土偶、豊岡遺跡出土浅鉢形土器	6
	NHK 出版	遮光器土偶・手代森遺跡	1
	岩手めんこいテレビ	豊岡遺跡出土土偶 (遮光器土偶複製)、滝ノ又遺跡出土土偶	2
	奥州市教育委員会	常盤広町遺跡出土壺画像	1
	株式会社 平凡社	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社 吉川弘文館	円筒下層 C 式 (大日向Ⅱ遺跡)	1
	株式会社 小学館	盛岡市葦内遺跡大型土偶頭部画像	1
	軽米町教育委員会	君成田Ⅳ遠賀川系、和当地遺跡出土蛤刃石斧	2
	セイゾベリー日本藝術研究所	豊岡遺跡出土遮光器土偶	2
	特定非営利活動法人ジ ョーモネスクジャパン	浅鉢形土器 (正面)、(同) 底面	2
	北海道・北東北の縄文 遺跡群の世界遺産登録 をめざす道民会議	大型土偶頭部 (葦内遺跡出土)、遮光器土偶 (手代森遺跡出土)	2
	北海道環境生活部くら し安全局	葦内遺跡大型土偶	2
	盛岡市遺跡の学び館	草間俊一氏調査ノート 盛岡市永福寺遺跡 (昭和40年4月1日~付)	1
	山形県立博物館	手代森遺跡土偶、(同) 遮光器土偶、豊岡遺跡土偶	3
民俗	ふるさと岩手の芸能と くらし研究会	吉浜のスネカ	1
	北限の茶を守る気仙茶 の会	森口多里コレクション写真、長母寺蔵『蓑虫山人絵日記』	11
	株式会社吉川弘文館	馬ッこつなぎの藁馬、一和流免許状、南部曲屋 (佐々木家)	3
	平山 豪	安政7年盛岡暦	1
	大上 直樹	佐藤松之助資料	38
	花巻市総合文化財セン ター	森口多里文化財写真 (岳神神楽) 10、(同) 大償神楽写真 10、森口多里肖像	21
	矢巾町伝統文化活性化 実行委員会	森口多里コレクション (矢次高館剣舞調査記録頁、不動村和味念仏剣舞調査記録頁、改訂版高館兼部囃子拍子集、矢次剣舞笠揃次第、和味念仏剣舞写真 11、矢次剣舞写真 35、矢次獅子踊写真 24、徳丹獅子踊写真 2)	76
	株式会社 平凡社	森口多里コレクション (いじこ)	1
名久井文明	こだし2、煙草入れ、やすり入れ筒、トッカ、樹皮織物袋、マダ皮、ブドウ蔓皮、たいまつ2、かば蓑2、ブドウ繊維、ブドウ繊維の紐、へソ玉 (ブドウ蔓皮)	15	

部門名	貸出先 (所在地)	資料名	点数
民俗	もりおか歴史文化館	万延二年盛岡暦	1
歴史	株式会社帝国書院	俵物いりこ (複製品)、俵物干鮑 (複製品)、俵物ふかひれ (複製品)	3
	株式会社IBC 岩手放送	チャグチャグ馬ッコ装束、馬印 (複製)、御旧領名処図巻 (複製)、百馬図、馬ッコつなぎの藁馬、馬頭観音碑、鞍迫観音堂絵馬 7	13
	株式会社吉川弘文館	一和流免許状、盛岡藩参勤交代図巻	2
	八戸市教育委員会	天台寺所蔵長胴太鼓	1
	宮古市教育委員会	三閉伊日記、府県名所図会、俵物レプリカ	3
	大島晃一	岩手公園全図	2
	デーリー東北新聞社	玉山鉄山たたら模型	1
	株式会社 目の眼	盛岡藩参勤交代図巻 (鉄砲組小頭～御鼻馬まで)	1
	もりおか歴史文化館	二十四輩巡拝図会	1
	岩手県文化財愛護協会	兜跋毘沙門天像 (複製)	1
	株式会社邑計画事務所	金沢御山大盛之図	1
	ワック株式会社	岩手県観光鳥瞰図	1
	株式会社グレイル	金沢御山大盛之図	1
	(株) 宮帯出版社	鯰尾兜、銀本小札紫糸威二枚胴具足	2
	株式会社ホーム社	毛越寺復元模型	1
	岩手県立大学総合政策学部	新撰花鳥尽 (水葵 鴨 川翠)	2
	株式会社フォーチュンボックス	鍛冶神掛図	1
	青森県環境生活部	八戸市八鳩山福善寺蔵厨子入長谷十一面観音三尊像、八戸市月溪山南宗寺蔵旧八戸城板戸子綬鶏図、八戸市紫雲山来迎寺蔵地藏菩薩立像	3
	株式会社東日本放送	盛岡藩参勤交代図巻	1
	株式会社 NHK プロモーション	如来立像 (天台寺蔵)	3
	平泉文化遺産センター	剣巴文軒丸瓦、剣巴文軒平瓦、編行唐草文軒平瓦	3
	青森県環境生活部	ペリー横浜行列之図並江戸湾警備諸大名配置図	1
	有限会社フォルスタッフ	絵本著色鍛冶神図	1
岩手県立図書館	盛岡城下図 (正保年間)	1	
共通	日本テレビ放送網株式会社	陸前高田市立図書館の被災状況	4
	公明新聞	岩手県立博物館の外観、仮設収蔵施設 (旧生出小) での作業	2
	丸杉俊一郎	修復施設	1
	株式会社第一学習社	23年4月21日高田市博文化財レスキュー040s	1
	東京国立博物館	陸前高田市立博物館収蔵資料レスキューにおける自衛隊の支援	4
合計			315

## (イ) 収蔵資料目録の刊行

『岩手県立博物館収蔵資料目録』第27集 考古X 小田島コレクション2次 その2

(デジタルブック、平成27年3月31日)

1998年に当館に寄贈になった「小田島禄郎コレクション 2次」資料のうち、書簡、図面類を中心とした資料についての目録である。2次資料のうち考古資料については平成19年度に「岩手県立博物館収蔵資料目録第20集 考古VIII 小田島コレクション2次 その1 考古資料編」として刊行されている。

今回の資料内容は多岐にわたり、書簡類(ハガキ、封緘ハガキ含む)、行政文書、辞令書、原稿、実測図類、拓本類、手帳(フィールドノート含む)、メモ書き、書籍、各種印刷物、雑品などがあり、2,240件の登録数となっている。このうち目録には岩手県の考古学史に関連が深いと思われる657件について掲載している。目録に不掲載の資料1,583件については、考古学史に関連が薄いものであり、個人情報を含む内容のものも多く、今回の目録への掲載は差し控えることとした。

なお今回の目録の刊行により、小田島コレクション1次、2次資料の全体の目録刊行が終了したことになる。

## (ウ) 文化財科学部門

岩手県立博物館には先人により今日に伝えられた貴重な文化財、自然界の営みを知るうえで重要な自然史標本をはじめとする多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料が携えている過去の情報および未来へのメッセージを自然科学的方法で解析し読み解くと共に、貴重な学術資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えることを目的として、文化財科学部門が設置されている。

### a. 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を設定する必要がある。岩手県立博物館では収蔵庫および展示場に温湿度記録計を設置し、温湿度変化を継続的に観察している。その結果をふまえて空調機をコントロールして、展示場および収蔵庫内の温度を18～23℃、湿度を55～65%に維持することに努めている。

特に精度の高い湿度管理を行う必要がある資料については、調湿剤をセットしたエアタイトケースを使い展示している。出土金属器および木器については、脱酸素剤および調湿剤を入れた透湿抵抗の高いフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。平成19年度からは空調機の稼働方法を見直し、省エネと二酸化炭素排出の抑制にも取り組んでいる。

### b. 生物学的劣化からの防除

有機化学物質を素材とする資料は、虫や黴により食害される心配がある。新たに博物館に搬入される資料には有害な虫や黴が付着している可能性があり、そのままの状態では収蔵庫や展示場に運び込まれた場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫や黴から資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料については必ず滅菌機でくん蒸処理を行っている。平成26年度の滅菌機によるくん蒸実施状況は表(4)―8に示すとおりである。

表(4)–8 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部門	資料種別	数量	単位	備考
地質	岩石標本	71	箱	関連資料等
	その他	30	箱	
生物	昆虫標本（ドイツ箱入）	108	箱	剥製、書籍類、テーマ展用資料
	押し葉標本	21	箱	
	その他	19	件	
歴史	文書類	33	箱	テーマ展用資料 額、映写機等
	仏像	15	件	
	その他	12	件	
民俗	民具等	65	件	関連資料等
	その他	10	件	

平成 26 年 9 月 1 日から 10 日まで、密閉くん蒸法により、第一・第二・第三収蔵庫、歴史・古美術整理室、および第二書庫をくん蒸した。平成 26 年 6 月および平成 26 年 10 月には、館内の害虫生息状況について実態調査を実施した。さらに全館くん蒸実施後、有害な虫や黴の発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚に固着する塵埃の除去を行った。

平成 27 年度についても、有害な虫や黴の発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

### c. 資料の科学分析・保存処理

資料を現状のまま長く保存するためには、資料の内部構造、製作に使用された素材を正確に把握する必要がある。そこで岩手県立博物館では、EPMA(電子線・プローブ・マイクロアナライザー)、蛍光X線分析装置をはじめとする表面分析装置、高周波誘導結合プラズマ発光分光光度計、およびガスクロマトグラフなどの微量分析機器を駆使し、文化財を自然科学的方法で調査している。なお、開館以来使用し続けている分析装置の多くは老朽化が進み、中には使用に支障を来しているものもある。そこで、機器の更新を順次計画し、円滑な業務の実施に努めている。

劣化の進行が著しく、形状保全が難しいと判断された資料については、保存処理を行い、形状保持を図っている。平成 26 年度の岩手県立博物館関係資料の分析・保存処理実施状況は表(4)–9 のとおりである。

表(4)–9 館関係資料の分析・保存処理実施状況

分析・処理内容	点数
漆資料の自然科学的調査	29
紙資料の自然科学的調査	26
土器資料の自然化学的調査	12
出土銅製品の修復・自然科学的調査	53
出土鉄器の自然科学的調査・保存処理	191
ガラス資料の自然科学的調査	2
出土木製品の保存処理	6

文化財を科学分析するにあたり、機器の安全で円滑な使用を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則等の法令に定められている機器保守点検、作業環境測定、および使用済薬品の無害化処理の委託（表（4）–10）を実施した。これらの科学分析によって得られた情報は、資料の保存方法、保存環境の設定に生かされている。

表(4)–10 委託事業

委託事業名	数量	単位	備考
全館くん蒸消毒 (6,994m <sup>3</sup> )	5	箇所	第一・第二・第三収蔵庫、歴史・古美術整理室、第二書庫 表面分析装置、微量化学分析装置、汎用科学分析装置、保存処理 機器、博物館資料滅菌システム、文化財科学実験システム
文化財科学機器保守点検	6	件	
文化財科学作業環境測定	1	件	
使用済薬品等廃棄処分	1	件	

## (5)総務企画調整

### ア. 総括出版広報

#### (ア) 印刷物

##### a. 博物館だより No.141～144 (A4判、8頁、各3,200部)

141号：目次／南部直政奉納紺紙金泥法華経 表紙／活動レポート「本県博物館の現況」p.2-3／展覧会案内「ふるさととは岩手 八戸藩の礎となった母と子」p.4-5／事業報告「いわての光る生きものたち」p.6-7／インフォメーション p.8

142号：目次／仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設 表紙／いわて文化ノート「10世紀前半に起こった二つの巨大噴火の痕跡」p.2-3／展覧会案内「新指定文化財展 2010-2014」p.4-5／活動レポート「仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設の設置」p.6／事業報告「第67回自然観察会」「第67回地質観察会」p.7／インフォメーション p.8

143号：目次／菓子盆 桃・銀杏・菊 表紙／活動レポート「被災紙製資料の安定化処理と保管」p.2-3／展覧会案内「漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～」p.4-5／事業報告「第68回自然観察会」「第68回地質観察会」p.6／事業報告「第6回博物館まつり」、解説員室より「映像室へようこそ！」p.7／インフォメーション p.8

144号：目次／茶羽のクマゲラ 表紙／いわて文化ノート「陸奥国北部の瓦について」p.2-3／展覧会案内「クマゲラの世界～未知なる生態に迫る～」p.4-5／活動レポート「総合展示室 [歴史分野]」p.6／事業報告「文化・芸術が集うとき in 野田村」、活動レポート「文化財等取扱講習会」p.7／インフォメーション p.8

##### b. 平成25年度岩手県立博物館年報

A4判相当PDF版、71頁、平成26年5月31日発行

##### c. 行事案内リーフレット

平成26年度下半期分 (B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成26年8月発行)

平成27年度上半期分 (B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成27年3月発行)

#### (イ) 広報活動

a. 当館独自の広報 ①イベントガイド (毎月、市内外公共施設および松園地区配布、約1,600部)、②新聞広告(岩手日報ぼらん 朝日新聞)、その他各事業別ちらし (随時) 等。

b. その他の公所 ①教育記者クラブ、②日博協、③全科協、④県観光協会、⑤盛岡観光コンベンション協会 等。

c. 新聞各社への情報 胆江日日新聞、デーリー東北、東海新報、盛岡タイムス、秋田魁新報 等。

d. ミニコミ誌等 acute、Amuse、vivitto、マ・シェリ、游悠、rakra 等。

#### (ウ) 博物館公式ホームページの運営

岩手県立博物館公式ホームページ

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

公式ホームページは、平成13年3月1日に正式公開された。平成24年度末に委託製作によりデザインを刷新し、またウェブサーバのcgiプログラムを介して内容を更新できるシステムを導入することにより、更新頻度を高めた。平成26年度は、年度当初にURLが変更された影響などにより、トップペー

ジの閲覧回数が53,657回と前年度より大幅に減少した。閲覧回数は特に8月に多く、冬に少ない傾向はこれまでと同様である(図)。その他のページでは、博物館の概要、展示室案内、展覧会案内のページの閲覧回数が多かった。

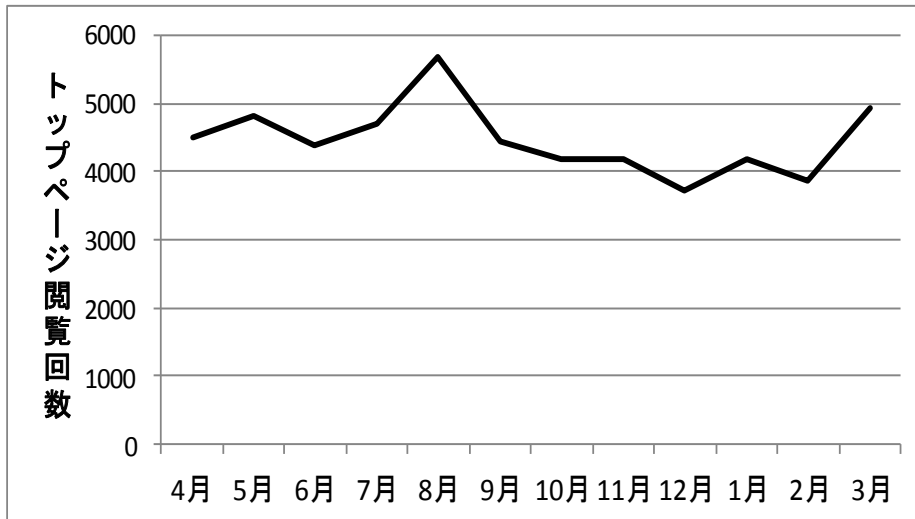


図 トップページの月別閲覧回数 (平成26年度)

## イ. 情報機器の管理

平成26年度は、大判インクジェットプリンター、カラーレーザープリンター各1台のを更新した。また、OS Windows XPのサポート終了に伴い、共用デスクトップパソコン3台をWindows7のノートパソコンに入れ替えた。

## ウ. 委員会等職員派遣

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
1	5月4日	大津波被災文化財修復技術連携プロジェクト実行委員会	プロジェクト会議	平成26年度事業内容の検討・策定	赤沼英男
2	5月17日	大津波被災文化財修復技術連携プロジェクト実行委員会	プロジェクト会議	平成26年度事業内容の検討・策定	赤沼英男 鈴木まほろ
3	6月11日	岩手県環境生活部環境保全課	第29回岩手県環境審議会		鈴木まほろ
4	6月25日	八幡平市教育委員会	第1回八幡平市博物館協議会		鎌田勉
5	7月1日	平成26年度第一回橋野高炉跡史跡整備検討委員会	釜石市教育委員会	世界遺産登録に向けた準備について	赤沼英男

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
6	7月8日	大津波被災文化財修復技術連携プロジェクト実行委員会	プロジェクト会議	第一回ワークショップの検討等	赤沼英男 鈴木まほろ
7	8月28日	東京国立博物館	東京国立博物館列品修理請負選定委員会	平成25年度列品修理機関の選定	赤沼英男
8	9月29日	金ケ崎町	第1回生物多様性地域戦略策定に係る検討委員会		鈴木まほろ
9	10月6日	花巻市教育委員会	石鳩岡神楽、土沢神楽調査事業の方針会議	国記録選択文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」の調査計画の策定	川向富貴子
10	10月9日	復興局	震災関連資料収集保存検討連絡会議出席	震災関連資料の収集方針に係る協議	赤沼英男
11	10月23日	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会現地調査		鈴木まほろ
12	10月25日	岩手県高等学校総合文化祭郷土芸能専門部事務局	全国高等学校総合文化祭郷土芸能発表会審査員	高校生による演舞発表の審査	川向富貴子
13	10月27日	金ケ崎町	第2回生物多様性地域戦略策定に係る検討委員会		鈴木まほろ
14	10月28日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境審議会自然・鳥獣部会		鈴木まほろ
15	11月13日	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会現地調査		鈴木まほろ
16	11月18日	岩手県環境生活部環境保全課	岩手県環境影響評価技術審査会		鈴木まほろ
17	11月26日	釜石市教育委員会	平成26年度第2回岩手県釜石市橋野高炉跡整備検討委員会	平成26年度整備状況及び世界遺産登録に向けた取り組み状況	赤沼英男
18	12月1日	金ケ崎町	第3回生物多様性地域戦略策定に係る検討委員会		鈴木まほろ

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
19	12月1日	岩手県高等学校教育研究会理科部会並びに岩手県高等学校文化連盟自然科学専門部	第61回岩手県高等学校理科研究発表会並びに第37回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会審査員	高校生による研究発表の事前審査	渡辺修二
20	12月4日	岩手県環境生活部自然保護課	早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会		鈴木まほろ
21	12月10日	岩手県高等学校教育研究会理科部会並びに岩手県高等学校文化連盟自然科学専門部	第61回岩手県高等学校理科研究発表会並びに第37回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会審査員	高校生による研究発表の審査	渡辺修二
22	12月13日	日本生態学会東北地区会	日本生態学会東北地区会第59回大会 地区委員会		鈴木まほろ
23	1月30日	花巻市教育委員会	石鳩岡神楽、土沢神楽調査事業の方針会議	国記録選択文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」の調査計画の策定	川向富貴子
24	2月2日	岩手県環境生活部環境保全課	第30回岩手県環境審議会		鈴木まほろ
25	2月3日	金ケ崎町	第5回生物多様性地域戦略策定に係る検討委員会		鈴木まほろ
26	3月17日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境審議会自然・鳥獣部会		鈴木まほろ
27	3月25日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県希少野生動植物保護検討委員会		鈴木まほろ



## 6. 文化財レスキュー活動

### (1)はじめに

岩手県立博物館では東日本大震災発災以降今日まで、岩手県太平洋沿岸部に所在し大津波で被災した博物館関係施設から救出された資料の再生に取り組んできた。救出された資料には多量の塩分をはじめ様々な物質が含有されている。資料を長期にわたり安定的に保管するためには、大津波がもたらした様々な物質を除去し、資料の劣化進行を防止するための安定化処理が不可欠である。岩手県立博物館では国公立の博物館、大学、保存科学の研究者等と連携を図りながら、救出された自然史標本、古文書、民具等の安定化処理方法を構築し、被災資料の再生に取り組んできた。

岩手県立博物館には今も安定化処理、その後続く抜本修復を待つ資料、一連の処理を終え経過観察に付している資料が約 10 万点保管されている。通常の博物館業務を実施しつつ、被災資料を効率的に処理し長期保管するためには、新たな作業場所の確保が不可欠である。そこで、文化庁並びに陸前高田市立博物館(発災以降、岩手県立博物館に最も多くの被災資料の再生を依頼している機関)と協議し、平成 26(2014)年 3 月末に岩手県立博物館敷地内に仮設作業施設(修復館)を設置し、同年 5 月 2 日から本格稼働させ今日に至っている。以下に、修復館を基軸に実施された平成 26 年度被災文化財等再生状況について述べる。

### (2)修復館での被災資料の再生

修復館は本館に併設されたクリーム色の軽量鉄骨建物(写真 1)である。一階では岩手県立博物館職員によって古文書や雑誌類の安定化処理・修復が(写真 2)、2 階では軸装類、書画、リトグラフ、油画といった絵画関係資料の修復が行われている(写真 3)。救援活動開始当初、古文書をはじめとする紙を素材とする資料が最初に館内に運び入れられたため、それらを対象に安定化処理方法構築に向けた検討が進められた。救出された資料の中から水洗可能な資料を選別し、固着する土砂の除去(除泥)、生息した真菌(カビ)や細菌の除去(除菌)、含有される塩分の除去(脱塩)が確実に施される、18 工程の処理手順が作成され、処理が施されてきた。修復館における処理ではさらに処理前、処理後の資料状態観察、乾燥後の応急修理を加味した合計 21 の工程(図 1)で処理が進められている。本館ではコンテナを使用し、厚さ 3cm 程度の古文書を 5 冊ずつ小分けして脱塩が行われたが、修復館では脱塩専用のステンレス製水槽を設置し、一度に 50 冊の古文書を脱塩できるようにした。また、脱塩効率を高めるため、水槽内にポンプを 2 台設置し、塩分が資料の周辺に滞留しないよう水槽内の水を緩やかに対流させている。



写真 1 本館に併設された修復館

修復館 2 階では平成 26 年 6 月以降、書画、日本画、水彩画、油画といった取扱いがきわめて難しく、単純な水洗では脱塩が困難な絵画関係資料の安定化処理・抜本修復が、東京国立博物館、NPO-JCP(文化財保存支援機構)から派遣していただいた保存科学、文化財修復の専門家の手によって進められてきた。いわゆる広域連携による被災文化財の再生である。描画材料が溶出する心配があるカンバス画(アクリル画)については、少量の水分をカンバスの支持体である繊維に浸み込ませた後、吸水紙やサクシオンテーブルを使い

修復館 2 階では平成 26 年 6 月以降、書画、日本画、水彩画、油画といった取扱いがきわめて難しく、単純な水洗では脱塩が困難な絵画関係資料の安定化処理・抜本修復が、東京国立博物館、NPO-JCP(文化財保存支援機構)から派遣していただいた保存科学、文化財修復の専門家の手によって進められてきた。いわゆる広域連携による被災文化財の再生である。描画材料が溶出する心配があるカンバス画(アクリル画)については、少量の水分をカンバスの支持体である繊維に浸み込ませた後、吸水紙やサクシオンテーブルを使い

吸引除去し資料中の塩分を低減する方法が試行された。措置前、措置後の資料に含有される塩化物イオン濃度を計測した結果、この方法で相当量の塩分を除去できることが確認された。今後、この方法をさらに改良し、アクリル画以上に克服すべき技術的課題が多い油画の安定化処理に応用する方法が検討されている。



写真2 一階で行われている古文書や雑誌類の安定化処理・抜本修復



写真3 二階で行われているリトグラフをはじめとする絵画の安定化処理・抜本修復

1. 水洗可能資料の選別
2. 写真撮影
3. 不織布による保護
4. 水道水による洗浄
5. 次亜塩素酸ナトリウム水溶液による洗浄
6. 水道水による脱塩処理
7. 塩化物イオン濃度の測定
8. 水道水による超音波洗浄処理
9. 精製水による超音波洗浄処理
10. 加圧水分除去
11. 自然乾燥
12. 資料点検および内部残留土砂の除去
13. 耐水紙および不織布による保護
14. 予備凍結
15. 真空凍結乾燥処理
16. 資料消毒(滅菌機によるくん蒸)
17. 資料点検および分類
18. 剥離部の応急修復
19. 修復資料のデジタル化(学術的に重要な資料)
20. 中性紙封筒および中性紙箱での保管
21. 経過観察

図1 新たに構築された古文書の安定化処理

### (3)本館における被災資料の再生

本館では昨年度に引き続き、被災民具、考古資料の安定化処理、自然史標本(植物・昆虫)の安定化処理とデータベース化が行われた。民具資料については、陸前高田市立博物館所蔵漁撈用具、釜石市教育委員会が所蔵する砲弾や歴史的建造物の扉などが安定化処理された。民具資料は、金属、木、繊維、紙など様々な素材を用いて製作されている。安定化処理に当たっては資料を構成する素材の特性に十分注意し、慎重に作業を進めなければならない。特に、除菌過程における使用痕喪失、脱塩処理過程における木部の変形や亀裂の発生を防止するため、必要に応じ次亜塩素酸ナトリウム水溶液に浸漬する時間の短縮や石膏を用いた資料固定を実施した。

考古資料については、陸前高田市に分布する縄文時代の遺跡から出土した釣り針をはじめとする資料を対象に安定化処理を行った。処理前の写真撮影後、資料表面に固着する土砂を筆や刷毛で取り除き、精製水に浸漬し脱塩した。処理が終わった資料を真空凍結乾燥器で減圧乾燥した。乾燥後、特に脆弱な資料についてはアクリル樹脂(パラロイド B72(7%アセトン溶液))を含浸した。資料点検後、処理後の外観を撮影して処理を終えた。

植物標本については、劣化した台紙の交換と一連の処理が終わった資料のデータベース化が行われた。

昆虫標本については発災時に用いられた方法と同じ方法、すなわち、少量のエタノールと過酸化水素水、数滴の界面活性剤を添加した水溶液に資料を一点一点浸漬し、除泥、除菌、脱塩を施した後、展翅台にのせ、乾燥・整形するという方法で措置が進められた。次に離れ離れになった部位を頭下で接合し、形を整えたいうえで標本箱に収納した。安定化処理が終わった資料については、データベース化した。

表1は平成26年度の処理状況をまとめたものである。紙を素材とする資料の平成25年度の処理実績は4000点であったが、平成26年度は5000点と約1.2倍に増加した。資料の素材や劣化状況が異なるため単純に数値比較することは危険であるが、修復館の設置による作業効率向上が処理点数の増加に寄与したことは間違いない。

**表1 平成26年度被災文化財等安定化処理・抜本修復・データベース化の実施状況**

	業務内容	点数		
		安定化処理・修復	デジタル画像化	分別整理
1	陸前高田市立博物館所蔵被災紙資料の修復及び長期保管業務	5000	-	-
2	陸前高田市立博物館所蔵民俗資料抜本修復保管管理業務	265	-	-
3	陸前高田市立博物館所蔵考古資料保存修復業務	247	-	-
4	陸前高田市立博物館所蔵自然史標本修復及びデータベース化(押し葉標本)業務	3000	4600	7500
5	陸前高田市立博物館所蔵自然史標本修復及びデータベース化(昆虫標本)業務	300	300	300
6	釜石市郷土資料館被災資料保存処理業務	3	-	-

#### (4)新たに確立した技術の共有

様々な専門機関の連携によって新たに考案された安定化処理技術を全国の博物館関係者と共有し普及させること、今後も続く被災文化財再生の重要性を多くの方々に理解していただくことはきわめて重要である。「活動の記録」、「技術の共有と普及」、「活動に対する理解の醸成」、この3点を活動目的に掲げ、平成26(2014)年度、岩手県立博物館を中核館とする「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」(会長中山敏(岩手県立博物館長))が結成され、文化庁が準備した「平成26年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受け、これまで構築してきた様々な素材からなる博物館資料の『安定化処理』を出版し、全国の主な博物館、図書館等に配布した。また、全国の方々の被災文化財再生の現状と課題に対する理解を深めるため、東京国立博物館(平成27年1月14日～3月14日)、兵庫県立博物館(平成27年1月10日～3月15日)、宮崎県総合博物館(平成27年1月20日～2月20日)で、被災博物館資料再生を主テーマとした企画展を開催した(写真4)。平成26年8月1日には、被災地における技術支援を目的として、岩手県陸前高田市仮設陸前高田市立博物館において「紙の安定化処理」、「民具の安定化処理」、「繊維資料の安定化処理」、「植物標本の安定化処理」、「音の再生」をテーマにしたワークショップを実施した。さらに博物館関係者への技術普及を図るため、日本博物館協会全国大会



**写真4 兵庫県立歴史博物館における展示風景(写真は兵庫県立歴史博物館提供)**

開催に合わせ平成 26 年 11 月 21 日に三重県立美術館で、平成 27 年 1 月 16 日に兵庫県立歴史博物館、平成 27 年 1 月 23 日宮崎県総合博物館、平成 27 年 1 月 30 日東京芸術大学でワークショップを行った(写真 5)。参加者からは非常に好評で、「被災地における博物館資料再生の難しさを改めて認識した」という感想が示された。

東日本大震災発災から 4 年目に当たる平成 27 年 3 月 11 日、東京文化財研究所講堂で、東京国立博物館・プロジェクト実行委員会による講演会とシンポジウムが開催された。プロジェクト実行委員会長の挨拶の後、作家の京極夏彦氏、NHK 解説委員の柳澤伊佐男氏をお招きし、それぞれ「未来を生み出すのは過去である」、「大規模災害から地域の歴史文化を守るために～文化財レスキューの取材を通じて～」という演題で基調講演を行っていただいた。基調講演の後に実施されたパネルディスカッションでは「文化を守る絆」をテーマに、東京国立博物館保存修復課長・神庭信幸氏のコーディネ



写真 5 宮崎県総合博物館でのワークショップ (写真は宮崎県総合博物館提供)

ネートで、岩手県沿岸部の中でも特に深刻な被害を受けた陸前高田市立博物館の救援活動に従事した 5 名の博物館関係者によって、文化財の救出と再生に関する活発な意見交換が行われた。

14時46分から一分間の黙祷の後、震災後太平洋を渡り米国に漂着した、岩手県立高田高等学校実習船『かもめ』の保全と引き渡しに尽力された、ハンブルト大学津波研究センター、ロリー・デングラー教授、デルノーテ高等学校、コリーン・パーカー前校長、そして岩手県立高田高等学校、横田 昭彦校長から震災を克服し形成された「太平洋を越えた絆」の重要性が、ビデオメッセージの形で紹介された。

## (5)おわりに

岩手県では陸前高田市に限っても未だ 30 万強の資料が安定化処理を待っている。岩手県立博物館ではこれまでの広域連携機能を一層強化し、上記プロジェクトの活動と連動しながら被災資料の再生、被災地における博物館機能再生への支援、そして新たな大規模自然災害への対応を視野に入れた様々な活動に取り組むことにしている。皆様にはこれまでと同様のご支援をお願いしたい。

## 7. 岩手県立博物館友の会

### (1)概要

本年度は、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン（講演会）」など多彩な事業を実施した。現地見学会の考古学セミナー「比爪の館を歩く」は大盛況であった。「伊豆半島の歴史と文化を巡る」は参加者が催行定員に達せず中止となった。また、被災文化財レスキュー活動に数名の会員の方がボランティアとして従事している。近年、高齢化が進み会員数は減少傾向にある。それともなって財政的にも苦しい状況が続き長年据え置きになっていた会費の値上げをせざるを得ない状況にあり、会員の皆様のご協力をいただく事となった。友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

### (2)会員数

平成 26 年度	383 件	625 人
一般会員	226 人	(平成 25 年度 217 人)
家族会員	114 件・356 人	(平成 25 年度 121 件・357 人)
小中高会員	0 人	(平成 25 年度 0 人)
終身会員	25 人	(平成 25 年度 27 人)
賛助会員	18 件・29 口	(平成 25 年度 18 件・29 口)

### (3)主催事業

#### ア. 現地見学会

##### (ア)第 1 回 「考古学セミナー」博物館行事に参加

紫波町南日詰 4 月 29 日（火・祝） 参加者 31 人

講師 県博主任専門学芸員 羽柴直人氏

##### (イ)第 2 回 「伊豆半島の歴史と文化を巡る」

10 月 29 日（水）～10 月 31 日（金） 催行定員に達せず中止

#### イ. 野外観察会

##### (ア)第 1 回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「昆虫観察会 網張温泉自然観察の森」 6 月 29 日（日） 参加者 15 人

講師 元県農業試験場研究員 千葉武勝氏

##### (イ)第 2 回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「一戸町根反川沿いの桂化木地帯を歩く」

一戸町根反川流域・御所野縄文公園 7 月 6 日（日） 参加者 22 人

講師 岩手県立盛岡第三高等学校講師 杉山了三氏

御所野縄文博物館館長 高田和徳氏

##### (ウ)第 3 回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「シカに食べられる森」 気仙郡住田町 9 月 27 日（土） 参加者 23 人

講師 県博専門学芸員 鈴木まほろ氏

##### (エ)第 4 回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「ペルム期の陸前高田市の海の生物を観る」

陸前高田市矢作町 飯森沢上流 10月5日(日) 参加者 27人

講師 東北大学総合学術博物館協力研究員 永広昌之氏

## ウ. 話のサロン (講演会)

### (ア)第1回「入夷入満説から成吉思汗まで—源義経伝説の究極—」(「集い」と兼ねる)

博物館教室 5月10日(土) 参加者 54人

講師 元岩手県立博物館館長 金野静一氏

### (イ)第2回「エクスカーション「奥州」 ～3コースで「奥州」を探る～」(県博日曜講座)

博物館講堂 8月24日(日) 参加者 38人

講師 岩手県立博物館館長 中山敏氏

### (ウ)第3回「北奥の兵(つわもの)ども—古代末期の北東北—」

博物館教室 11月16日(日) 参加者 32人

講師 岩手大学 八木光則氏

### (エ)第4回「太平洋からみた古代・中世の陸奥国の歴史」

博物館講堂 27年2月8日(日) 参加者 66人

講師 岩手県立盛岡第一高等学校教諭 目時和哉氏

## エ. 「集い」(総会)「第1回話のサロン」と兼ねる

博物館教室 5月10日(土)

## オ. 会報発行等

### (ア)「友の会会報」発行 (A4版8頁、500部)

4回(№96~99)発行 (4,7,10,2の各月)

### (イ)「友の会通信」発行 (A4版両面刷り2頁、500部)

4回(№101~104)発行 (6,9,12,3の各月)

### (ウ)「岩手県立博物館だより」発送

年4回発送(№141~144)(6,9,12,3の各月)

### (エ)「岩手県立博物館行事案内」発送

年2回(4,9各月)

### (オ)県博の行事等の案内、要項を年9回開催の友の会企画委員会で随時発送。

### (カ)ボランティア活動

「文化財レスキュー」被災標本・古文書などのレスキュー ボランティア募集したところ会員数名が、現在被災標本のカビ等を洗浄・除去、乾燥・整理などの活動に従事している。

## カ. 博物館事業への協力

県博日曜講座の一部を博物館行事への参加とし、博物館まつりの昔遊びでは企画委員のほかに数名の会員の協力を得て、いろいろな昔遊びを子供たちと一緒に遊び指導することができた。

## 8. 博物館入館者利用状況

### 開館以来の入館者数（総利用人数）

年度	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
昭55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平20	25,287	836	14,858	40,981	302	136
平21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
平25	25,006	960	18,244	44,210	303	146
平26	19,181	1,227	12,438	32,846	303	108
総計	1,741,628	193,034	793,274	2,727,936	10,293	265
平均	49,761	5,515	22,665	77,941	294	265

### 平成26年度月別入館者数

区分 月	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
4	1,863	155	892	2,910	27	108
5	1,970	125	1,073	3,168	27	117
6	1,331	129	914	2,374	25	95
7	2,198	57	1,013	3,268	27	121
8	2,908	187	1,413	4,508	29	155
9	1,879	62	2,256	4,197	17	247
10	1,149	135	939	2,223	27	82
11	1,664	206	1,137	3,007	26	116
12	627	44	545	1,216	24	51
1	1,107	54	789	1,950	24	81
2	1,159	14	639	1,812	24	76
3	1,326	59	828	2,213	26	85
計	19,181	1,227	12,438	32,846	303	111

## 開館以来の入館者数（利用区分別）

区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
昭 55	69,259	4,275	16,657	90,191	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭 56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭 57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭 58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭 59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭 60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭 61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭 62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭 63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平 2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平 3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平 4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平 5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平 6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平 7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平 8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平 9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平 10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平 11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平 12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平 13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平 14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766
平 15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平 16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平 17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平 18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平 19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平 20	14,317	511	6,928	21,756	1,822	71	320	2,213	9,148	254	7,610	17,012
平 21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平 22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平 23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平 24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
平 25	14,799	532	9,106	24,437	1,169	230	638	2,037	9,038	198	8,500	17,736
平 26	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950
総計	1,019,294	53,225	275,095	1,347,614	436,225	15,491	38,310	490,026	286,109	124,318	479,869	890,296
平均	29,123	1,521	7,860	38,503	12,464	443	1,095	14,001	8,175	3,552	13,711	25,437

## 平成 26 年度月別入館者数（利用区分別）

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
4	1,149	40	628	1,817	108	114	0	222	606	1	264	871
5	1,256	59	570	1,885	47	52	0	99	667	14	503	1,184
6	675	67	377	1,119	125	61	29	215	531	1	508	1,040
7	1,126	56	515	1,697	226	0	51	277	846	1	447	1,294
8	1,905	89	1,138	3,132	125	1	24	150	878	97	251	1,226
9	758	31	552	1,341	1	0	0	1	1,120	31	1,704	2,855
10	697	28	333	1,058	127	0	0	127	325	107	606	1,038
11	834	39	470	1,343	57	19	0	76	773	148	667	1,588
12	326	14	239	579	20	0	0	20	281	30	306	617
1	660	53	457	1,170	0	0	0	0	447	1	332	780
2	616	13	333	962	25	0	0	25	518	1	306	825
3	926	49	606	1,581	0	0	0	0	400	10	222	632
計	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950

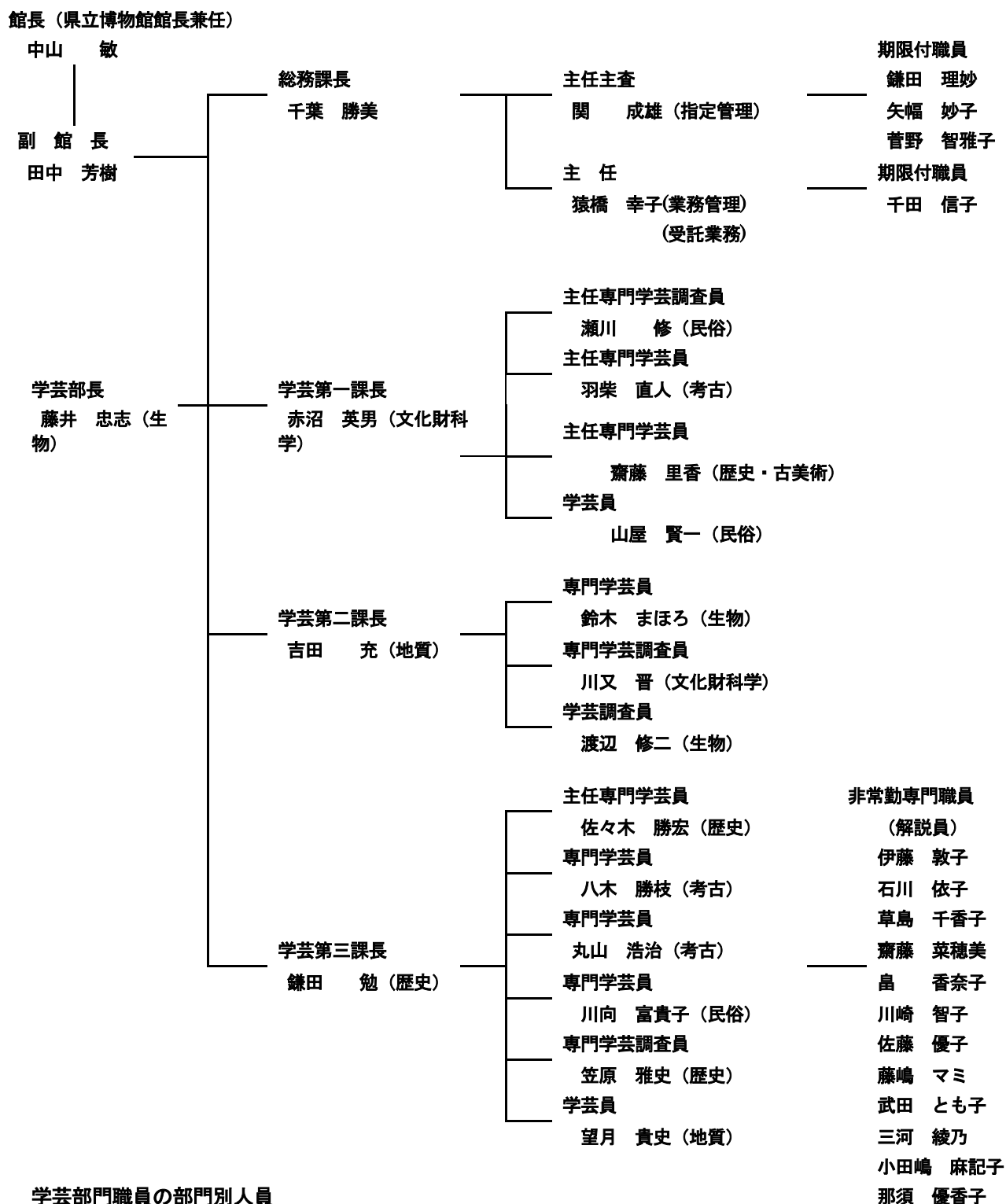
教育普及事業参加人数 12,009 人

移動展入館者数 1,757 人

平成 26 年度総利用者数 46,612 人



## 9. 平成26年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織図



学芸部門職員の部門別人員

地質	考古	歴史	民俗	生物	古美術	文化財科学	計
2人	3人	4人	3人	3人	(1)人	2人	17(1)人

## 10. 岩手県立博物館使命書

(平成 20 年 3 月 25 日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5 億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史の変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

### 1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

### 2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

### 3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

## 11. 関係条例・規則等

### (1) 博物館条例

昭和 55 年 7 月 15 日条例第 41 号

(設置)

第 1 条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第 1 条の 2 博物館の管理は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第 1 条の 3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第 2 条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第 1 項の許可に条件を付することができる。

第 3 条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第 3 項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第 3 項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第 4 条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。
- (2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。
- (3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。
- (4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をすること。
- (5) 立入禁止区域に立ち入ること。

(入館許可の取消し等)

第 5 条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第 2 条第 1 項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第 3 項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例の規定による処分に違反したとき。

- (2) 第2条第3項の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他の不正な手段により第2条第1項の許可を受けたとき。
- (4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。
- (5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第3条第1項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第3項」とあり、及び「第2条第3項」とあるのは「第3条第2項において読み替えて準用する第2条第3項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第6条 第2条第1項の許可を受けた者（以下「入館者」という。）は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第7条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

- (1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。
- (2) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。
- (3) その他知事が適当と認めるとき。

(入館料の不還付)

第8条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することがある。

- (1) 第5条第1項第4号又は第5号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。
- (2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。
- (3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(損害賠償等)

第9条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

(博物館協議会)

第10条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第 11 条 この条例の実施に関し、第 6 条から第 9 条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別表 (第 6 条関係)

区 分	個 人	20 人以上の団体
学生	140 円	1 人につき 70 円
一般	310 円	1 人につき 140 円

備考1 特別な資料を展示した場合において、その資料を観覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額 (以下「特別入館料」という。) を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料 (特別入館料を除く。) は、無料とする。

## (2)博物館条例施行規則

昭和 55 年 9 月 26 日

規則第 78 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、博物館条例 (昭和 55 年岩手県条例第 41 号。以下「条例」という。) の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(領収書)

第 2 条 条例第 6 条第 1 項に規定する入館料の領収書については、岩手県立博物館管理運営規則 (昭和 55 年岩手県教育委員会規則第 9 号) 第 4 条第 2 項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

(条例第 7 条の規則で定める者)

第 3 条 条例第 7 条第 2 号の規則で定める者は、次のとおりとする。

- (1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者 (知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児) 及びその介護を行う者
- (2) 条例第 7 条第 2 号の身体障害者手帳の交付を受けている者 (15 歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該 15 歳未満の者) 若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者 (知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児) と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者
- (3) 条例第 7 条第 2 号の身体障害者手帳の交付を受けている者 (15 歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該 15 歳未満の者) 又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の介護を行う者

(入館料の免除及び還付)

第 4 条 条例第 7 条又は第 8 条の規定により入館料の免除又は還付を受けようとする者 (以下「申請者」という。) は、別に定める様式による入館料免除 (還付) 申請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が別に定める場合にあっては、この限りではない。

2 知事は、前項の入館料免除 (還付) 申請書を受理したときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付するこ

とを適当と認めるときは、別に定める様式による入館料免除（還付）承認書を申請者に交付するものとする。

附 則（平成21年3月13日規則第7号）

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱いに関する規則及び美術館条例施行規則（以下「県立学校授業料等条例施行規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

### (3)岩手県立博物館管理運営規則

昭和 55 年 9 月 26 日

教育委員会規則第 9 号

（趣旨）

第 1 条 この規則は、岩手県立博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（休館日）

第 2 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の日であって当該休日に最も近い休日でない日）
- (2) 資料整理日（資料の整理、点検等を行う 9 月 1 日から 9 月 10 日までの 10 日間をいう。）
- (3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで

2.博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）第 1 条の 2 に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、必要があると認めるときは、博物館の館長（以下「博物館長」という。）の承認を得て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。

（開館時間）

第 3 条 博物館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分までとする。ただし、入館時間は、午後 4 時までとする。

2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変更することができる。

（入館許可の申請）

第 4 条 条例第 2 条第 1 項の規定による許可を受けようとする者は、指定管理者が定めるところにより申請しなければならない。

2 指定管理者は、条例第 2 条第 1 項の規定による許可をしたときは、指定管理者が別に定める入館券を交付するものとする。

（撮影、貸出等の許可）

第 5 条 条例第 3 条第 1 項の規定による許可を受けよう

とする者は、別に定める様式による資料撮影等許可（変更）申請書又は別に定める様式による資料貸出許可（変更）申請書を博物館長に提出しなければならない。

2 博物館長は、条例第 3 条第 1 項の規定による許可をしたときは、別に定める様式による資料撮影等許可書又は別に

定める様式による資料貸出許可書を交付するものとする。

3 資料の貸出期間は、30日以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めるときは、その期間を延長することができる。

4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷し、又は亡失したときは、速やかに、別に定める様式による資料汚損（損傷、亡失）報告書を博物館長に提出し、その指示を受けなければならない。

（汚損等の届出）

第6条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

（協議会の所掌）

第7条 条例第10条の規定による岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議するとともに、博物館長に対して意見を述べることができる。

(1) 資料の収集、保管、展示等に関すること。

(2) 資料の調査研究、利用等に関すること。

(3) その他博物館の運営に関すること。

（会長）

第8条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第9条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（補則）

第10条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則（平成21年3月6日教育委員会規則第2号）

1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。

2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続に関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる廃止前の岩手県教育委員会の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則（以下「岩手県教育職員免許状に関する規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書等については、なお従前の例による。

3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる

## 平成 26 年度岩手県立博物館年報

平成 27 年 5 月 31 日

編 集： 岩 手 県 立 博 物 館

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34

Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214

発 行： 公益財団法人岩手県文化振興事業団

〒020-0023 盛岡市内丸 13-1

Tel 019-654-2235